

平成 23 年度
小規模開発関連発掘調査報告書

平成 23 年度
小規模開発関連発掘調査報告書

滋賀県長浜市教育委員会
2012・12

2012・12
滋賀県長浜市教育委員会

平成 23 年度

小規模開発関連発掘調査報告書

2012・12

滋賀県長浜市教育委員会

序 文

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、近畿・北陸・東海の交通の要衝にあたり、古くよりこの3地域を中心とした様々な文化が織り成す、数多くの文化遺産があることで知られています。これらの先人たちが残した文化遺産は、市民だけではなく、広く多くの人びとに開かれた共有の財産であります。

私たちの生きる現代は、物や情報があふれ、大変豊かで便利な時代である反面、自然や物の大切さ、伝統や歴史を重んじる心などが希薄になりつつある時代であるといえます。

このような時代に生きる私たちであるからこそ、先人たちの築いてきた歴史や文化を見つめなおし、その中に生きる先人たちの知恵を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

長浜市教育委員会では、これらを現代に生かし、なおかつ未来に向けて末永く伝え残していくため、文化財の保護・活用・啓発などに日々努めております。

本報告書は、平成23年度に長浜市において実施された発掘調査の報告書です。対象となる事業は、個人住宅に伴う本発掘調査、試掘調査など、小規模な開発に伴うものです。

発掘調査は、ごくまれに新聞紙上を賑わすような華やかな成果を得られるときもありますが、地味で小さな成果しか得ることができない調査がほとんどです。しかし、これらの小さな成果の積み重ねこそが、郷土の歴史を明らかにする重要な作業であり、そこから得られるものは大変貴重な資料であると言えます。

今回刊行したこの報告書が、長浜市の歴史や埋蔵文化財をより深く理解していただくうえで、幾分でもご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力をいただきました地元の方々、ならびに関係機関に対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成24年12月

長浜市教育委員会
教育長 北川 貢造

例 言

1. 本書は、滋賀県長浜市において、平成 23 年度に、国庫・県費補助によって行われた発掘調査報告書である。

対象となる調査事業は、個人住宅建築に伴う本発掘調査、および開発事業に伴う試掘調査である。

2. 本事業の調査主体は長浜市教育委員会である。調査体制は以下のとおりである。

平成 23 年度

長浜市教育委員会	教 育 長	伊藤 宏太郎
	教育部長	江畑 平夫
教 育 総 務 課	課 長	江畑 仁資
文化財保護センター	所 長	森口 訓男
	副 参 事	黒坂 秀樹
	主 幹	山本 孝行
	主 幹	池寄 陽一
	主 査	沢村 治郎
	主 査	牛谷 好伸

平成 24 年度

長浜市教育委員会	教 育 長	北川 貢造
	教育部長	
教 育 総 務 課	課 長	中井 正彦
文化財保護センター	所 長	森口 訓男
	副 参 事	黒坂 秀樹
	主 幹	尾崎 好則
	主 幹	池寄 陽一
	主 査	沢村 治郎
	主 査	牛谷 好伸

3. 本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度である。

4. 遺物や写真、図面等については、長浜市教育委員会が保管している。

5. 本書の執筆、編集は山本・池寄が行った。

目 次

序文・例言・目次

第1章 本発掘調査	1
第1節 長浜市の位置と環境	1
第2節 高月南遺跡第34次（N2011154）、35次（N2011163）、36次（N2011166）、38次（N2011183） 発掘調査	2
1. 調査の経過	2
（1）調査にいたる経緯	2
（2）発掘作業の経過	3
（3）整理等作業の経過	3
2. 遺跡の位置と環境	4
（1）地理的環境	4
（2）歴史的環境	4
3. 調査の方法と成果	5
（1）調査の方法	5
（2）層序	5
（3）発掘調査	6
①高月南遺跡第34次発掘調査（N2011154）	8
遺構	9
遺物	10
②高月南遺跡第35次発掘調査（N2011163）	11
遺構	11
遺物	12
③高月南遺跡第36次発掘調査（N2011166）	13
遺構	13
遺物	14
④高月南遺跡第38次発掘調査（N2011183）	16
遺構	16
（4）総括	18
第3節 渡岸寺遺跡第15次発掘調査（N2011115）	19
1. 調査の経過	19
（1）調査にいたる経緯	19
（2）発掘作業の経過	19
（3）整理等作業の経過	19
2. 遺跡の位置と環境	20
（1）地理的環境	20
（2）歴史的環境	20
3. 調査の方法と成果	21
（1）調査の方法	21
（2）層序	21
（3）発掘調査	22
遺構	22
遺物	38
（4）総括	40
第4節 列見城遺跡第7次発掘調査（N2011146）	41
1. 調査の経過	41
（1）調査にいたる経緯	41
（2）発掘作業の経過	41
（3）整理等作業の経過	41
2. 遺跡の位置と環境	42

(1) 地理的環境	42
(2) 歴史的環境	42
3. 調査の方法と成果	43
(1) 調査の方法	43
(2) 層序	43
(3) 発掘調査	44
遺構	44
遺物	46
(4) 総括	46
第5節 列見町遺跡第34次発掘調査 (N2011180)	47
1. 調査の経過	47
(1) 調査にいたる経緯	47
(2) 発掘作業の経過	47
(3) 整理等作業の経過	47
2. 遺跡の位置と環境	48
(1) 地理的環境・歴史的環境	48
3. 調査の方法と成果	48
(1) 調査の方法	48
(2) 層序	48
(3) 発掘調査	49
遺構	49
遺物	54
(4) 総括	55
第2章 試掘調査	57
安導寺遺跡第1次調査 (N2011087)	57
梅塚古墳群第3次調査 (N2011069)	57
円明寺遺跡第15次調査 (N2011166)	57
大戌亥遺跡第75次調査 (N2011126)	58
大戌亥遺跡第78次調査 (N2011191)	58
大辰巳遺跡第31次調査 (N2011071)	58
国友町遺跡第39次調査 (N2011007)	59
国友町遺跡第44次調査 (N2011149)	59
黒田遺跡第7次調査 (N2011011)	59
古鹿遺跡第2次調査 (N2011190)	60
小堀遺跡第6次調査 (N2011163)	60
下坂中町遺跡第8次調査 (N2011077)	60
十里町城遺跡第8次調査 (N2011091)	61
常住庵遺跡第6次調査 (N2011050)	61
大円寺遺跡第7次調査 (N2011087)	61
高木遺跡第5次調査 (N2011006)	62
塚町遺跡第62次調査 (N2011005)	62
塚町遺跡第63次調査 (N2011094)	62
塚町遺跡第64次調査 (N2011152)	63
寺元遺跡第4次調査 (N2011144)	63
渡岸寺遺跡第15次調査 (N2011015)	63
渡岸寺遺跡第17次調査 (N2011070)	64
長浜城遺跡第215次調査 (N2011009)	64
長浜城遺跡第216次調査 (N2011025)	64
長浜城遺跡第217次調査 (N2011112)	65
長浜城遺跡第218次調査 (N2011039)	65
長浜城遺跡第219次調査 (N2011046)	65

長浜城遺跡第 222 次調査 (N2011063)	66
長浜城遺跡第 224 次調査 (N2011085)	66
長浜城遺跡第 231 次調査 (N2011170)	66
長浜城遺跡第 220 次調査・南呉服町遺跡第 11 次調査 (N2011059)	67
長浜町遺跡第 124 次調査 (N2011021)	67
中町田遺跡第 16 次調査 (N2011110)	67
中町田遺跡第 17 次調査 (N2011111)	68
西野城遺跡第 1 次調査 (N2011053)	68
野瀬遺跡第 43 次調査 (N2011145)	68
野田館遺跡第 1 次調査 (N2011013)	69
三田遺跡第 4 次調査 (N2011014)	69
宮司遺跡第 85 次調査 (N2011178)	69
山階遺跡第 12 次調査 (N2011038)	70
列見城遺跡第 7 次調査 (N2011146)	70
列見町遺跡第 34 次調査 (N2011180)	70

表目次

第 1 表 高月南遺跡 土色・土質一覧 (1)	6
第 2 表 高月南遺跡 土色・土質一覧 (2)	7
第 3 表 高月南遺跡第 34 次発掘調査 出土遺物観察表	10
第 4 表 高月南遺跡第 35 次発掘調査 出土遺物観察表	12
第 5 表 高月南遺跡第 36 次発掘調査 出土遺物観察表	15
第 6 表 渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査 土色・土質一覧	21
第 7 表 渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査 出土遺物観察表	39
第 8 表 列見城遺跡第 7 次発掘調査 土色・土質一覧	44
第 9 表 列見城遺跡第 7 次発掘調査 出土遺物観察表	46
第 10 表 列見町遺跡第 34 次発掘調査 土色・土質一覧	50
第 11 表 列見町遺跡第 34 次発掘調査 出土遺物観察表	54

挿図目次

第 1 図 長浜市の位置	1
第 2 図 長浜市周辺の地形	1
第 3 図 高月南遺跡第 32 次調査位置図	2
第 4 図 高月南遺跡トレンチ配置図	3
第 5 図 高月南遺跡と周辺の遺跡	4
第 6 図 高月南遺跡第 32 次調査 トレンチ 1 東壁断面図	6
第 7 図 高月南遺跡第 34 次発掘調査 調査区平面図	8
第 8 図 S Z 1 断面図	9
第 9 図 S K 1 平面・断面図	9
第 10 図 ピット断面図 (1)	9
第 11 図 ピット断面図 (2)	10
第 12 図 高月南遺跡第 34 次発掘調査出土遺物	10
第 13 図 高月南遺跡第 35 次発掘調査トレンチ 1 平面図	11
第 14 図 S D 1 断面図	11
第 15 図 S D 2 断面図	12
第 16 図 高月南遺跡第 35 次発掘調査出土遺物	12
第 17 図 高月南遺跡第 36 次発掘調査トレンチ 1 平面図	13
第 18 図 S Z 1・S D 2 断面図	13
第 19 図 S Z 2 断面図	14
第 20 図 S D 1 断面図	14
第 21 図 高月南遺跡第 36 次発掘調査出土遺物	14

第 22 図	高月南遺跡第 38 次発掘調査トレンチ 1 平面図	16
第 23 図	S K 1 断面図	17
第 24 図	S K 2 断面図	17
第 25 図	S K 3 断面図	17
第 26 図	S K 4 断面図	17
第 27 図	ピット断面図	18
第 28 図	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査位置図	19
第 29 図	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査 トレンチ配置図	19
第 30 図	渡岸寺遺跡と周辺の遺跡	20
第 31 図	調査区壁面図	21
第 32 図	渡岸寺遺跡第 15 次調査 調査区平面図	22
第 33 図	S B 1 平面・断面図	23
第 34 図	S B 2 平面・断面図	24
第 35 図	S B 3 平面・断面図	24
第 36 図	S B 4 平面・断面図	24
第 37 図	S B 5 平面・断面図	25
第 38 図	S B 6 平面・断面図	25
第 39 図	S B 7 平面・断面図	25
第 40 図	S B 8 平面・断面図	26
第 41 図	S B 9 平面・断面図	26
第 42 図	S I 1 平面・断面図	27
第 43 図	S K 1 平面・断面図	27
第 44 図	S K 2 平面・断面図	27
第 45 図	S K 3 平面・断面図	28
第 46 図	S K 4・5 平面・断面図	28
第 47 図	S K 6 平面・断面図	29
第 48 図	S K 7 平面・断面図	29
第 49 図	S K 8 平面・断面図	29
第 50 図	S K 9 平面・断面図	30
第 51 図	S D 1～6 断面図	31
第 52 図	S P 断面図 (1)	31
第 53 図	S P 断面図 (2)	32
第 54 図	S P 断面図 (3)	33
第 55 図	S P 断面図 (4)	34
第 56 図	S P 断面図 (5)	35
第 57 図	S P 断面図 (6)	36
第 58 図	S X 1 平面・断面図	36
第 59 図	S X 2 平面・断面図	37
第 60 図	S X 3 平面・断面図	37
第 61 図	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査 出土遺物	38
第 62 図	調査区位置図	41
第 63 図	トレンチ配置図	41
第 64 図	列見城遺跡と周辺の遺跡	42
第 65 図	調査区壁面図	43
第 66 図	調査区平面図	44
第 67 図	S D 1 断面図	45
第 68 図	S D 2 断面図	45
第 69 図	S D 3 断面図	45
第 70 図	S D 4 断面図	45
第 71 図	列見城遺跡第 7 次発掘調査出土遺物	46
第 72 図	列見町遺跡第 34 次発掘調査 トレンチ配置図	47
第 73 図	調査区壁面図	48
第 74 図	列見町遺跡第 34 次発掘調査 調査区壁面図	49
第 75 図	S D 1～4 断面図	50
第 76 図	S K 1 平面・断面図	51
第 77 図	S K 2 平面・断面図	51

第 78 図	S K 3 平面・断面図	52
第 79 図	S K 4 平面・断面図	52
第 80 図	S K 5 平面・断面図	52
第 81 図	ピット断面図 (1)	52
第 82 図	ピット断面図 (2)	53
第 83 図	ピット断面図 (3)	54
第 84 図	列見町遺跡第 34 次発掘調査出土遺物	54

図版目次

図版一	高月南遺跡第 34 次調査	遺構完掘状況	西から
	高月南遺跡第 35 次調査	遺構完掘状況	東から
	高月南遺跡第 35 次調査	遺物出土状況	西から
図版二	高月南遺跡第 36 次調査	遺構検出状況	西から
	高月南遺跡第 36 次調査	遺構完掘状況	西から
	高月南遺跡第 38 次調査	遺構検出状況	西から
図版三	高月南遺跡第 38 次調査	遺構完掘状況	西から
	渡岸寺遺跡第 15 次調査	遺構検出状況	西から
	渡岸寺遺跡第 15 次調査	遺構完掘状況	西から
図版四	渡岸寺遺跡第 15 次調査	S B 1 完掘状況	北から
	渡岸寺遺跡第 15 次調査	S B 2 完掘状況	北から
	渡岸寺遺跡第 15 次調査	S B 3 完掘状況	南東から
図版五	列見城遺跡第 7 次調査	遺構検出状況	南から
	列見城遺跡第 7 次調査	遺構完掘状況	南から
	列見町遺跡第 34 次調査	遺構完掘状況	西から
図版六	高月南遺跡第 34 次発掘調査出土遺物		
	高月南遺跡第 35 次発掘調査出土遺物		
	高月南遺跡第 36 次発掘調査出土遺物		
図版七	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物 (1)		
図版八	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物 (2)		
図版九	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物 (3)		
図版一〇	渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物 (4)		
	列見城遺跡第 7 次発掘調査出土遺物		
図版一一	列見町遺跡第 34 次発掘調査出土遺物		

第1章 本発掘調査

第1節 長浜市の位置と環境

今回報告する発掘調査報告書は、平成23年度に長浜市内で補助事業として実施されたすべての調査を対象としている。そのため、地理的環境については長浜市全体の概要として一括してここに記述し、遺跡ごとの歴史的環境、及び地理的環境の補足などについては、各々の調査の項目で述べることとする。

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、市域の北東部に急峻な伊吹山地が広がり、滋賀県と岐阜県との県境をなす脊稜部が金糞岳（標高1317m）から伊吹山頂上（標高1377m）に続く。

この山地を源流とする姉川、草野川、高時川、余呉川などが南北の谷を発達させながら南流し、琵琶湖との間に各河川の平野部が連合して幅5～7km程度の湖北平野を形成している。

低地と山地との境界は、断層運動が繰り返されて形成された断層崖となっている。

巨視的にみると北西から南東方向の直線状をなし、敦賀湾伊勢湾線の一部を構成する柳ヶ瀬断層や関ヶ原断層などの大規模な活断層に一致する。

河川はこの断層崖を侵食し、その前面に山地から運搬してきた土砂を谷口から放射状に堆積して扇状地性の平野を形成している。すなわち、北から余呉川、高時川、東から姉川と草野川、南端に天野川が流れ、これらの堆積作用によって平野が形成されている。

また、南東部には平野の中央に多数の孤立山塊が分布する複雑な地形が見られる。これらは山東低地と呼ばれ、関ヶ原低地帯の西部にあたっている。

気候は、主に瀬戸内海式気候に属しており、最高気温は滋賀県南部の大津と比べて大差ないが、最低

気温は日本海の湿り気を含んだ冬の季節風が琵琶湖を通り、直接伊吹山に突き当たるのでかなり低くなる。といった、日本海側の気候と同じ特色を持っている。

地質は古生層で、約2～3億年前の海底に堆積した固い地層からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。

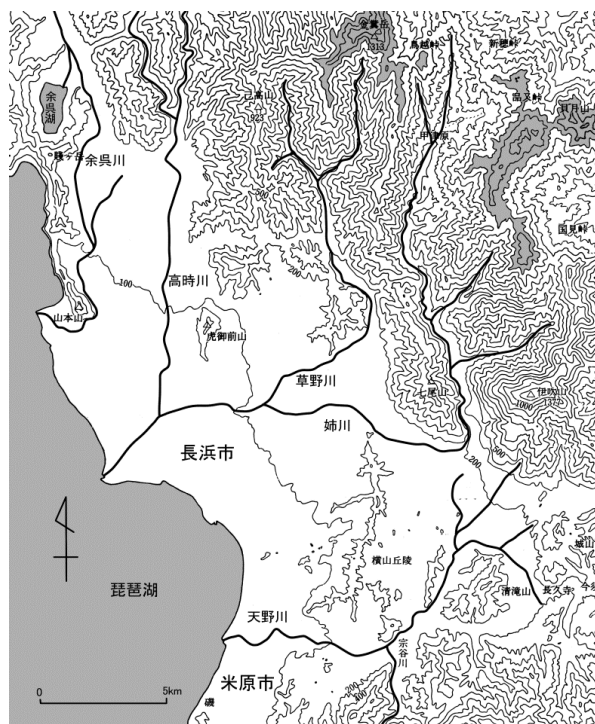
市域は東西約25km、南北約40km、琵琶湖を含めた総面積680.79k㎡で、人口は平成24年9月1日現在で44,343世帯、124,162人である。

また、市内にはJR北陸本線や、北陸自動車道、国道8号線、国道365号線が走り、近畿、東海、北陸圏域の交通の結節点として重要な位置にあたる。

歴史的に見ても、北国街道、北国脇往還、塩津街道等の古代からの幹線道路が走り、古くより交通の要衝として栄え、文化の融合する地域として知られている。



第1図 長浜市の位置



第2図 長浜市周辺の地形

第2節 高月南遺跡第34次（N2011154）、35次（N2011163）、36次（N2011166）、38次（N2011183）発掘調査

1. 調査の経過

（1）調査にいたる経緯

平成23年度に補助事業として実施した高月南遺跡の本発掘調査は4件であるが、そのすべてが高月町宇根の分譲宅地において行われた個人住宅建築に伴うものである。この区域については住宅建築に先だつ宅地造成工事に伴って、道路、擁壁部分についてすでに本発掘調査を実施している（高月南32次調査）。その調査の結果から、周辺で遺構等が検出されることが明らかであったため、いずれも試掘調査は行わず、遺跡の破壊が免れない建物部分について、当初から本発掘調査を実施することを前提として協議を行っている。

また発掘調査は、このような経緯から各々の調査区が狭小でなおかつ隣接する状態となるため、宅地分譲地全体を一つの調査区にとらえ、個々の調査区域をトレンチ（T1）として扱う形で調査を行った。本報告の体裁もそれに準じている。

ここに報告する各調査の届け出、調査期間等については、以下のとおりである。



第3図 高月南遺跡第32次調査位置図

高月南第34次発掘調査

調査対象面積 200.09 m²
調査面積 55 m²
届 出 平成23年11月29日
調査期間 平成23年12月14日～平成23年12月28日
調査担当 山本

高月南第35次発掘調査

調査対象面積 205.89 m²
調査面積 15 m²
届 出 平成23年12月9日
調査期間 平成23年12月19日～平成24年1月6日
調査担当 池寄

高月南第36次発掘調査

調査対象面積 200.59 m²
調査面積 64.5 m²
届 出 平成23年12月27日
調査期間 平成24年1月10日～平成24年1月27日
調査担当 山本

高月南第38次発掘調査

調査対象面積 198.62 m²
調査面積 25 m²
届 出 平成24年2月8日
調査期間 平成24年2月23日～平成24年3月6日
調査担当 山本

(2) 発掘作業の経過

発掘作業は、前述したとおり、いずれの調査も個人住宅新築が対象であり、調査区域が狭小であったため、一つのトレンチ（T1）として調査を実施した。

作業工程は、調査対象区域全体について、重機による遺構面直上までの掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截等、遺構完掘の順で行い、平面および断面実測などのデータ収集作業、出土遺物の取り上げや、記録写真撮影等の記録保存は、工程ごとに行った。雨天時には、出土遺物の洗浄等の暫定的な整理調査を行った。調査終了後は、埋戻しを行い原因者に引き渡した。

また、個々の作業の詳細については、3. 調査の方法と成果
(1) 調査の方法で述べることとする。

(3) 整理等作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から平成24年2月9日までの期間で実施した。

出土した遺物には全てマーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡や遺構の性格や時期等を示し得るもので、遺存状態の良いものについてピックアップした。また、可能な限り遺構毎にピックアップするよう努めた。

ピックアップした遺物については、復元作業を行った後、実測図および遺物観察表の作成を行った。

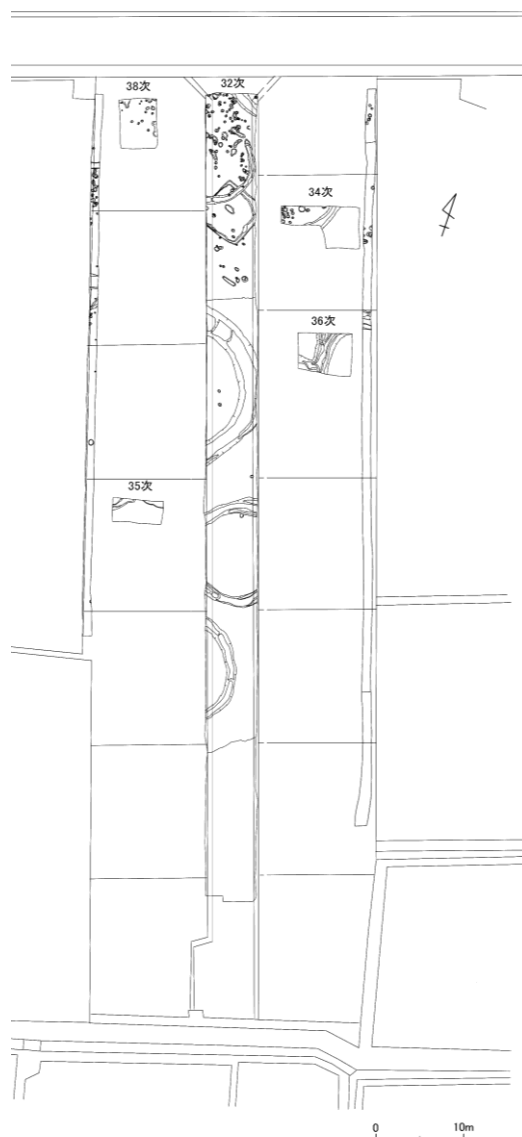
上記作業終了後に報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業、並びに写真撮影を行った。また、出土遺物の保存方法については、復元可能な遺物のうち特に軟質な物については、バインダー溶液による硬化処理を施した。

断面図については、現地調査段階で遺構断面実測の際に記入した全ての土色、および土質について、本文中で統一した番号として使用できるよう整理を行い、第1表、第2表の土色・土質一覧表としてまとめた。

現地で実測した図面は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業等を行った。

現地で撮影した写真については、作業工程毎の状況が分かるようにピックアップし、写真の内容および撮影した方向が分かるように写真図版としてまとめた。

遺物写真については、いずれの調査も遺物の出土量が少なかったため、ひとつのまとまりとして撮影を行い、最終的に写真図版としてまとめた。



第4図 高月南遺跡トレンチ配置図

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

高月南遺跡の所在する滋賀県長浜市高月町は、市域のほぼ中央部に位置しており、平成 22 年 1 月に旧西浅井町、旧余呉町、旧木之本町、旧虎姫町、旧湖北町とともに長浜市に吸収合併された。

今回発掘調査を行った高月南遺跡は、長浜市高月町高月、高月町宇根、高月町森本の 3 自治区にまたがり所在する、縄文時代後期から平安時代にかけて存在した複合遺跡として知られている。

遺跡のほぼ中央を北西から南東方向に北陸自動車道が縦断し、それに沿うように国道 8 号線がはしっている。

遺跡の北部は住宅地となっているが、東部から南東部にかけては工場などが立ち並び、それら大小の民間開発に伴う発掘調査が、昭和 59 年以降旧高月町教育委員会により実施されている。

今回実施した発掘調査は、高月南遺跡の範囲全体からみると南西部に位置している。

周辺は、もともと水田地帯であったが、国道 8 号線に近接し利便性も高いことなどから、平成 13 年度に行われた町道建設工事以降、周辺での宅地造成工事や住宅建築が盛んに行われ、現在は市街化が進んできている。

(2) 歴史的環境

高月南遺跡は、高時川右岸の微高地とそれによって形成された扇状地の南端付近に立地しており、縄文時代から平安時代にかけて存在したと考えられている。

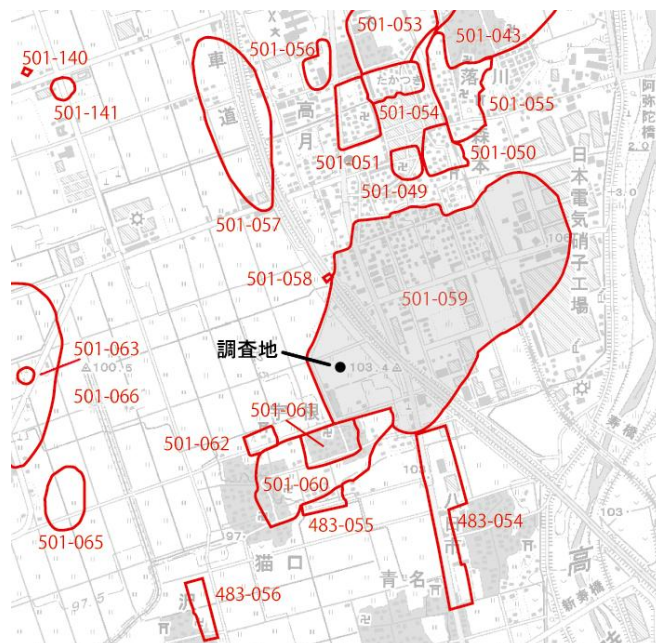
遺跡の中心部では、弥生時代以降、各時期の遺構がかなり重複してみられ、過去の調査からは、竪穴建物 450 棟以上、掘立柱建物 200 棟以上の建物群や、方形周溝墓、古墳、土坑墓、壺棺、甕棺 70 基以上の他、井戸、土坑、区画溝、溝、自然流路等が検出されている。

建物の中には、大壁造り建物や、玉作りに関係すると考えられるものや、五角形や円形を呈する竪穴建物も量的には少ないが検出されている。

注目すべき遺物としては、18 次調査等において出土した、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての玉作りに関わる遺物があり、少量ではあるが、碧玉製管玉の完形品および未製品、穿孔失敗品、剥片、砥石、玉砥石等が出土し、工房跡と見られる竪穴建物も検出している。その他にも、紡錘車形石製品や、祭祀関連と推定される、出土例の少ない古墳時代早期の鶏形土製品も出土している。

古墳時代中期から後期には、集落あるいは住居内祭祀に関わる滑石製管玉、勾玉、白玉、有孔円板、紡錘車、ガラス玉、土製模造品（鏡・手づくね土器等）、製塩土器、子持勾玉、小鍛冶に関わる炉や鉄滓等も出土している。

また、条里型地割に先行する可能性がある溝や、竪穴建物内に石敷施設を持ち、周囲に小溝



遺跡番号	遺跡名
501 059	高月南遺跡
483 054	八日市遺跡
483 055	曼陀羅堂遺跡
483 056	六坊遺跡
501 043	落川遺跡
501 049	森本観音堂遺跡
501 050	森本館遺跡
501 051	高月城遺跡
501 053	高月北遺跡
501 054	高月円通寺遺跡
501 055	大円寺遺跡
501 056	大市遺跡
501 057	狐塚大塚古墳群
501 058	栗原遺跡
501 060	宇根遺跡
501 061	宇根館遺跡
501 062	宇根春日遺跡
501 063	父塚遺跡
501 065	阿閉長塚遺跡
501 066	父塚古墳
501 140	長塚古墳
501 141	五位塚古墳

第5図 高月南遺跡と周辺の遺跡

を廻らし、玉類などの祭祀遺物が多数出土した大型建物、朝鮮半島系の大壁造建物など特徴的な遺構も多数検出されている。その他、古墳から奈良時代の大型掘立柱建物も検出されており、豪族の居館が存在する可能性がある。高月南遺跡(501-059)の所在する高時川右岸地域の周辺遺跡については、長浜市埋蔵文化財調査資料第135集『高月南遺跡 第32次発掘調査報告書』の中で触れているので参照されたい。

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

重機を使用して遺構面直上までの掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。何れの調査区も湧水等が見られ、調査に支障をきたすことが想定されたため、トレンチ内に排水のための側溝を設定した。

基本的な遺構の掘り下げ方法については、ピットは半截、掘立柱建物のコーナー部分、および土坑については四分法を、また、古墳および溝については断面観察用のセクションベルト設定し、セクションごとに掘削を行い、断面実測および写真撮影を行った後、遺構を完掘した。

遺物の取り上げ方法については、遺構、セクションおよび層位ごとに取り上げた。

また、床面から出土した遺物や完形品等については、平面実測、レベル測定、出土状況写真撮影等を行った後取り上げた。

全景写真については、可能な限り四方向から発掘調査前後の状況写真、遺構検出状況、遺構完掘状況の段階で撮影し、部分写真については、遺構毎に、検出、半截時の断面、完掘の時点で、白黒フィルムとリバーサルフィルムを用いて撮影した。

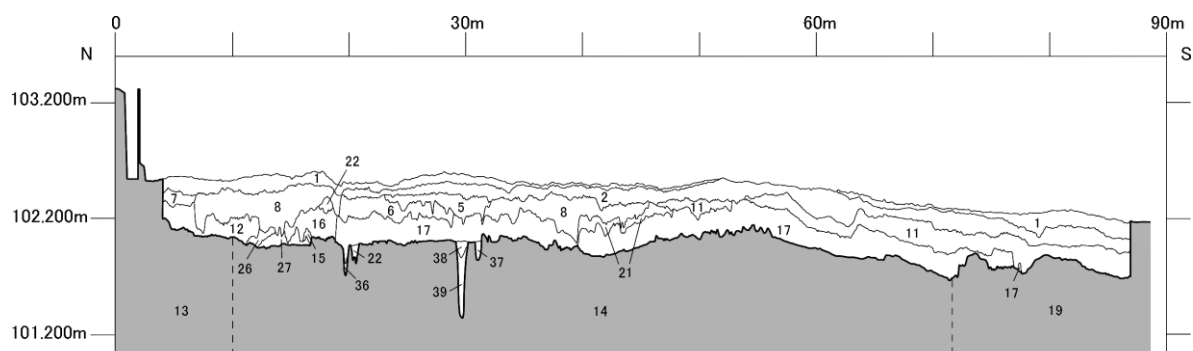
(2) 層序

今回報告する各調査は、いずれも調査範囲が狭小であり、それらの調査で得られたトレンチ断面図から、遺跡の立地する土地状況を示す資料としては不十分であると考えた。そこで、調査区全体の土層堆積状況をより良く示す資料として、高月南遺跡第32次発掘調査における、擁壁部分の断面図を掲載し高月南遺跡の基本的な土層堆積状況を報告したいと思う。但し、現状では造成工事により第1層から第4層については、造成土となっていることを断っておく。

調査区の土層は基本的に6層からなる。第1層(0～0.10m)は灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂(耕土)、第2層(0.10m～0.20m)は褐灰色(10YR5/1)極細粒砂(旧耕土)、第3層(0.20m～0.30m)黒色(7.5YR2/1)極細粒砂、第4層(0.30m～0.40m)暗褐色(7.5YR3/4)極細粒砂、第5層(0.40m～0.60m)黒褐色(7.5YR3/2)極細粒砂である。

0.60m以下で確認された地山については、位置によって変化している。

北部はにぶい黄褐色(10YR5/4)細粒シルト、中央部は褐色(7.5YR4/6)粗粒砂混極細粒砂、南部は灰色(7.5YR4/1)細粒シルトであり、地形は大きく見て、北から南に向かってなだらかに下がっていく。



第6図 高月南遺跡第32次調査 トレンチ1東壁断面図

(3) 発掘調査

第1表 高月南遺跡 土色・土質一覧 (1)

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	耕土
2	10YR5/1	褐灰色	極細粒砂	旧耕土
3	10YR2/2	黒褐色	極細粒砂	
4	10YR2/3	黒褐色	極細粒砂	
5	7.5YR2/1	黒色	極細粒砂	
6	7.5YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
7	7.5YR4/4	褐色	極細粒砂	
8	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒シルト	
9	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒シルト	
10	7.5YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
11	10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂混極細粒砂	
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒シルト	
13	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒シルト	
14	7.5YR4/6	褐色	粗粒砂混極細粒砂	地山
15	2.5Y3/1	黒褐色	極細粒砂	
16	2.5Y3/2	黒褐色	極細粒砂	
17	7.5YR3/2	黒褐色	極細粒砂	包含層
18	5Y4/1	灰色	極細粒砂	
19	7.5YR4/1	灰色	細粒シルト	
20	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
21	7.5YR4/3	褐色	極細粒砂	
22	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
23	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	極細粒砂	
24	10YR4/3	にぶい黄褐色	極細粒砂	
25	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	細粒シルト	
26	10YR4/1	褐灰色	粗粒シルト	
27	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
28	7.5Y6/1	灰色	細粒シルト	
29	7.5YR3/3	暗褐色	粗粒シルト	
30	7.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒シルト	
31	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粗粒砂混細粒シルト	
32	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
33	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	中粒砂混極細粒砂	
34	10YR4/1	褐灰色	中粒砂混極細粒砂	
35	10YR4/4	褐色	極細粒砂	
36	10YR3/4	暗褐色	中粒砂混極細粒砂	
37	5Y4/1	灰色	粗粒シルト	

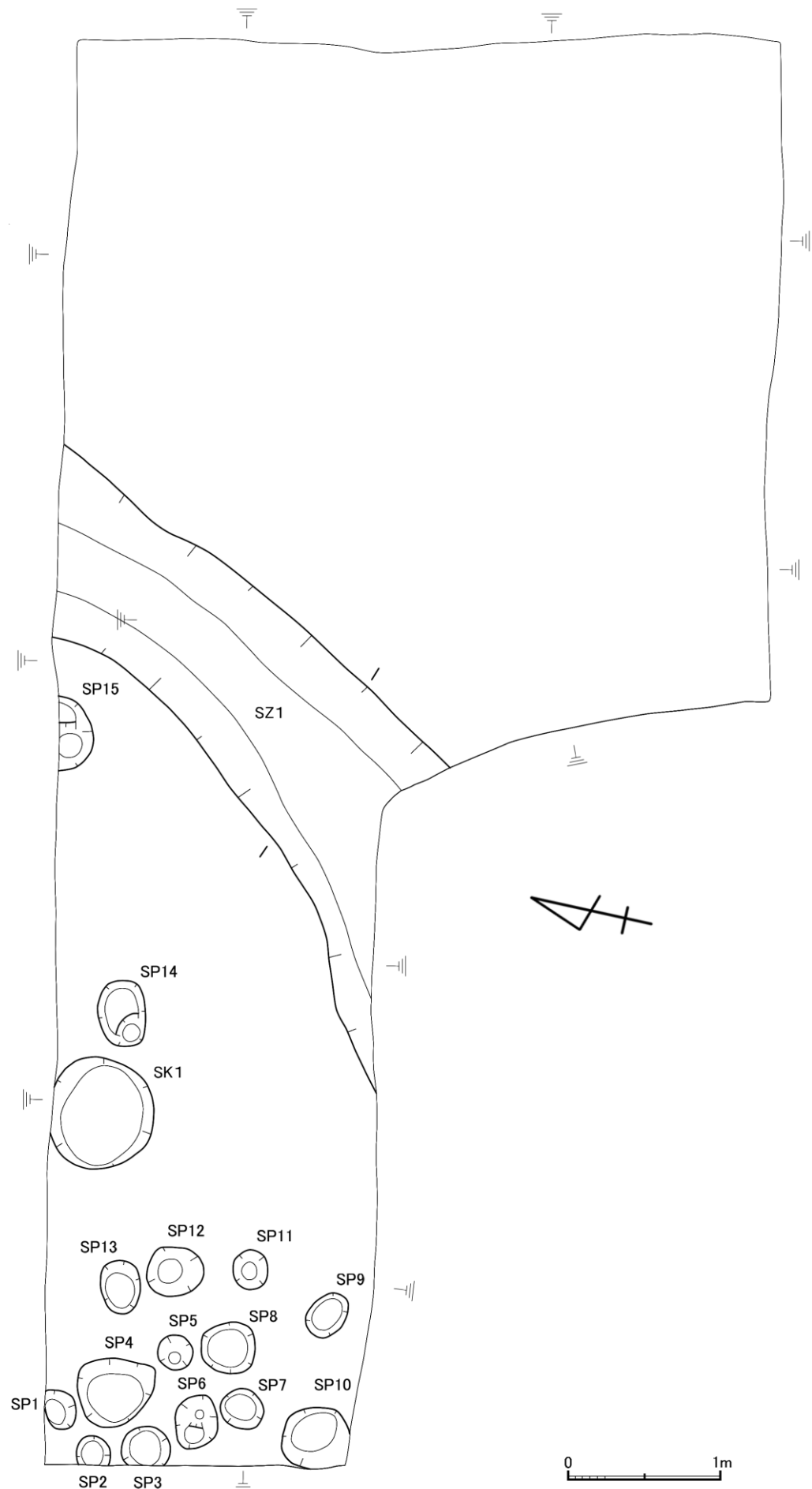
第2表 高月南遺跡 土色・土質一覧 (2)

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
38	10YR2/1	黒色	極細粒砂	
39	N3	暗灰色	極細粒砂	
40	10Y4/1	灰色	粗粒シルト	
41	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	粗粒シルト	
42	5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
43	10YR3/3	暗褐色	粗粒シルト	
44	10Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
45	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂	
46	2.5Y2/1	黒色	極細粒砂	
47	2.5GY4/1	灰オリーブ灰色	粗粒シルト	
48	2.5Y3/2	黒褐色	2.5GY4/1 灰オリーブ灰色粗粒シルト混極細粒砂	
49	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂	
50	2.5Y5/1	黄灰色	極細粒砂	
51	2.5Y4/3	オリーブ褐色	極細粒砂	
52	5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
53	5Y2/1	黒色	2.5GY3/1 灰オリーブ灰色粗粒シルト混粗粒シルト	
54	2.5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
55	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂混極細粒砂	
56	10YR3/1	黒褐色	細粒砂混・10YR4/4 褐色極細粒砂混極細粒砂	
57	2.5Y4/2	暗灰黄色	極細粒砂	
58	2.5Y4/6	オリーブ褐色	極細粒砂	
59	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂混・2.5YR4/6 赤褐色極細粒砂混極細粒砂	焼土 炭化物混じる
60	2.5Y4/4	オリーブ褐色	極細粒砂	
61	5Y4/2	灰オリーブ色	極細粒砂	
62	7.5Y4/1	灰色	7.5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂混極細粒砂	
63	7.5Y2/1	黒色	極細粒砂	
64	7.5Y4/1	灰色	5Y2/1 黒色極細粒砂混極細粒砂	
65	5Y2/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
66	10YR2/1	黒色	極細粒砂	
67	2.5Y4/1	黄灰色	極細粒砂	
68	7.5Y4/1	灰色	シルト	
69	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂混極細粒砂	造成土
70	2.5Y2/1	黒色	極細粒砂混細粒シルト	
71	2.5Y2/1	黒色	細粒シルト	
72	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒シルト	
73	7.5YR4/1	褐灰色	極細粒砂	

以下に、平成 23 年度に実施した高月南遺跡包蔵地内で実施した、小規模開発関連に伴う本発掘調査の成果について記す。

なお、調査ごとに記載している断面図中の番号は、第 1 表・第 2 表の土色・土質一覧の番号に対応している。

①高月南遺跡第 34 次発掘調査 (N2011154)



第7図 高月南遺跡第 34 次発掘調査 調査区平面図

遺構

古墳 1 基、土坑 1 基、ピット 15 基が検出された。以下に、それぞれの概要について記す。

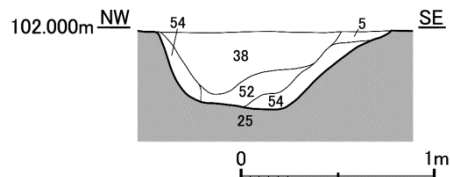
S Z 1 調査区が狭小であったため、遺構の全容について明らかにすることはできなかったが、周辺で行われた調査結果や、遺構の形態などから、円墳であると考えられる。

平面図については、第 7 図を参照されたい。

確認できた遺構の総延長は 2.75m で、幅は 0.92m ～ 1.24m、深さ 0.41m を測る。

遺構埋土は 4 層からなり、第 1 層 10YR2/1 黒色極細粒砂、第 2 層 5Y2/1 黒色粗粒シルト、第 3 層 7.5YR2/1 黒色極細粒砂、第 4 層 2.5Y2/1 黒色粗粒シルトで、地山は 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒シルトである。

遺物は、土師器片合計 21 点が出土している。これらの出土遺物のうち、土師器甕 2 点を実測した。(遺物実測図 No. 1 ～ 2)。

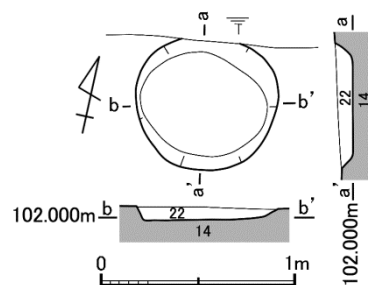


第 8 図 SZ1 断面図

S K 1 遺構北部が僅かに調査区域外に延びているが、長軸 0.74m、短軸 0.68m、深さ 0.08m を測り、平面形態は円形を呈する土坑であると考えられる。

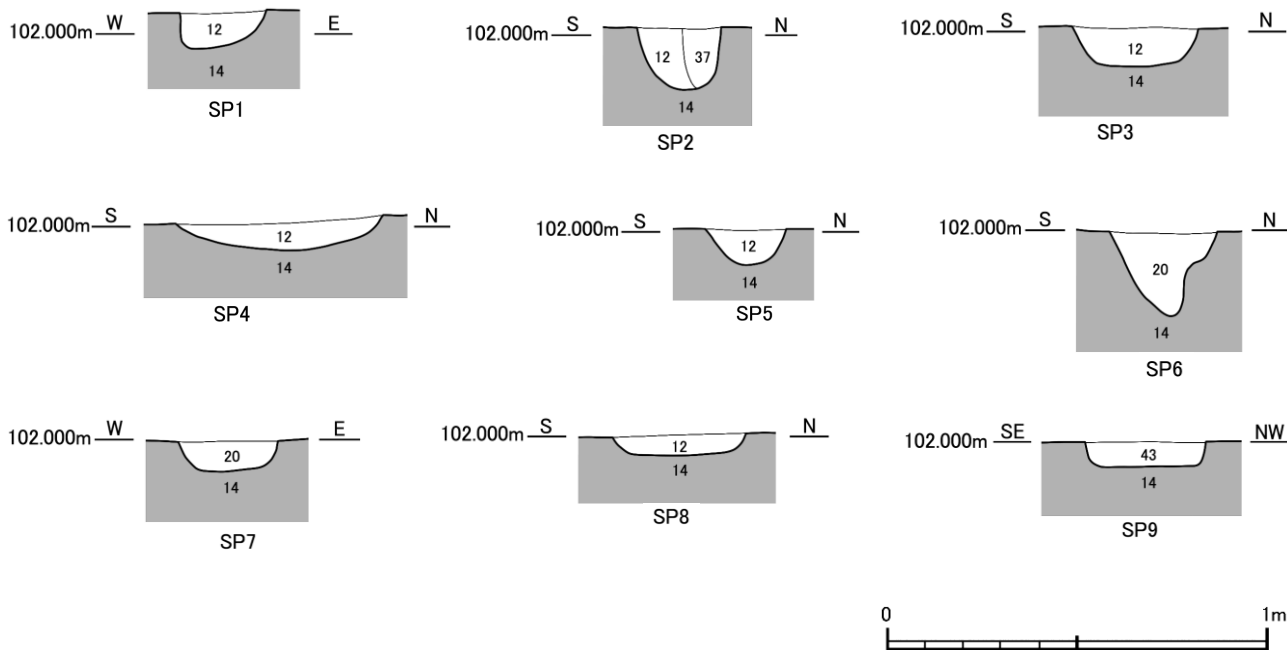
埋土は、10YR3/3 暗褐色極細粒砂の単層で、地山は 7.5YR4/6 褐色粗粒砂混極細粒砂である。

遺物は、出土していない。

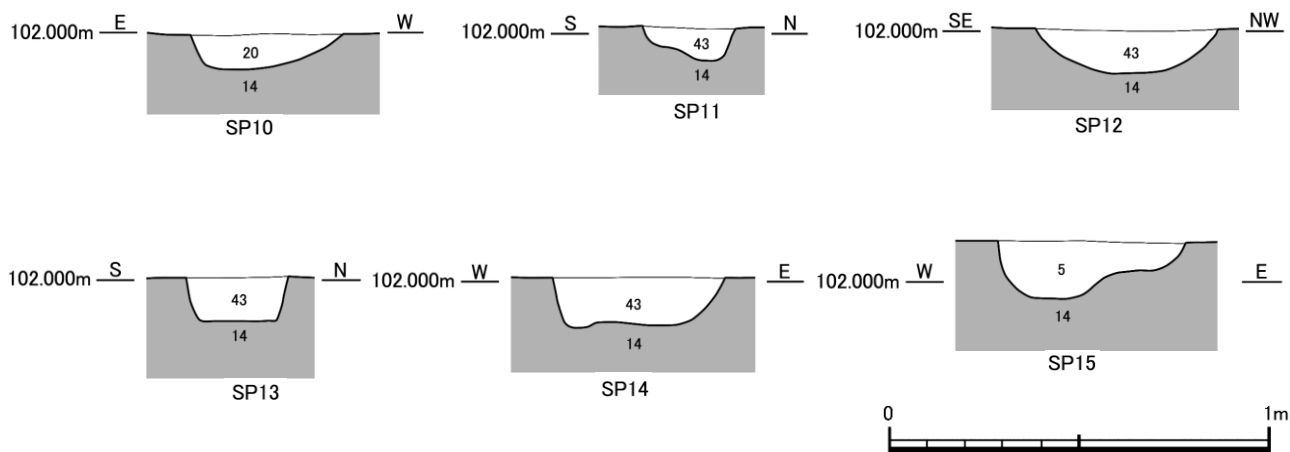


第 9 図 SK1 平面・断面図

ピット (S P 1 ～ 15) ピットは 15 基検出された。以下にピット断面図を掲載する。



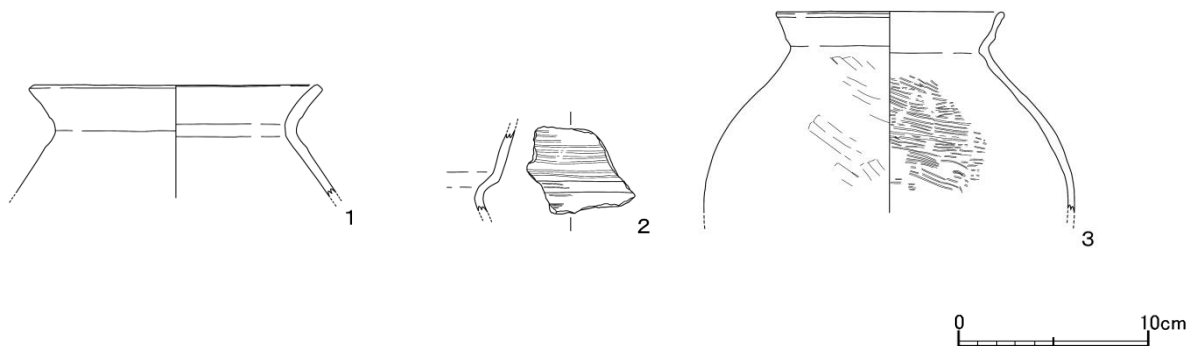
第 10 図 ピット断面図(1)



第 11 図 ピット断面図(2)

遺物

各遺構から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第 3 表 遺物観察表を参照されたい。

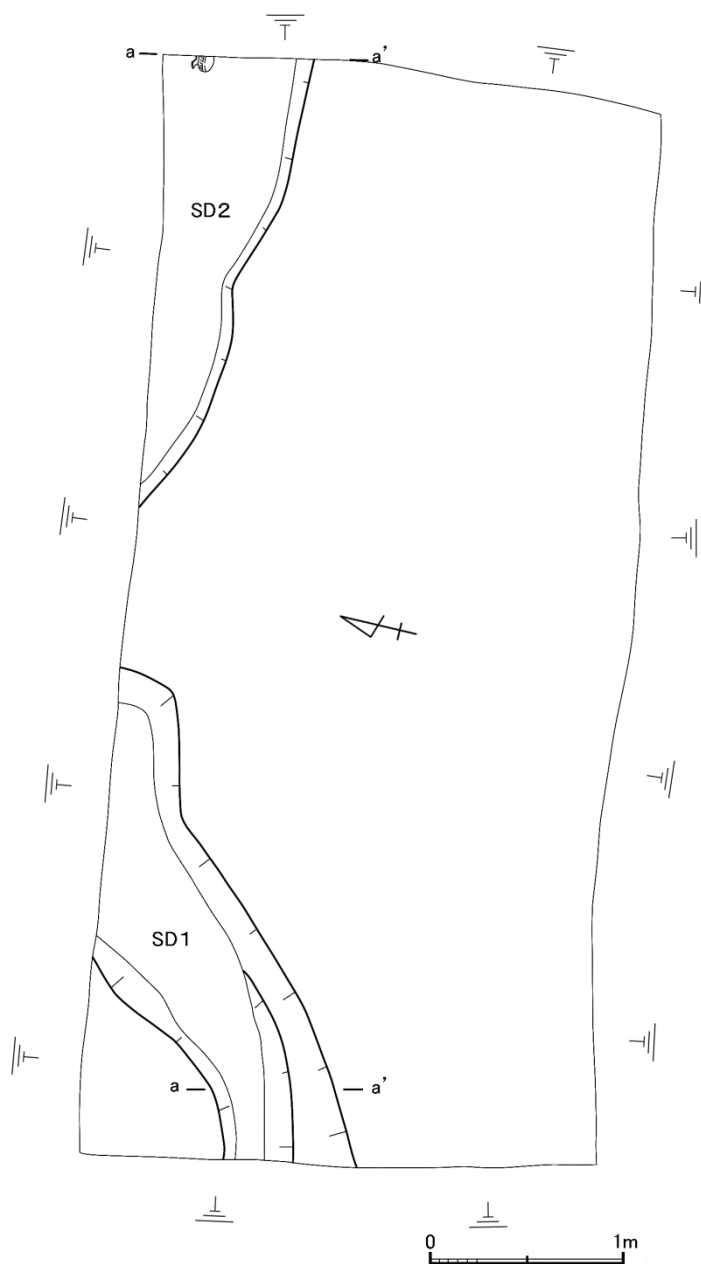


第 12 図 高月南遺跡第 34 次発掘調査出土遺物

第3表 高月南遺跡第 34 次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SZ1	土師器	甕	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	やや粗 (極粗粒砂)	良	ナデ	ナデ	復元口径 17.4 残存高 4.0	1/8 (口縁部)	反転復元
2	SZ1 第1層	土師器	甕	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや粗 (極粗粒砂)	良	凹線文	ナデ	残存高 4.4	不明	断面実測
3	包含層	土師器	甕 or 壺	7.5YR6/6 橙色	7.5Y4/1 灰色 7.5YR6/6 橙色	7.5Y4/1 灰色	密 (長石)	良	ナデ ケズリ	ナデ ハケメ	復元口径 11.8 残存高 10.6	1/9	反転復元 外面の調整は不詳 である

②高月南遺跡第 35 次発掘調査 (N2011163)



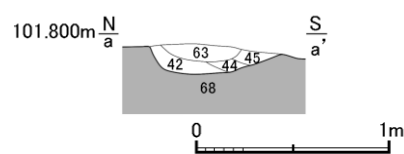
第 13 図 高月南遺跡第 35 次発掘調査トレンチ1平面図

遺構

溝状遺構が 2 条検出された。以下にその詳細を述べる。

SD 1 遺構北部および西部が調査区域外に延びるため、遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ね N - 35° - E に取り、総延長 2.08m 以上、幅 0.60m ~ 0.83 m、深さ 0.20m を測る、溝状遺構であると考えられる。

埋土は 4 層からなり、第 1 層 7.5Y2/1 黒色極細粒砂、第 2 層

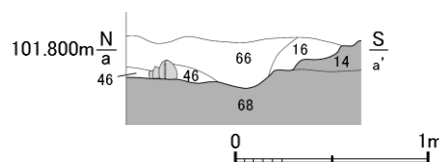


第 14 図 SD1 断面図

10YR3/1 黒褐色極細粒砂、第3層 10Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂、第4層 5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂で、地山は 7.5Y4/1 灰色シルトである。

図示できる遺物の出土はなかった。

SD2 遺構の一部分のみが検出されたため、遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ねN - 86° - Wに取り、総延長 1.58m以上、幅 0.70m以上、深さ 0.25mを測る、溝状遺構であると考えられる。当初は高月南32次調査で検出された古墳の周溝の一部かと考えたが、検出位置を考慮するとその可能性は低い。



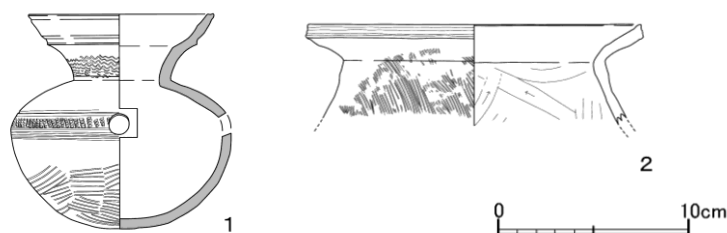
第15図 SD2断面図

遺構埋土は3層からなり、第1層 10YR2/1 黒色極細粒砂、第2層 2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂、第3層 2.5Y2/1 黒色極細粒砂で、地山は 7.5Y4/1 灰色シルトである。

遺物は、床面から跡1点が出土し、実測した。(遺物実測図No.1)。

遺物

各遺構から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第4表 遺物観察表を参照されたい。

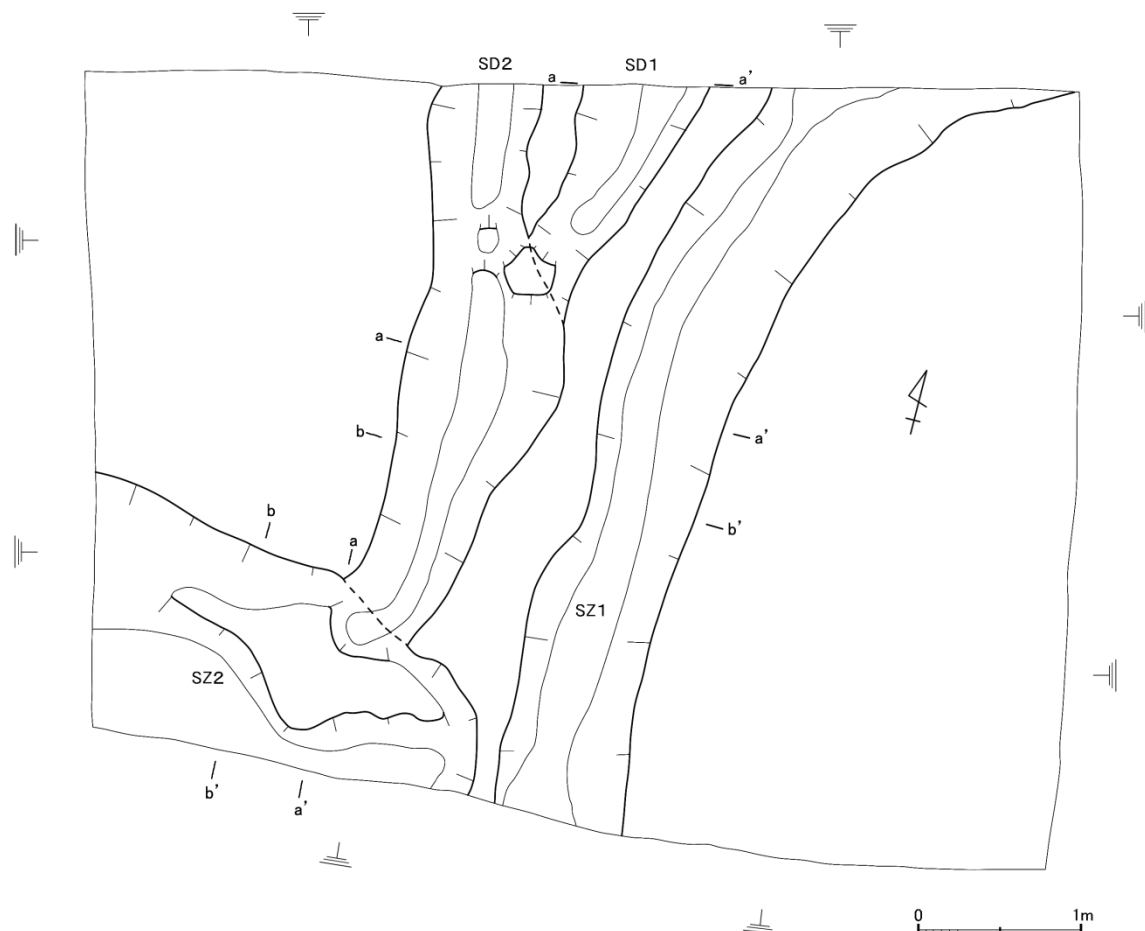


第16図 高月南遺跡第35次発掘調査出土遺物

第4表 高月南遺跡第35次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量(cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SD02	須恵器	甕	7.5Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	密	良	波状文 沈線 刺突列点文 櫛描文 タタキ	ナデ	器高 11.3 復元口径 9.7	9/10	底部に火罨痕 頸部より上部反転復元 5世紀
2	重機掘削中	土師器	甕	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/1 褐灰色	密 粗粒砂を 多く含む	良	沈線 ナデ ハケメ	ナデ ケズリ	残存高 5.1 復元口径 17.2	1/6 (口縁部)	反転復元

③高月南遺跡第 36 次発掘調査 (N2011166)



第 17 図 高月南遺跡第 36 次発掘調査トレンチ1平面図

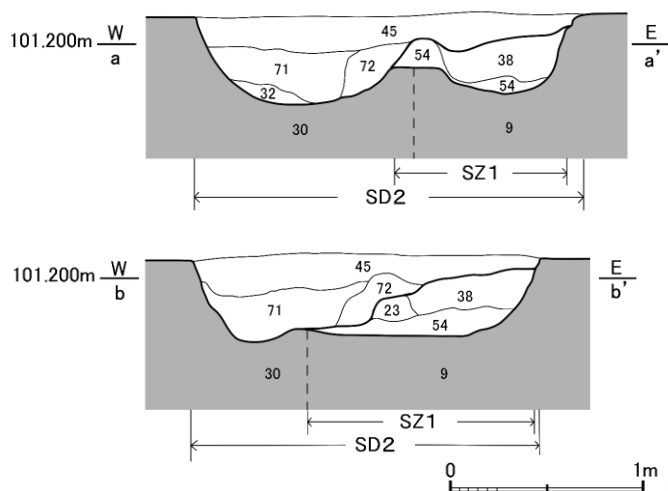
遺構

S Z 1 遺構北部および南部が調査区域外に延びるため、遺構の詳細について明らかにすることはできなかったが、周辺の発掘調査の成果および、遺構の平面形態などから、円墳であると想定され、遺構埋土の堆積状況から、S D 2 に切られていると考えられる。

遺構の規模は、検出した遺構の総延長 4.80m 以上、幅 0.60m~0.85m、深さ 0.45m を測る。

遺構の埋土は 2 層からなり、第 1 層は 10YR2/1 黒色極細粒砂で、第 2 層は 2.5Y2/1 黒色粗粒シルトで、地山は 10YR4/2 灰黄褐色粗粒シルトである。

遺物は、土師器・須恵器等合計 213 点が出土している。これらの出土遺物のうち、土師器小型丸底壺、土師器壺、土師器甕 5 点を実測した（遺物実測図 No. 1 ~ 5）。



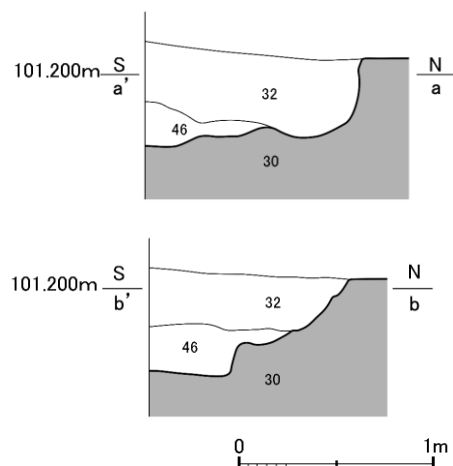
第 18 図 SZ1・SD2断面図

S Z 2 トレンチ南西隅で遺構の一部が確認されたのみで、遺構の全容については明らかにすることができなかったが、周辺の発掘調査の成果、遺構の平面形態、および後述するが遺構埋土内からの管玉の出土等から、古墳であると想定され、S D 2 を切る形で検出されている。

遺構の規模は、検出した遺構の総延長は 2.60m 以上、幅 1.25 m 以上、深さ 0.56m を測る。

遺構埋土は 2 層からなり、第 1 層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂、第 2 層 2.5Y2/1 黒色極細粒砂で、地山は 7.5Y3/1 オリーブ黒色細粒シルトである。

遺物は、土師器・須恵器・管玉等合計 79 点が出土している。これらの出土遺物のうち、管玉 1 点を実測した（遺物実測図 No. 6）。

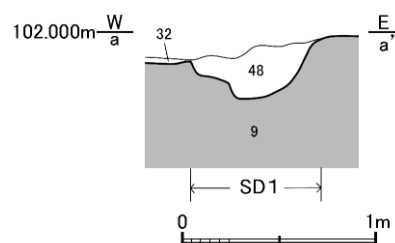


第 19 図 SZ2 断面図

S D 1 遺構北部が調査区域外に延び、南部は S D 2 によって切られているため、遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ね N - 11° - E に取り、総延長 1.35 m 以上、幅 0.40m ~ 0.70m、深さ 0.28m を測る、溝状遺構であると考えられる。

遺構埋土は 2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂 (2.5GY4/1 灰オリーブ灰色粗粒シルト混) で、地山は 10YR4/2 灰黄褐色粗粒シルトである。

遺物は出土していない。



第 20 図 SD1 断面図

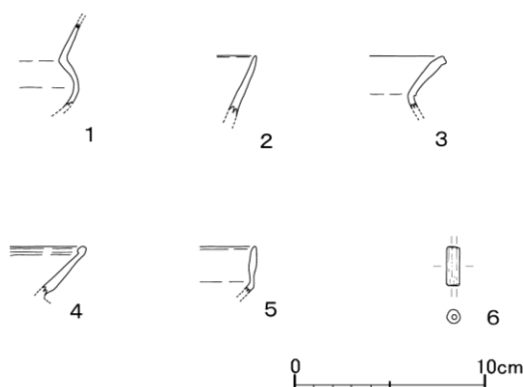
S D 2 遺構北部および南部が調査区域外に延びるため、遺構の全容を明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ね N - 8° - E に取り、総延長 4.60m 以上、幅 1.82m ~ 2.50m、深さ 0.43m を測る、溝状遺構であると考えられる。

遺構埋土は 4 層からなり、第 1 層 10YR3/1 黒褐色極細粒砂、第 2 層 2.5Y2/1 黒色細粒シルト、第 3 層 10YR3/2 黒褐色極細粒砂、第 4 層 2.5Y3/2 黒褐色粗粒シルトで、地山は部分的に異なっており、10YR4/2 灰黄褐色粗粒シルトと 7.5Y3/1 オリーブ黒色細粒シルトの 2 種類がみられる。

遺物は、土師器片 28 点が出土しているが、図示できる遺物の出土はなかった。

遺物

各遺構から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第 5 表 遺物観察表を参照されたい。

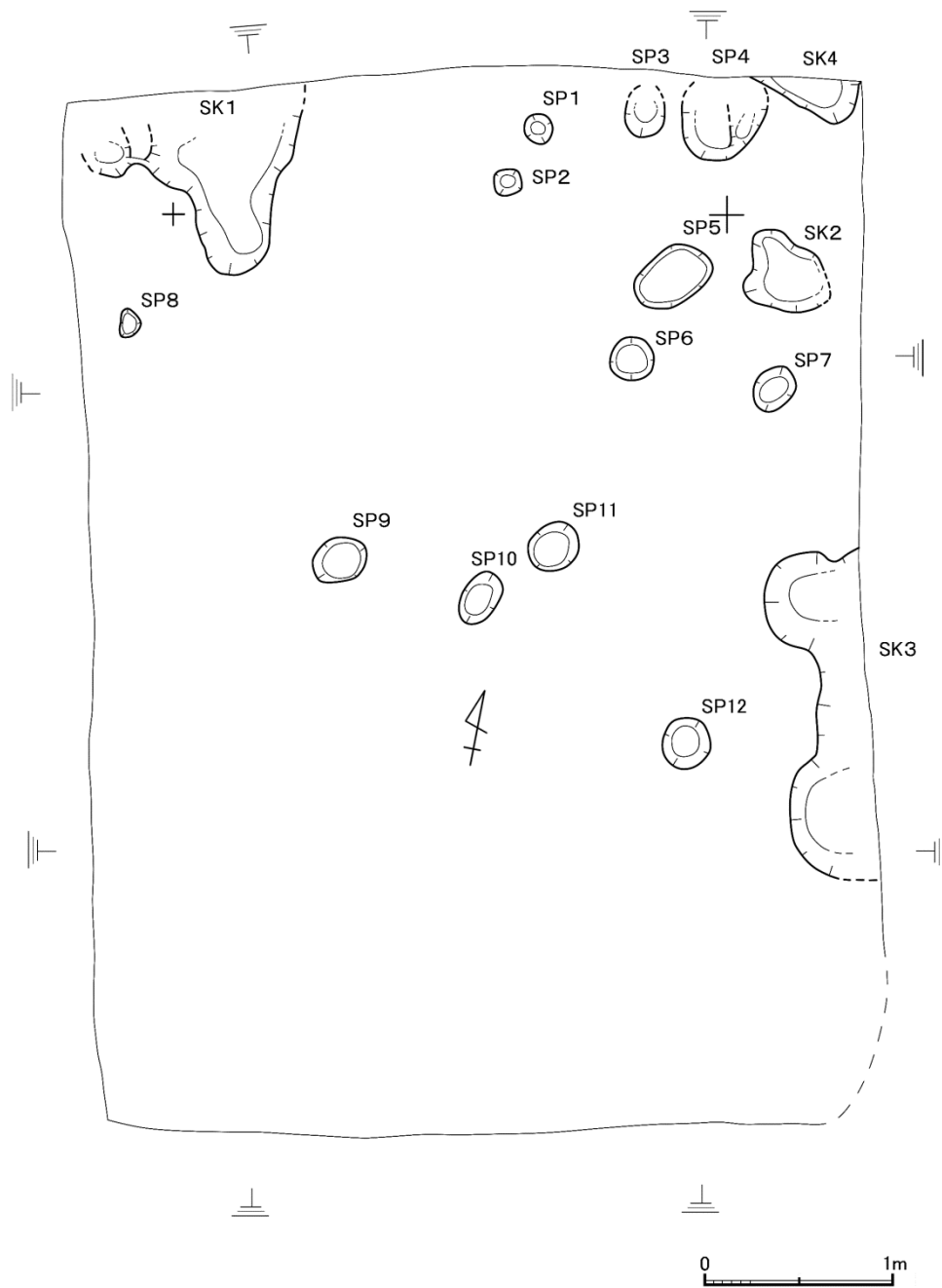


第 21 図 高月南遺跡第 36 次発掘調査出土遺物

第5表 高月南遺跡第36次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SZ1	土師器	小型丸底壺	5YR6/6 橙色	2.5YR6/6 橙色	5YR7/4 にぶい橙色	密 (粗粒砂)	やや不良	摩耗により 調整不明	摩耗により調 整不明	残存長 4.9	1/10	断面実測 小型丸底壺の 体部
2	SZ1	土師器	壺	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	密 (粗粒砂)	やや良	ナデ	ナデ	残存高 3.2	1/10 以下	断面実測 壺の口縁
3	SZ1	土師器	甕	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	10YR6/1 褐灰色	密 (粗粒砂)	やや良	摩耗により 調整不明	摩耗により調 整不明	残存高 2.8	1/10 以下	断面実測 甕くの字口縁 端部にキザミの 疑いあり
4	SZ1	土師器	甕	7.5YR7/2 明褐灰色	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	密 (粗粒砂・長石・ 石英・雲母)	良	ナデ	ナデ	残存高 2.6	1/10	断面実測 布留式系甕の 口縁の可能性 あり
5	SZ1	土師器	甕	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	密 (粗粒砂)	良	ナデ	ナデ	残存高 2.4	1/10 以下	断面実測
6	SZ2	石製品	管玉	7.5YG7/1 明緑灰色	—	—	—	—	—	—	全長 2.05 幅 0.7 厚み 0.7 穴径 約 0.25		

④高月南遺跡第 38 次発掘調査 (N2011183)



第 22 図 高月南遺跡第 38 次発掘調査トレンチ1平面図

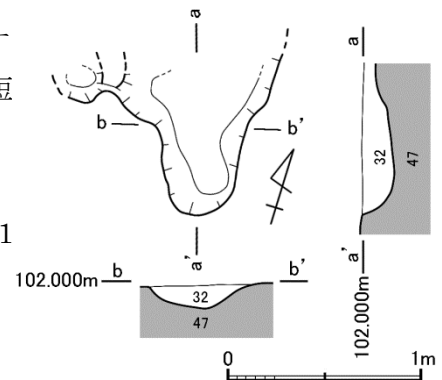
遺構

土坑 4 基、ピット 12 基を検出した。以下にそれぞれの概要について記す。

SK1 遺構北部が調査区域外に延びるため、全容を明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で、長軸 1.10m 以上、短軸 1.00m、深さ 0.16m を測る、平面形態は不定形を呈する土坑である。

遺構埋土は 10YR3/2 黒褐色極細粒砂の単層で、地山は 2.5GY4/1 灰オリーブ灰色粗粒シルトである。

遺物は出土していない。



第 23 図 SK1 断面図

SK2 長軸 0.40m、短軸 0.38m、深さ 0.11m を測る、平面形態は不定形を呈する土坑である。

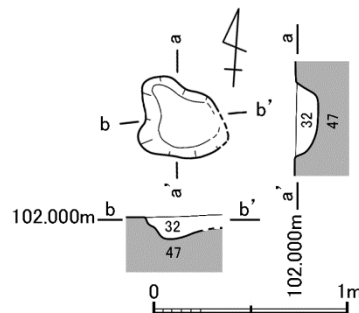
遺構埋土は 10YR3/2 黒褐色極細粒砂の単層で、地山は 2.5GY4/1 灰オリーブ灰色粗粒シルトである。
遺物は出土していない。

SK3 遺構北部が調査区域外に延びるため、遺構の全容を明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で長軸 1.20m、短軸 0.50m 以上、深さ 0.13m を測る、平面形態は不定形を呈する土坑であると考えられる。

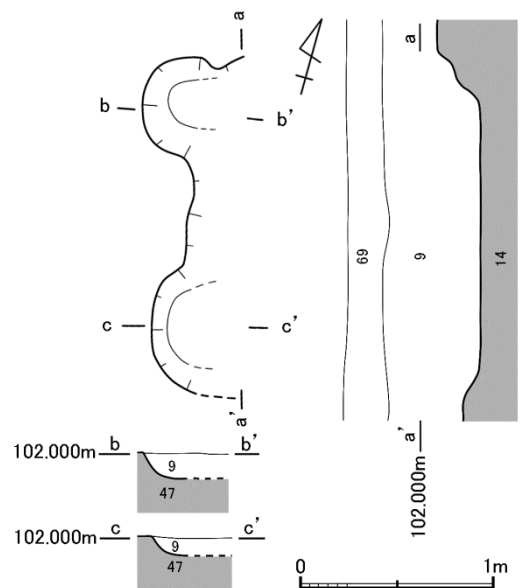
遺構埋土は 10YR4/2 灰黄褐色粗粒シルトの単層で、地山は 7.5YR4/6 褐色粗粒砂混極細粒砂である。

遺物は出土していない。

遺構検出時には、土坑であると考えていたが、断面



第 24 図 SK2 断面図



第 25 図 SK3 断面図

を観察すると、他の遺構でみられる、所謂包含層との土色や

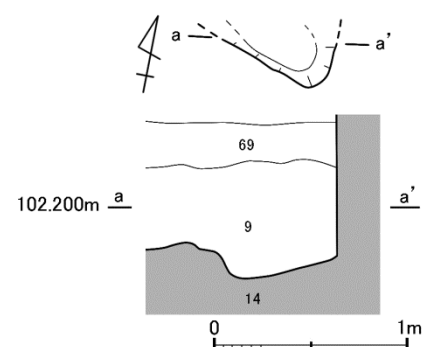
土質の違いが認められず、包含層がそのまま遺構埋土となっている状況が確認された。つまり、土坑で

はなく、自然地形の落ち込みである可能性も考えられる。

SK4 調査区北東隅で検出されたため、遺構の大部分が調査区域外に延びるため、遺構の全容を明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で長さ 0.74m を測る土坑であると考えられる。

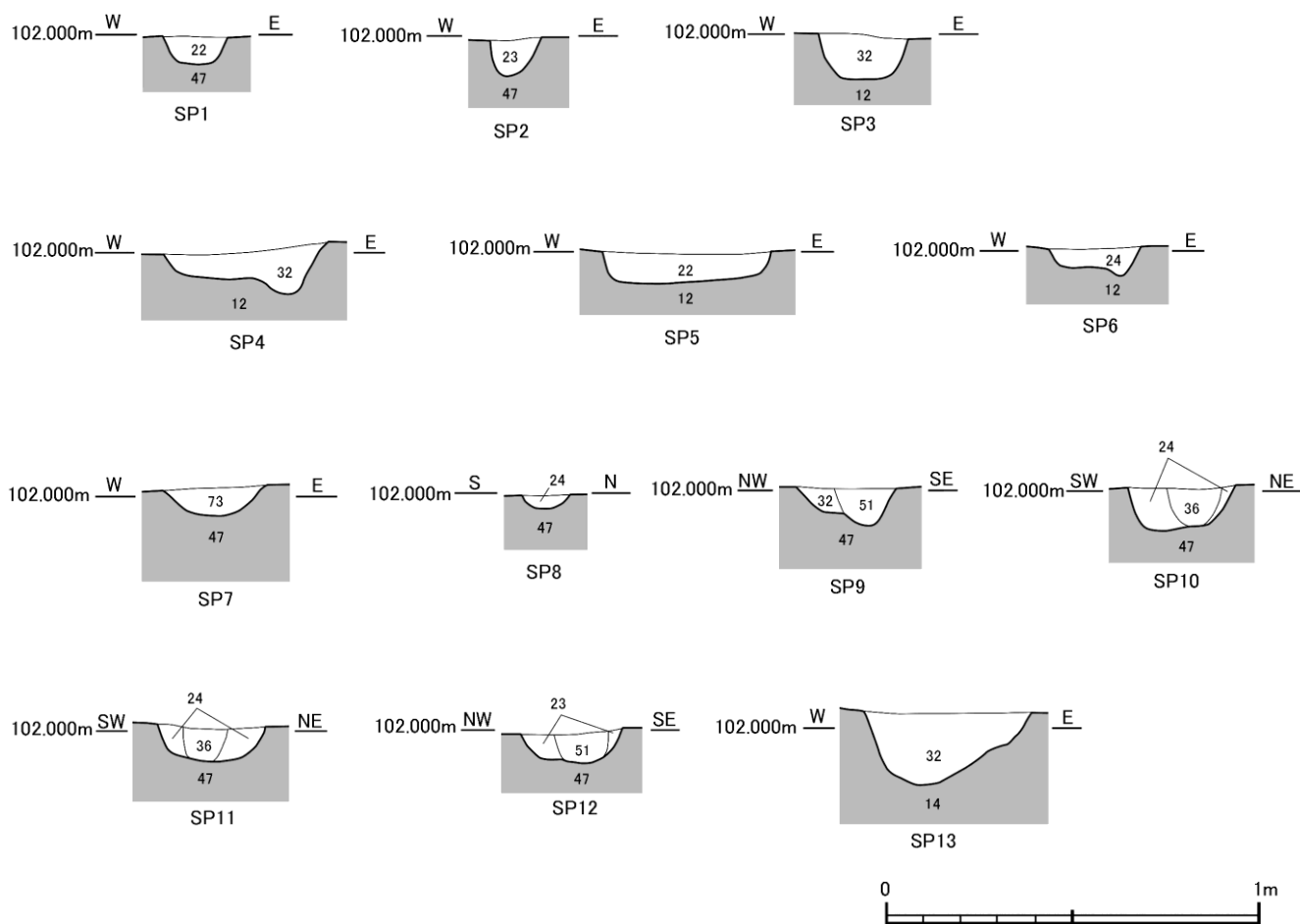
遺構埋土は 10YR4/2 灰黄褐色粗粒シルトの単層で、地山は 7.5YR4/6 褐色粗粒砂混極細粒砂である。

SK3 と同様、包含層がそのまま遺構埋土となっており、自然地形の落ち込みである可能性も考えられる。



第 26 図 SK4 断面図

ピット（SP1～13） ピットは13基検出された。以下にピット断面図を掲載する。



第 27 図 ピット断面図

（４）総括

高月南遺跡第 38 次調査からは、全く遺物の出土は見られなかった。また、今回の発掘調査対象地である造成地内での、他の調査からも、総じて遺物の出土量は極めて少ない。

これまでの周辺で行われた発掘調査の成果から、当該地が居住域→墓域→集落域に変遷していることが明らかになっている。

この事実と、当該地で行われた発掘調査で出土する遺物の量が少ないこととは、例えば、大規模な造成工事が行われた等といった、当該地の土地利用と有機的な関係を想定することも可能である。

第3節 渡岸寺遺跡第15次発掘調査（N201115）

1. 調査の経過

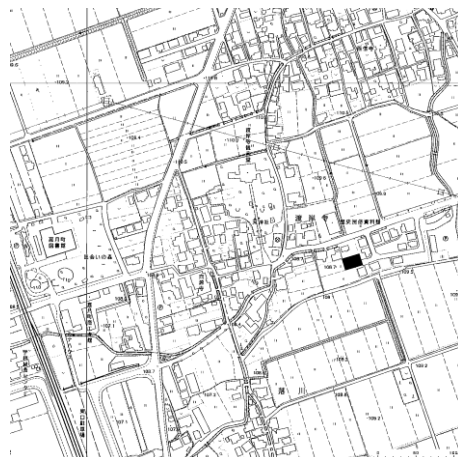
（1）調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅新築工事に伴う本発掘調査である。

平成23年4月18日に原因者より届出があり、協議の結果、当該地において遺構の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成23年4月26日に実施し、試掘坑のほぼ全てから、ピット、土坑、溝等の遺構が検出され、土師器、須恵器の遺物が出土した。

試掘調査の結果を基に遺跡の取り扱いについて協議を行った結果、対象面積約362㎡のうち、耕作土のすきとりおよび基礎工事等により遺跡の破壊を免れないと判断された約230㎡について、本発掘調査を実施することとなった。



第28図 渡岸寺遺跡第15次調査位置図

（2）発掘作業の経過

本発掘調査は、試掘調査直後の平成23年4月27日から6月2日にかけて実施した。

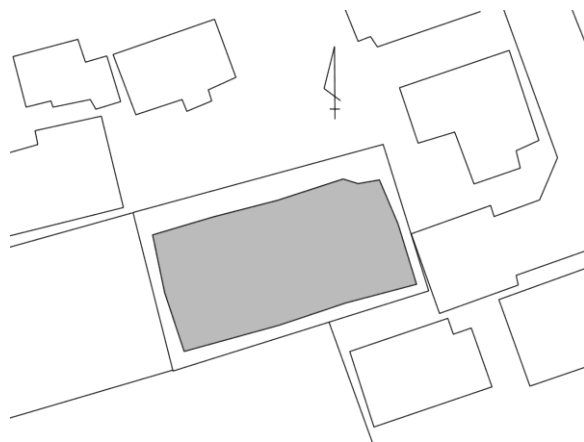
発掘調査の体制は、主体が長浜市教育委員会、調査担当は沢村である。

発掘作業は調査区全域をひとつのトレンチとして実施した。

作業工程は、重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、遺構の半截、遺構完掘の順で行い、図面作成などのデータ収集、および記録写真撮影は工程ごとに行った。個々の作業の詳細については、

3. 調査の方法と成果で述べることとする。

対象区域における全ての作業終了後に原因者に引き渡した。当初から耕作土等のすきとりを行う予定であったため、埋め戻しは行わなかった。



第29図 渡岸寺遺跡第15次発掘調査 トレンチ配置図

（3）整理作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から、平成24年3月までの期間内で実施した。

出土した遺物は、全て遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

出土した遺物の大半は細片であったが、それらの内、遺跡の性格や時期等を示し得るもので、実測可能なものについてピックアップした。

ピックアップした遺物については、実測図の作成、トレース作業、遺物観察表の作成を行った後、写真撮影を行った。

現地で実測した図面等は、整理、合成、トレース等を行い、必要に応じてデジタルデータ化した。

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

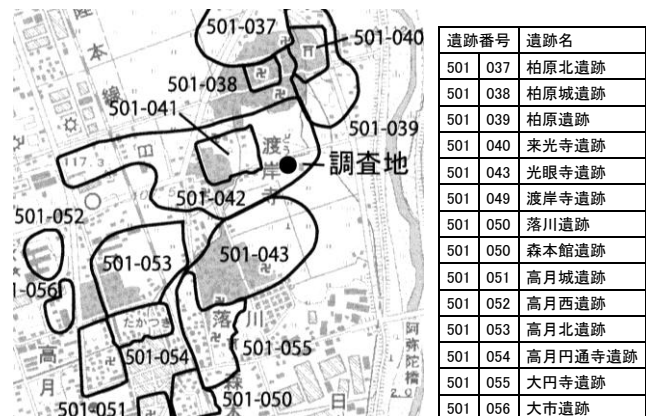
渡岸寺遺跡の所在する長浜市高月町は長浜市の北部に位置し、旧伊香郡に所属している。伊香郡のなかでは最南端に位置し、旧東浅井郡と接している。西は丘陵をはさんで琵琶湖に接し、三方を山に囲まれ、南側へ開けた土地となり、旧伊香郡の平野の大部分をこの高月の平野部が占めている。平野部の東側には北から南へ高時川が流れ、西側には余呉川が北から南へと流れている。これらの水流を利用して古来より現在に至るまで連綿と集落および耕作地が営まれている。

北は湖西・若狭・敦賀など、北陸へ通じ、南は湖東・湖南から京都大阪奈良方面と、関ヶ原を抜けて岐阜愛知など、東海・中部・関東へと通じている。特に北國街道・北國脇往還と琵琶湖の水運が主要な交通交易のルートとなっていた。現在でもJR北陸線・北陸自動車道・国道8号線・国道365号線が走り、東海北陸近畿を結ぶ交通の要衝となっている。

(2) 歴史的環境

渡岸寺遺跡(501-042)は、高時川右岸に立地する古墳時代から中世にかけての集落跡として知られている。これまでに掘立柱建物や竪穴建物・溝・土坑などの遺構や、小鍛冶関係など鉄生産に関わる遺物・遺構などが検出されている。

周辺には柏原遺跡・大円寺遺跡などの古代を中心とした集落遺跡が広がっている。付近には国宝十一面観音で有名な光眼寺があり、平安時代の寺院跡の存在が推定されているが、現在のところ明確な遺構は見つかっていない。



第30図 渡岸寺遺跡と周辺の遺跡

3. 調査の方法と成果

第6表 渡岸寺遺跡第15次調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR3/2	黒褐色	中粒砂混細粒砂	耕土
2	7.5Y4/1	灰色	中礫混細粒砂	
3	2.5Y4/1～4/2	黄灰色～暗灰黄色	極細粒砂	
4	10YR4/4	褐色	極細粒砂	地山
5	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	遺構
6	2.5Y4/4	オリーブ褐色	細粒砂混極細粒砂	
7	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂混極細粒砂	
8	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
9	10YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
10	10YR3/2	黒褐色	シルト	
11	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂	
12	2.5Y4/3	オリーブ褐色	極細粒砂	
13	5Y4/2	灰オリーブ色	極細粒砂混シルト	
14	10YR2/2	黒褐色	極細粒砂	
15	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	
16	2.5Y5/4	黄褐色	極細粒砂混シルト	
17	10YR3/4	暗褐色	細粒砂混極細粒砂	
18	7.5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	
19	5Y2/2	オリーブ黒色	極細粒砂混シルト	
20	5Y3/2	オリーブ黒色	極細粒砂混シルト	
21	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	極細粒砂混シルト	
22	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	
23	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	極細粒砂	

(1) 調査の方法

発掘調査区の設定方法は、調査区全体をひとつのトレンチとした。

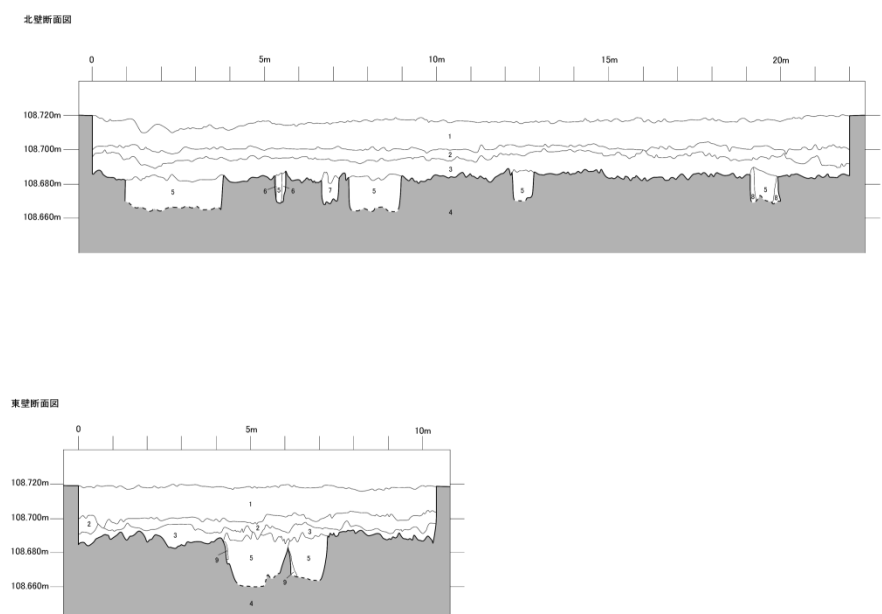
表土は、重機を使用し遺構面直上まで掘削し、その後、人力により遺構確認作業を行った。

基本的な遺構の掘り下げ方法は、土坑および掘立柱建物のコーナー部分については、四分法、それ以外については半截を行い、断面実測、および写真撮影等は工程毎ごとに行った。

遺物の取り上げ方法については、遺構ごと、かつ層位毎に行った。写真撮影は、白黒フィルムとリバーサルフィルムを使用した。

(2) 層序

調査区の基本的な土層堆積状況は、第1層は、現況面以下0.2mまでで、黒褐色(10YR3/2)中粒砂混極細粒砂、第2層は、0.2mから0.3mまでで、黄灰色～暗灰黄色(2.5Y4/1～4/2)極細粒砂、現況面以下0.3mで検出された褐色(10YR4/4)が地山であると考えられる。

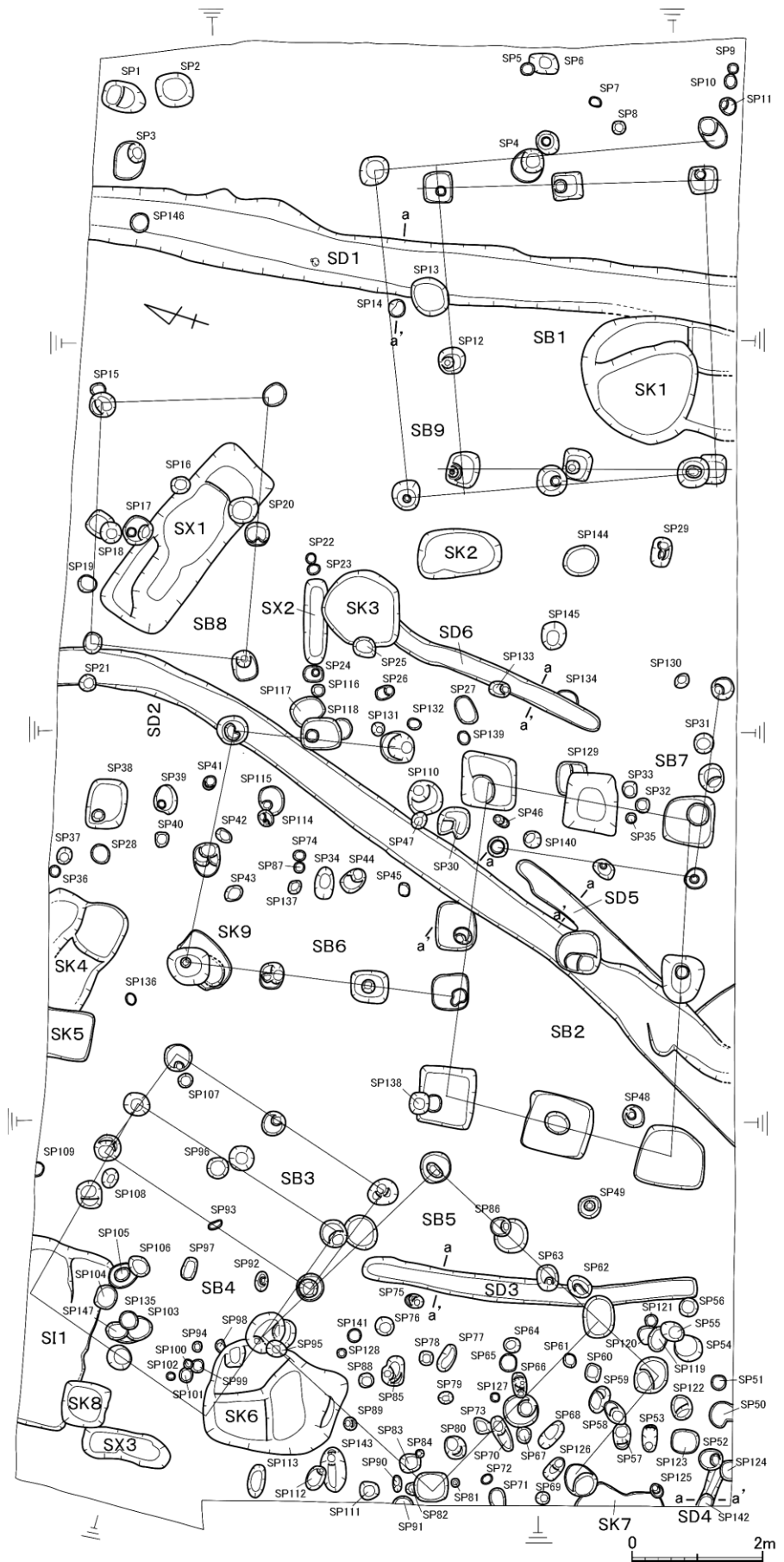


第31図 調査区壁面図

(3) 発掘調査

遺構

今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物9棟、土坑9基、溝状遺構6条、ピット147基である。以下に、個々の概要について記す。



第 32 図 渡岸寺遺跡第 15 次調査 調査区平面図

掘立柱建物

SB1 南側がトレンチ外に延びている可能性があるが、梁行 1 間×桁行 2 間以上の掘立柱建物であると考えられる。

建物の主軸方位を概ねN-20°-Wに取る。床面積は 17.1 m²以上である。柱間は、a-a' は 1.83 m、2.14m、b-b' は 1.82m、2.17m、c-c' は 4.31mを測る。

柱痕跡は、S 1、S 2、S 4、S 5、S 6 で直径 18 から 20cm程度の痕跡が確認された。

遺物は、埋土内から須恵器片 1 点が出土している。

SB2 南側がトレンチ外に延びている可能性があるが、梁間 2 間、桁行 2 間の総柱を持つ掘立柱建物である。

建物の主軸を概ねN-7°-Wに取る。床面積は、17.7 m²である。柱間は、a-a' は、2.25m、2.59 m、b-b' は 2.40m、2.50m、c-c' は 2.40m、2.88m、d-d' は 1.69m、1.66m、e-e' は 1.94 m、1.59m、f-f' は 1.92m、1.86mを測る。

柱痕跡は、掘り方底で痕跡として 20~40cmのくぼみが確認された。

遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片・炉壁片の合計 53 点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器 1 点を実測した（遺物実測図No.1）。

SB3 梁行 2 間、桁行 1 間以上の掘立柱建物であると考えられる。

建物の主軸方位を概ねN-71°-Wに取る。床面積は 6.8 m²以上である。柱間は、a-a' は、1.81 m・1.98m、b-b' は 1.8m、c-c' は 1.86mを測る。

柱痕跡は確認されなかった。

遺物は出土しなかった。

SB4 建物の主軸を概ねN-17°-Eに取る、桁行 2 間、梁行 2 間の掘立柱建物である。

柱間は、S 4-S 5は 1.85m、S 5-S 6は、1.83m、b-b' は 1.56m、c-c' は 1.67mを測る。

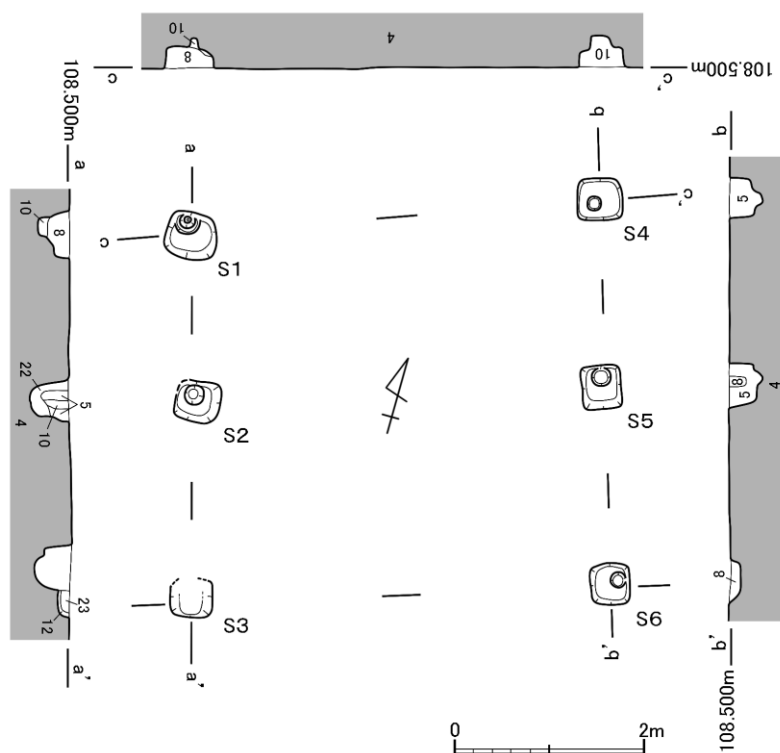
床面積は 12.6 m²以上である。

柱痕跡は確認されなかった。

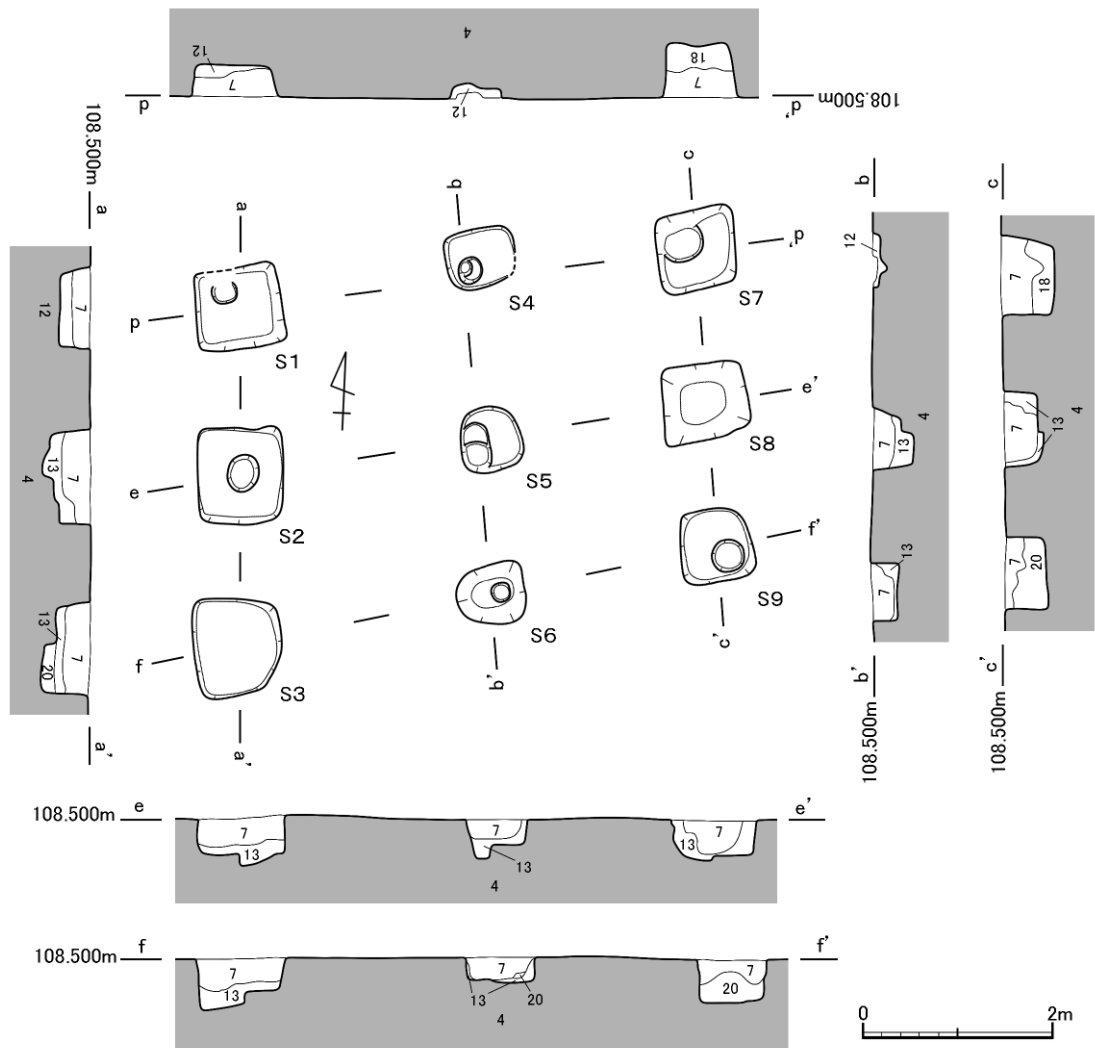
遺物は出土しなかった。

SB5 建物の主軸を概ねN-25°-Eに取る、桁行 2 間あるいは 3 間、梁行 2 間の掘立柱建物である。

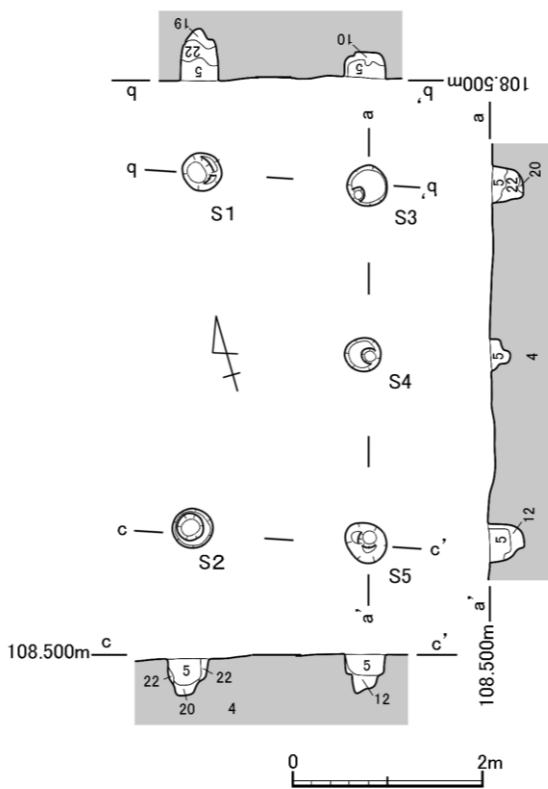
柱間は、S 1-S 3は 2.13m、S 3-S 6は 1.55m、S 6-S 7は 1.57m、S 7-S 8は 1.84m、S 2-S 4は 1.85 m、S 4-S 8は 1.81m、S 8-S 9は



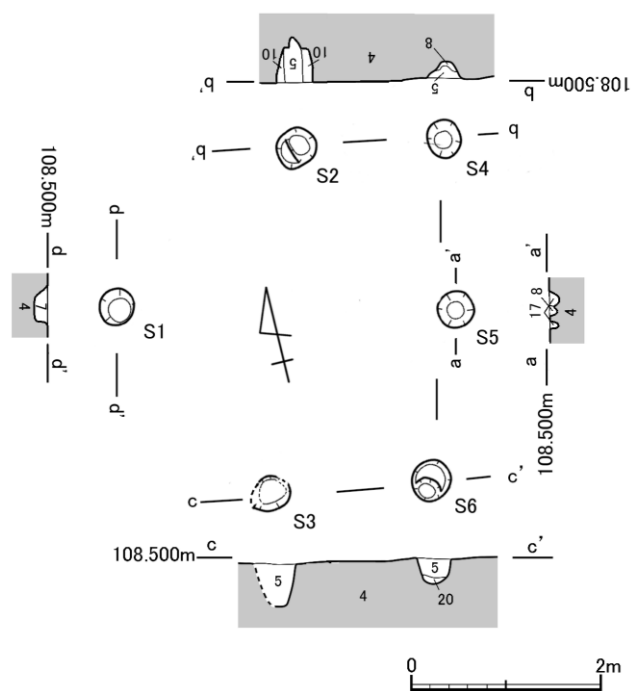
第 33 図 SB1平面・断面図



第 34 图 SB2平面·断面图



第 35 图 SB3平面·断面图



第 36 图 SB4平面·断面图

1.24m、S 5-S 9は1.98mを測る。

床面積は16.5 m²以上である。

柱痕跡は確認されなかった。

遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片7点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器1点を実測した（遺物実測図No.2）。

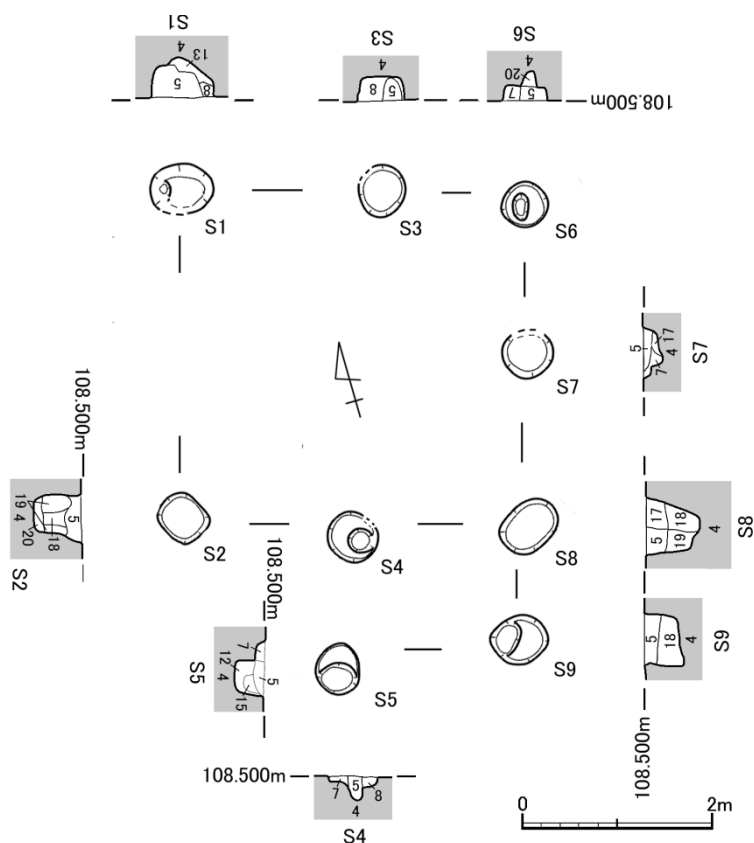
S B 6 建物の主軸を概ねN-11°-Wに取る、桁行3間、梁行2間の掘立柱建物である。

柱間は、S 1-S 2は1.30m、S 2-S 3は1.50m、S 3-S 4は1.30m、S 1-S 5は1.68m、S 5-S 6は2.00m、S 6-S 7は1.37m、S 7-S 8は1.18mを測る。

床面積は13.6 m²以上である。

柱痕跡は、確認されなかった。

遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片6点が出土している。



第 37 図 SB5平面・断面図

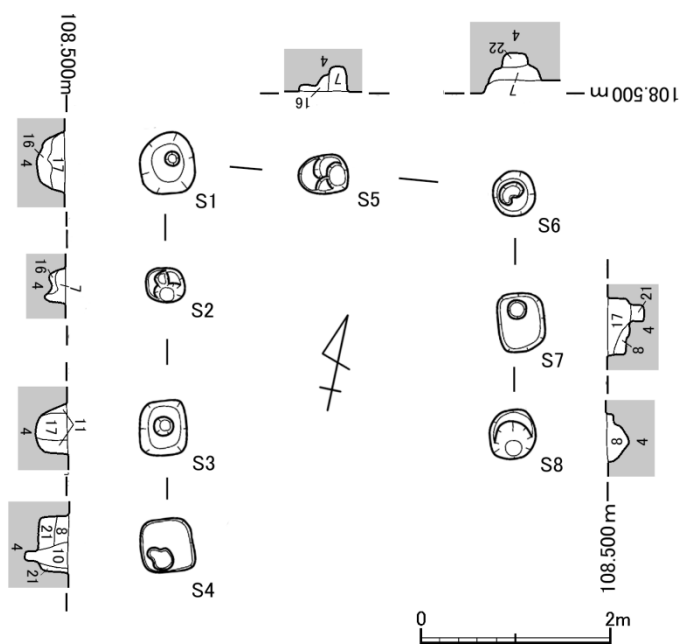
S B 7 建物の主軸を概ねN-8°-Wに取る、桁行2間、梁行2間の掘立柱建物である。

柱間は、S 1-S 2は1.65m、S 2-S 3は1.43m、S 3-S 4は1.60m、S 4-S 5は1.38mを測る。

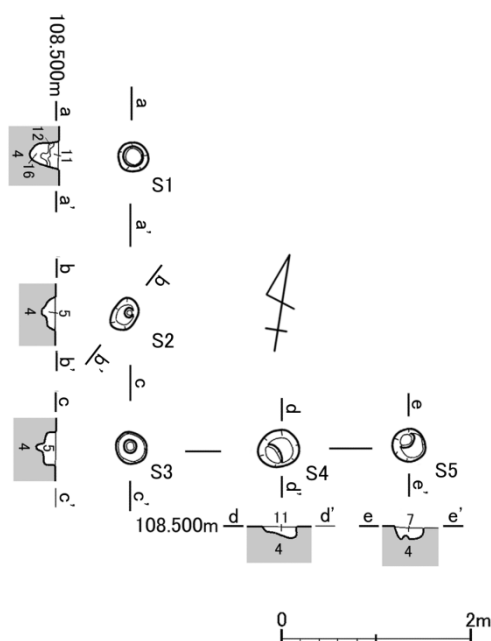
床面積は9 m²以上である。

柱痕跡は確認されなかった。

遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片3点が出土している。



第 38 図 SB6平面・断面図



第 39 図 SB7平面・断面図

SB 8 建物の主軸を概ねN-10°-Wに取る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。

柱間は、S1-S2は2.39m、S1-S3は1.82m、S2-S4は2.02m、S3-S5は1.84m、S4-S6は2.14m、S5-S6は2.66mを測る。

床面積は8.8㎡である。

柱痕跡は確認されなかった。

遺物は出土しなかった。

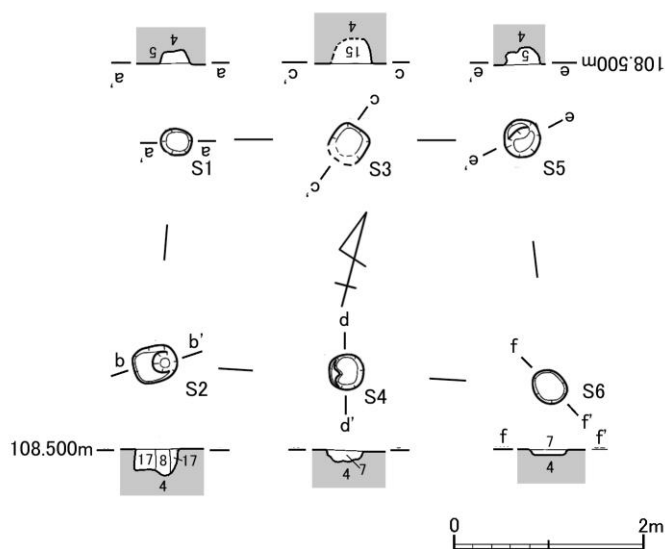
SB 9 建物の主軸を概ねN-22°-Wに取る、桁行2間、梁行1間の掘立柱建物である。

柱間は、S1-S2は2.28m、S2-S3は2.18m、S1-S4は5.00m、S4-S5は2.67m、S5-S6は2.48mを測る。

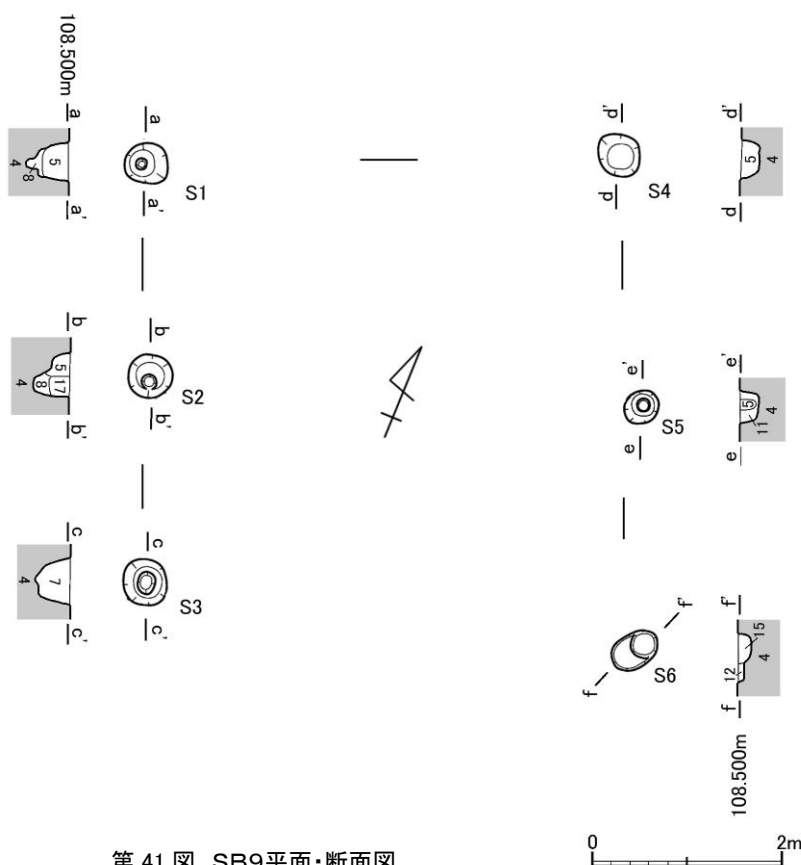
床面積は22㎡以上である。

柱痕跡は確認されなかった。

遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片14点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器1点を実測した（遺物実測図No.3）。



第40図 SB8平面・断面図



第41図 SB9平面・断面図

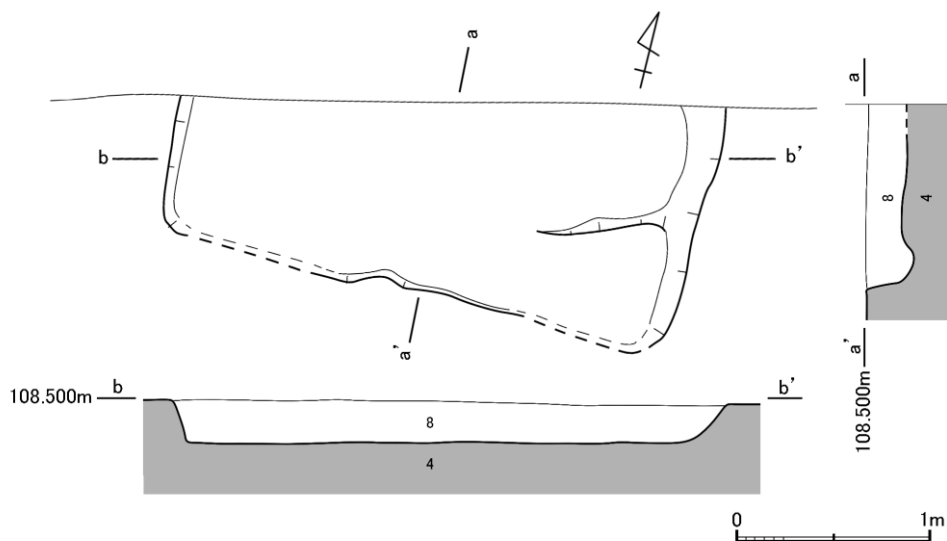
堅穴建物

SI 1 トレンチの北西端に位置しているため、遺構の全容を明らかにすることができなかったが、一辺 2.8m、深さ 0.22m 程度の規模を持つ堅穴建物と考えられる。

建物の主軸は、概ね南北方向 ($N-0^{\circ}-E$) をとる。

堅穴建物に伴う貼り床や柱穴は、確認していない。

遺物は土師器片が 14 点出土している。

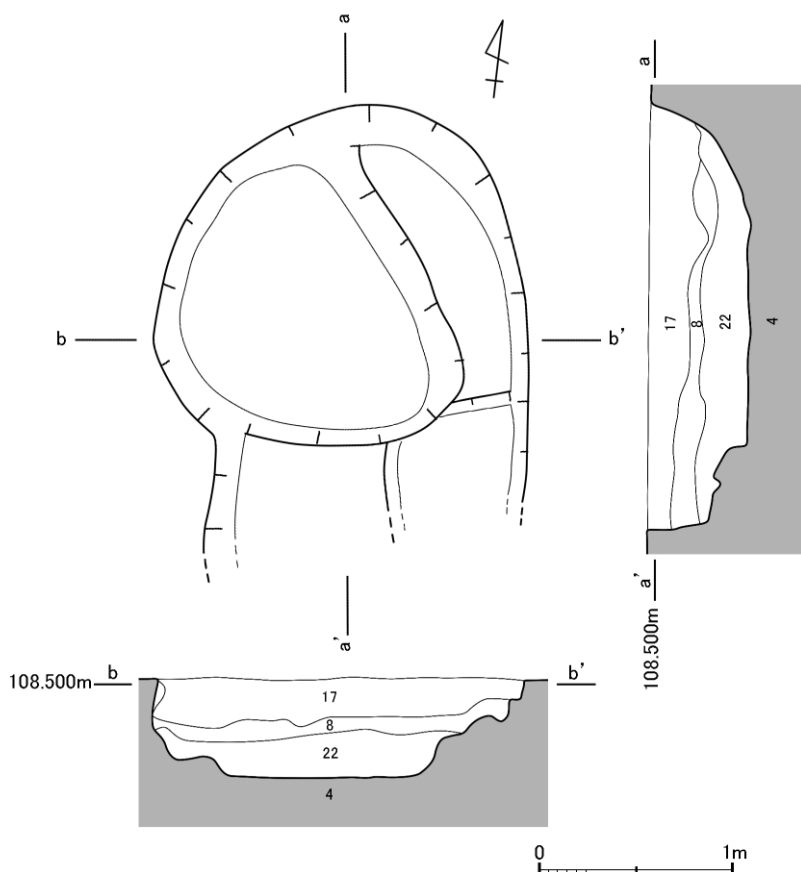


第 42 図 SI1 平面・断面図

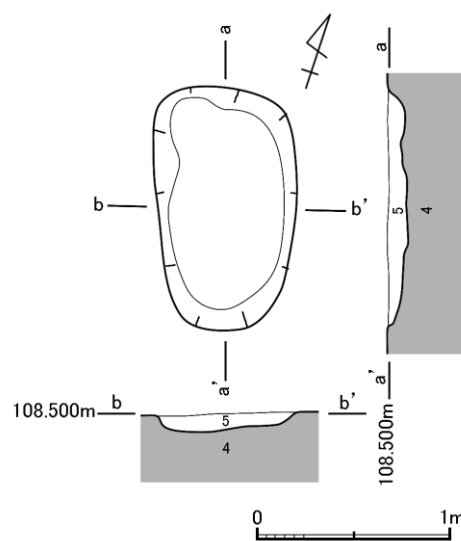
土坑

SK 1 遺構南部が調査区域外に延びるため、規模等については明確にすることはできないが、確認できた範囲で、長軸 2.2m 以上、短軸 1.95m、深さ 0.54m を測る円形と楕円形を合成した形を呈すると考えられる土坑である。

遺物は、土師器・須恵器・石器の合計 101 点が出土している。これらの出土遺物のうち、土師器皿、土師器甕、須恵器杯、須恵器鉢、須恵器短頸壺 8 点を実測した（遺物実測図 No. 4 ~ 11）。



第 43 図 SK1 平面・断面図



第 44 図 SK2 平面・断面図

SK2 規模は、長軸 1.3m、短軸 0.75m、深さ 0.1mを測る、隅丸方形を呈する土坑であると考えられる。

遺物は、埋土内から土師器片 9 点が出土している。これらの出土遺物のうち、土師器甕 1 点を実測した（遺物実測図No.12）。

SK3 規模は、長軸 1.3m、短軸 1.16m、深さ 0.12mを測る、隅丸多角形を呈する土坑であると考えられる。

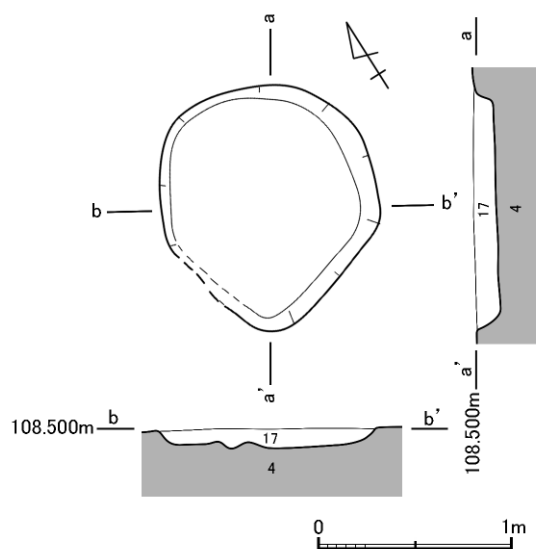
遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片 34 点が出土している。これらの出土遺物のうち、土師器 1 点を実測した（遺物実測図No.13）。

SK4 規模は、長軸 1.83m、短軸 1.32m、深さ 0.48mを測る、隅丸方形を呈する土坑であると考えられる。

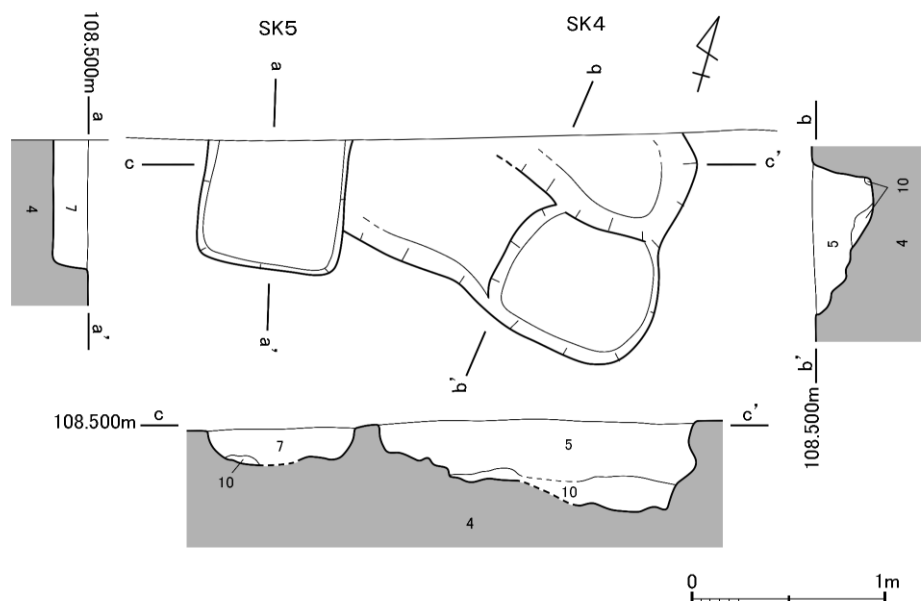
遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片 17 点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器杯 2 点を実測した（遺物実測図No.14～15）。

SK5 規模は、長軸 0.68m、短軸 0.74m、深さ 0.19mを測る、隅丸方形を呈する土坑であると考えられる。

遺物は、埋土内から土師器片 3 点が出土している。



第 45 図 SK3 平面・断面図



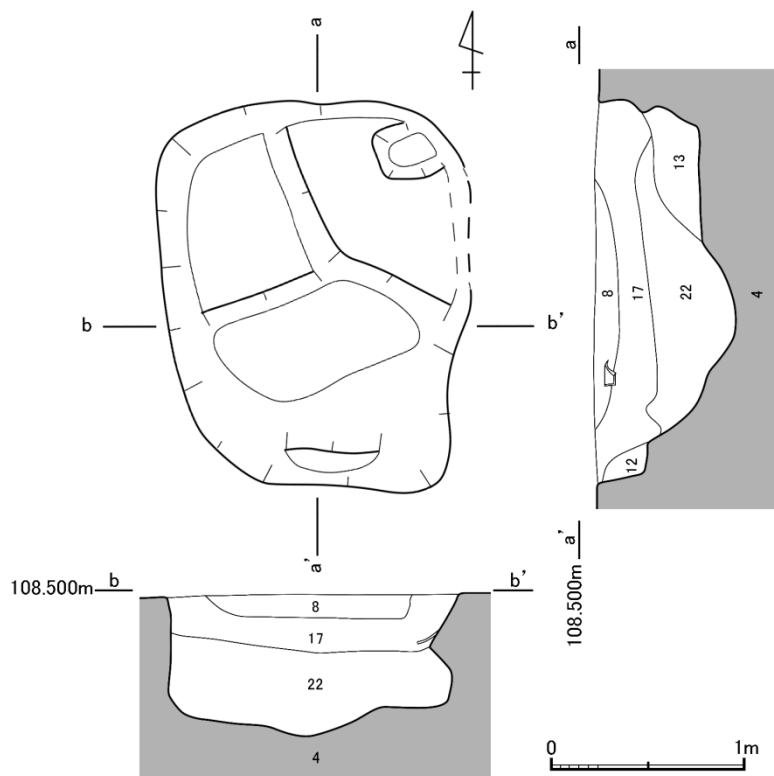
第 46 図 SK4・5平面・断面図

SK6 規模は、長軸 2.04m、短軸 1.63m、深さ 0.75mを測る、隅丸方形を呈する土坑であると考えられる。

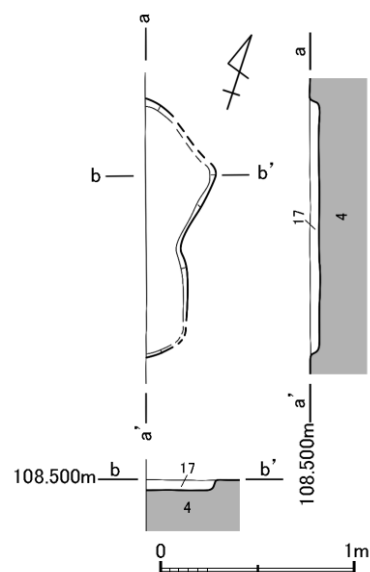
遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片・石器の合計 99 点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器杯、須恵器広口鉢、土師器甕 6 点を実測した（遺物実測図No.16～21）。

SK7 規模は、長軸 1.36m、短軸 0.37m、深さ 0.05mを測る、歪な形を呈する土坑であると考えられる。

遺物は出土していない。



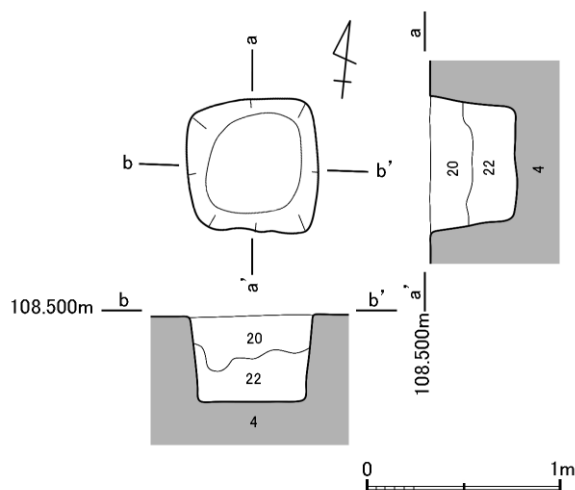
第 47 図 SK6 平面・断面図



第 48 図 SK7 平面・断面図

SK8 規模は、長軸 0.7m、短軸 0.7m、深さ 0.45mを測る、隅丸方形を呈する土坑であると考えられる。

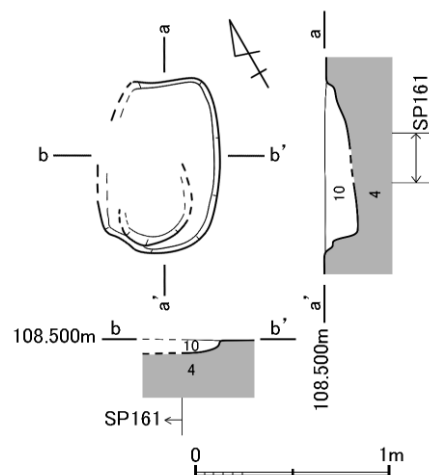
遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片 7 点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器杯 1 点を実測した（遺物実測図No.22）。



第 49 図 SK8 平面・断面図

SK 9 規模は、長軸 0.92m、短軸 0.64m、深さ 0.17mを測る、隅丸方形を呈する土坑であると考えられる。

遺物は出土していない。



第 50 図 SK9 平面・断面図

溝

SD 1 主軸を概ね北—南 ($N-9.5^{\circ}-W$) に取る溝状遺構である。

検出した溝の総延長は 10.0mを測り、幅は最大で 1.16m、深度は概ね 0.48mを測る。

遺物は、土師器片・須恵器片 10 点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器、土師器甕 2 点を実測した（遺物実測図No. 23～24）。

なお、平面図については、第 32 図 調査区平面図を参照されたい。

SD 2 主軸を概ね北東—南西 ($N-18.5^{\circ}-E$) に取る溝状遺構である。トレンチ北端付近で方向が変わっている。

検出した溝の総延長は約 12.8mを測り、幅は最大で 1.0m、深度は概ね 0.18mを測る。

遺物は、土師器片・須恵器片 13 点が出土している。これらの出土遺物のうち、須恵器杯 1 点を実測した（遺物実測図No.25）。

なお、平面図については、第 32 図 調査区平面図を参照されたい。

SD 3 主軸を概ね北北西—南南東 ($N-10^{\circ}-W$) に取る溝状遺構である。

検出した溝の総延長は 5.1mを測り、幅は最大で 0.38m、深度は概ね 0.15mを測る。

遺物は出土していない。

なお、平面図については、第 32 図 調査区平面図を参照されたい。

SD 4 主軸を概ね西—東 ($N-85^{\circ}-W$) に取る溝状遺構である。

検出した溝の総延長は 0.7mを測り、幅は最大で 0.20m、深度は概ね 0.08mを測る。

遺物は出土していない。

なお、平面図については、第 32 図 調査区平面図を参照されたい。

SD 5 主軸を概ね北西—南東 ($N-28^{\circ}-E$) に取る溝状遺構である。SD 2 に合流する溝である。

検出した溝の総延長は 2.2mを測り、幅は最大で 0.40m、深度は概ね 0.11mを測る。

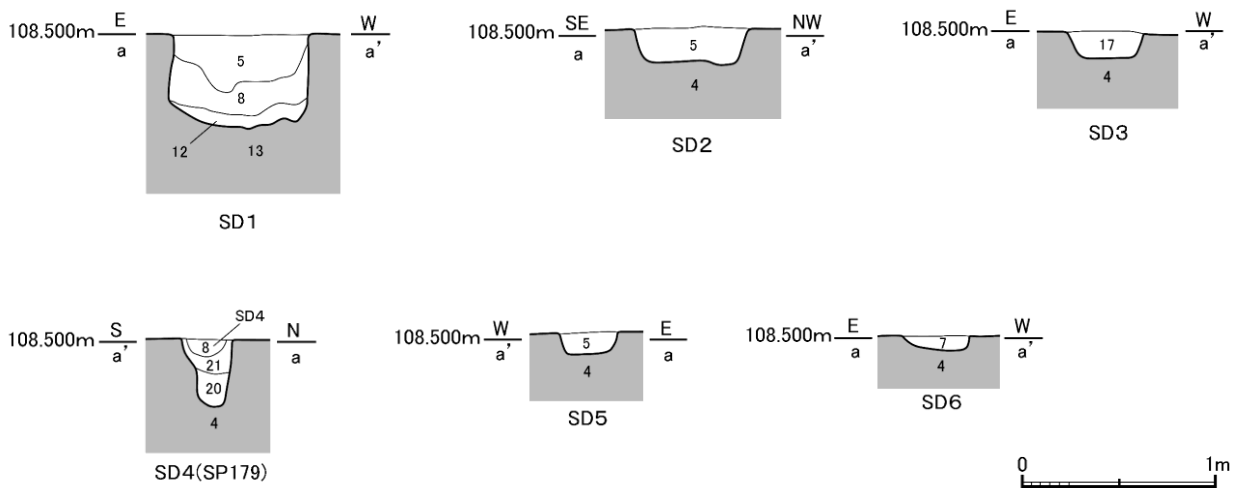
遺物は、土師器片・須恵器片 3 点が出土している。なお、平面図については、第 32 図 調査区平面図を参照されたい。

SD 6 主軸を概ね北—南 ($N-8^{\circ}-E$) に取る溝状遺構である。

検出した溝の総延長は 3.4mを測り、幅は最大で 0.35m、深度は概ね 0.08mを測る。

遺物は出土していない。

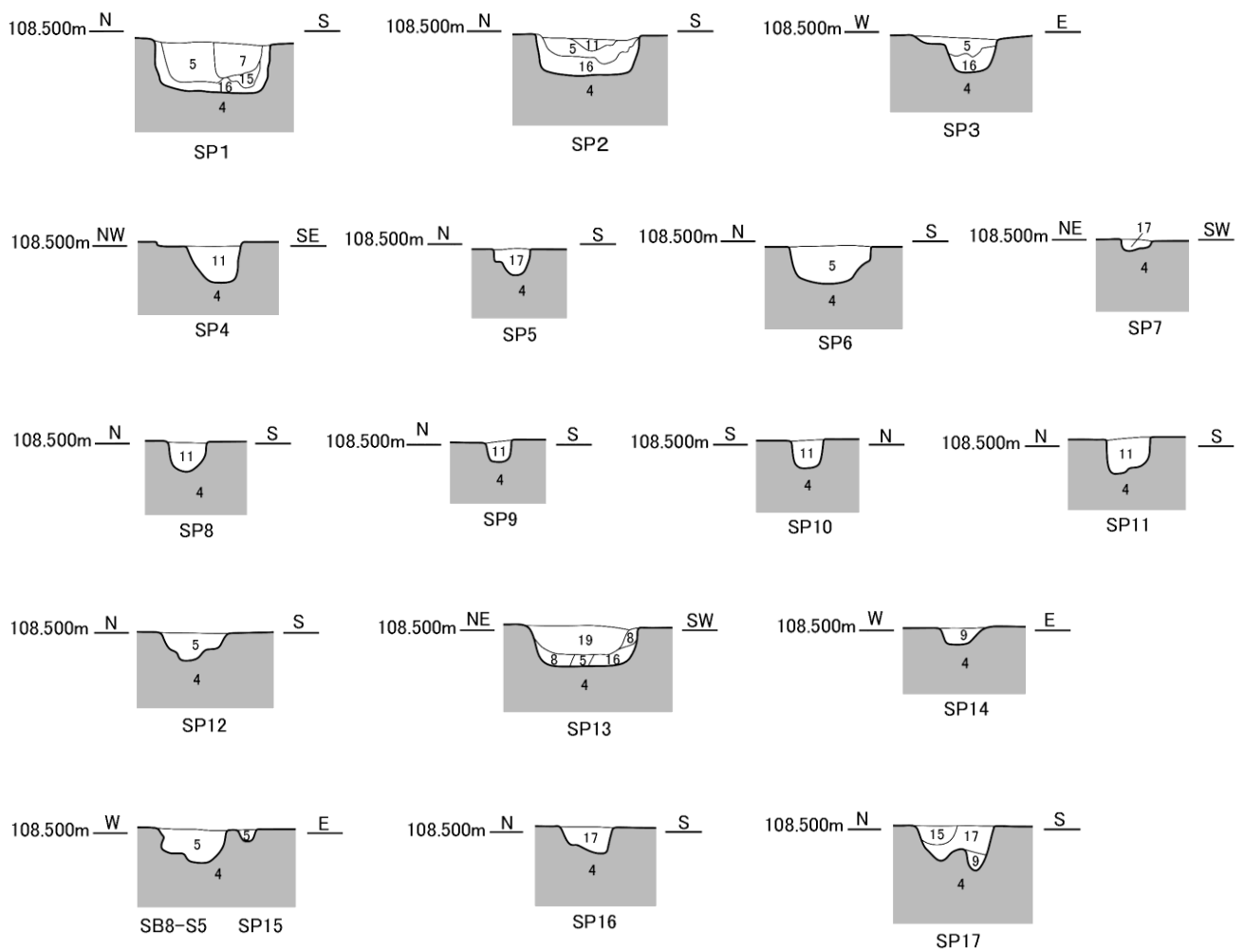
なお、平面図については、第 32 図 調査区平面図を参照されたい。



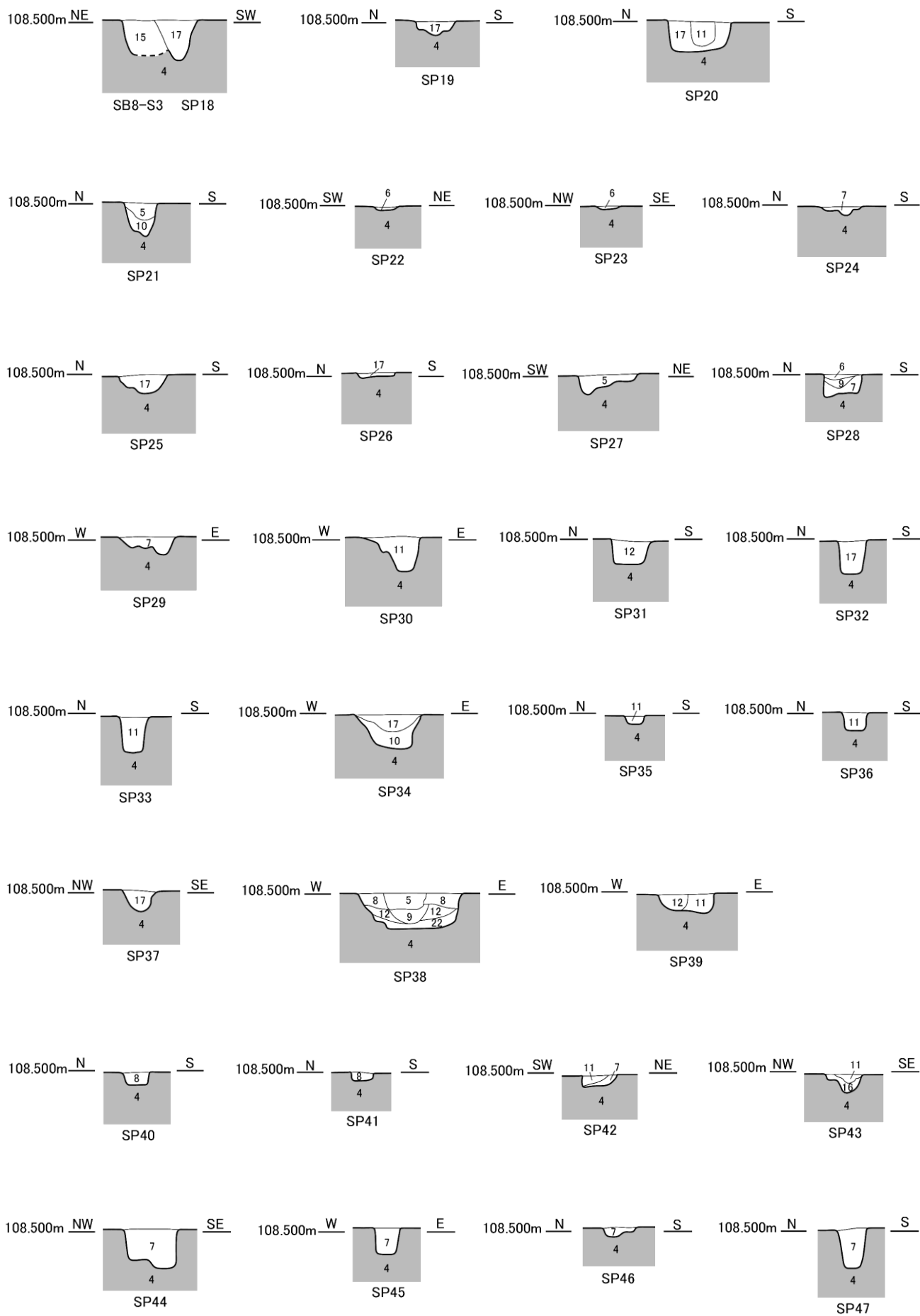
第 51 図 SD1～6断面図

ピット

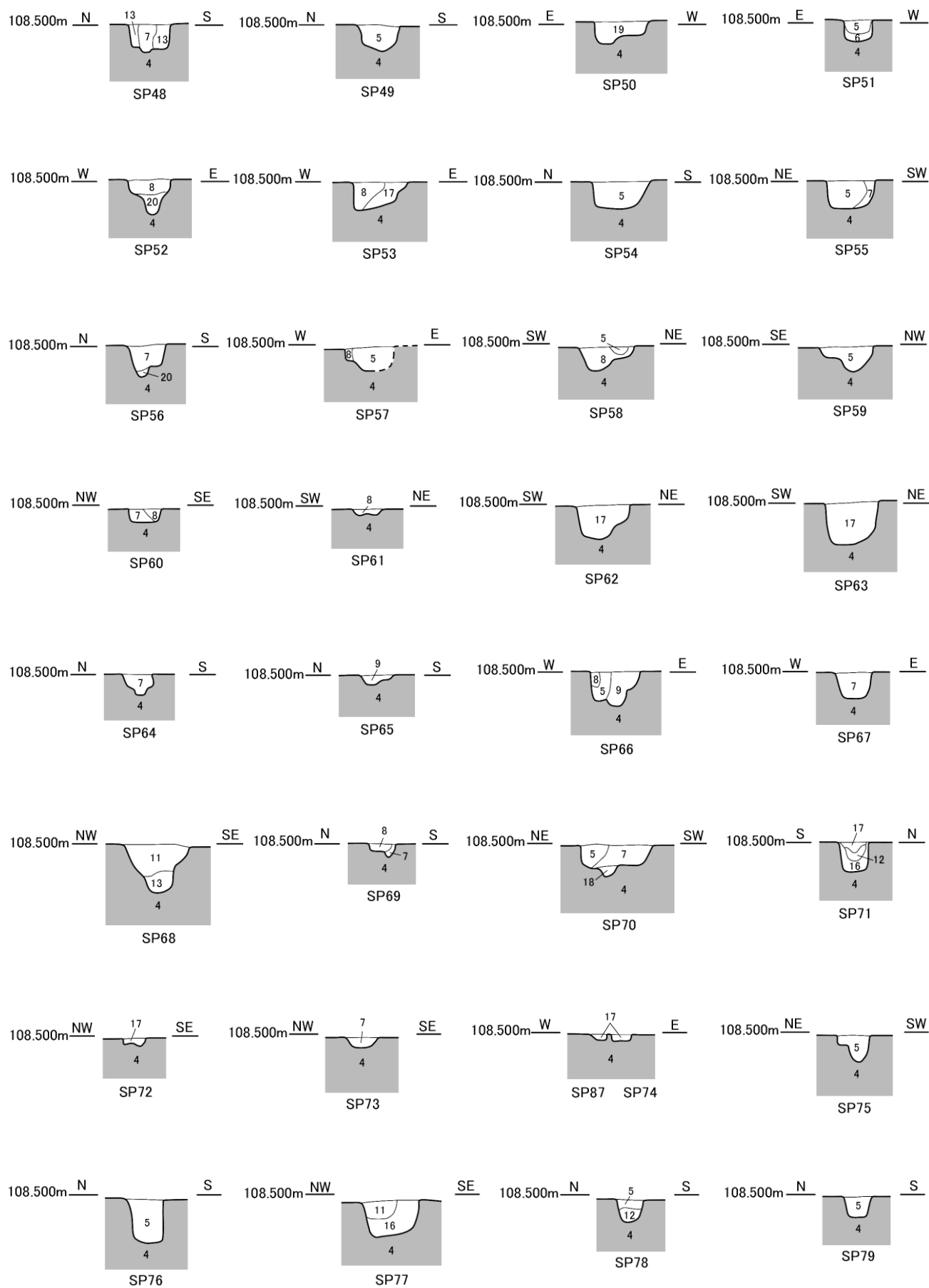
S P 1～147 の 147 基の柱穴状遺構（ピット）を検出した。以下に土層断面図を図示する。



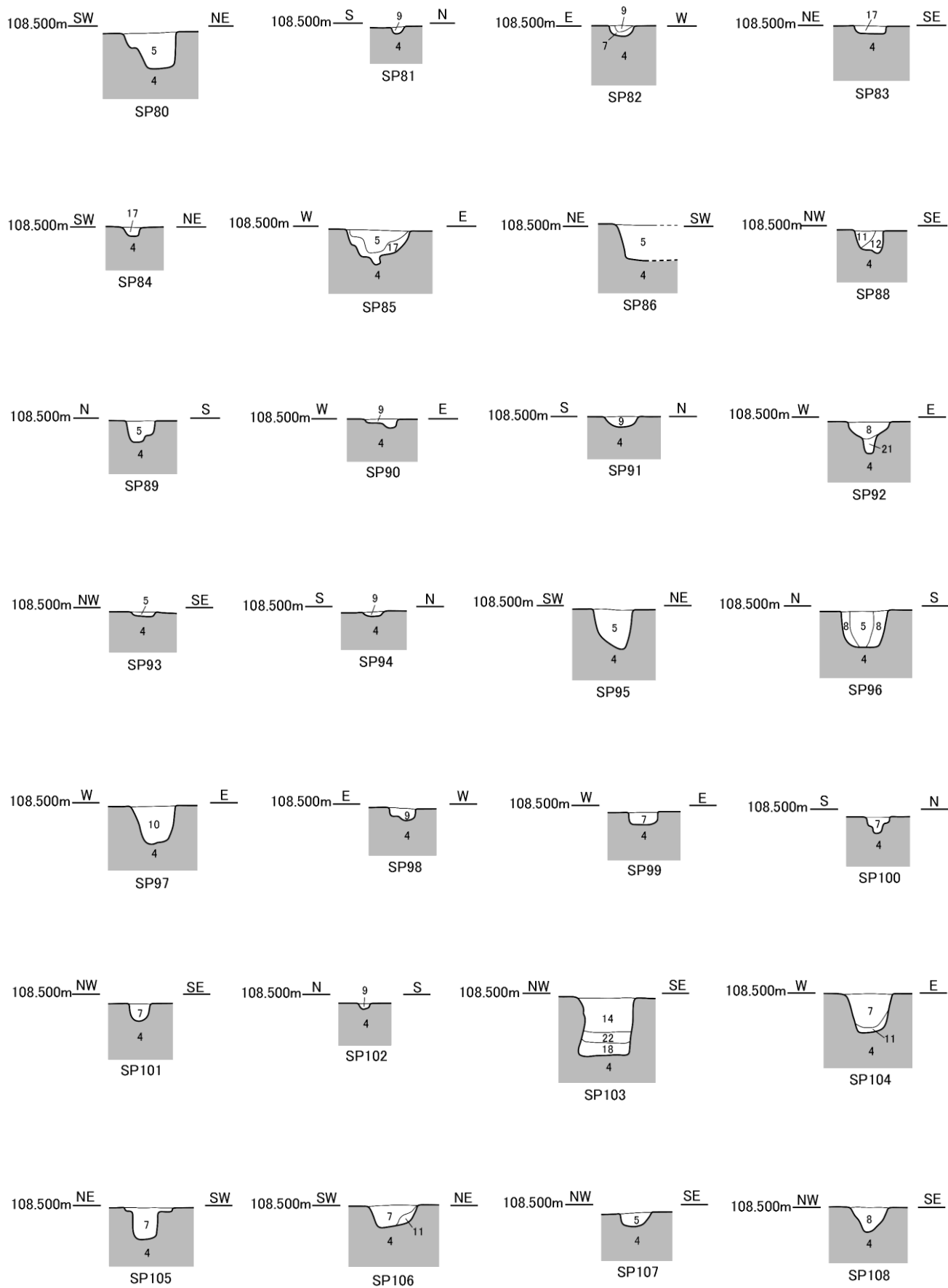
第 52 図 SP断面図(1)



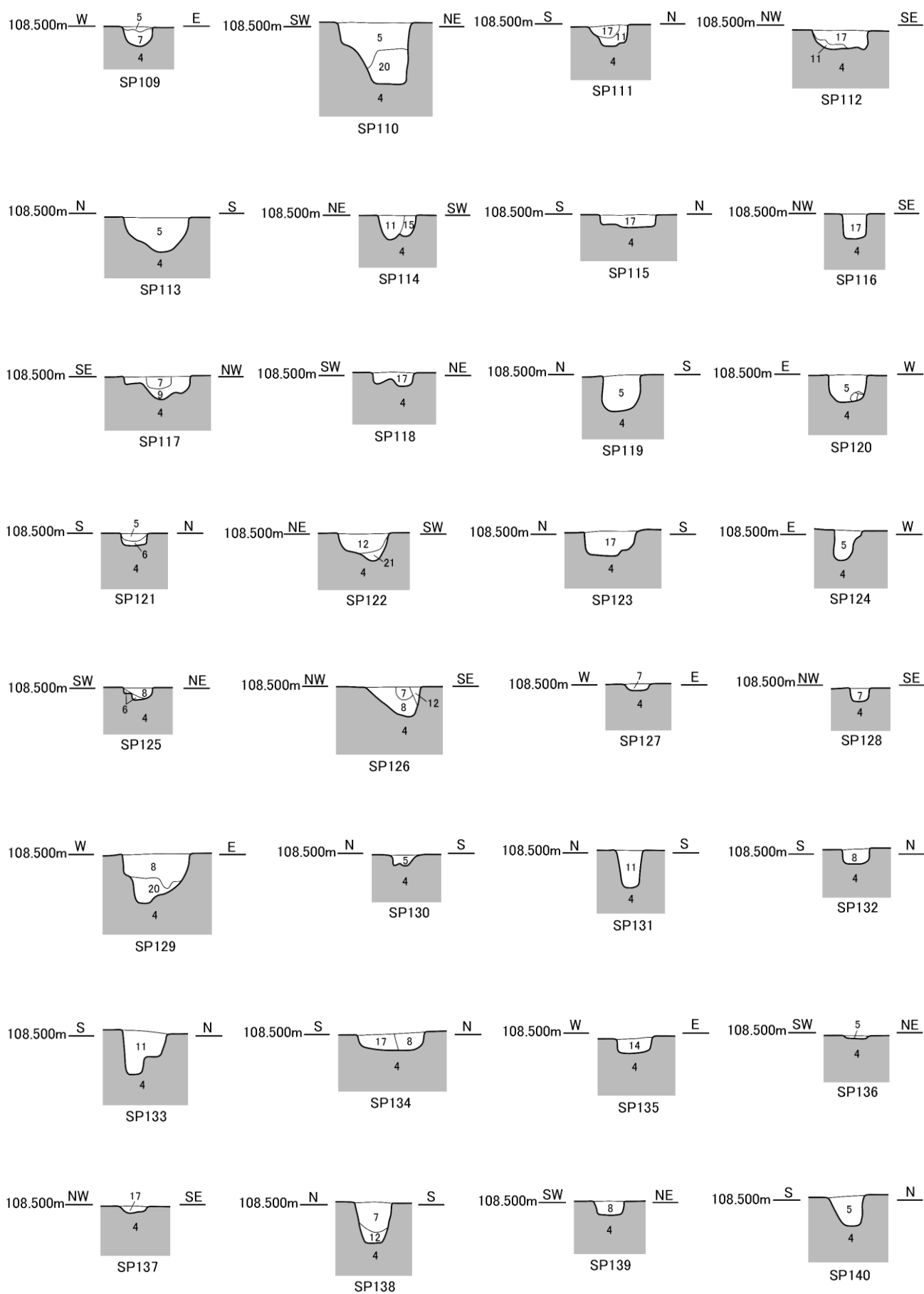
第 53 图 SP断面图(2)



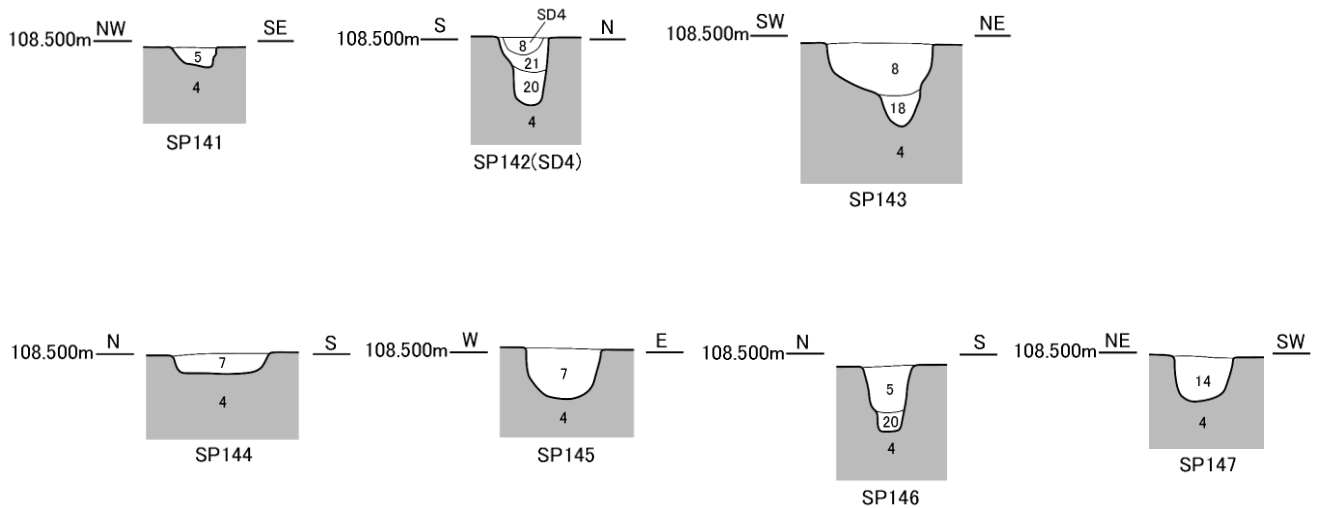
第 54 图 SP断面图(3)



第 55 图 SP断面图(4)



第 56 图 SP断面图(5)

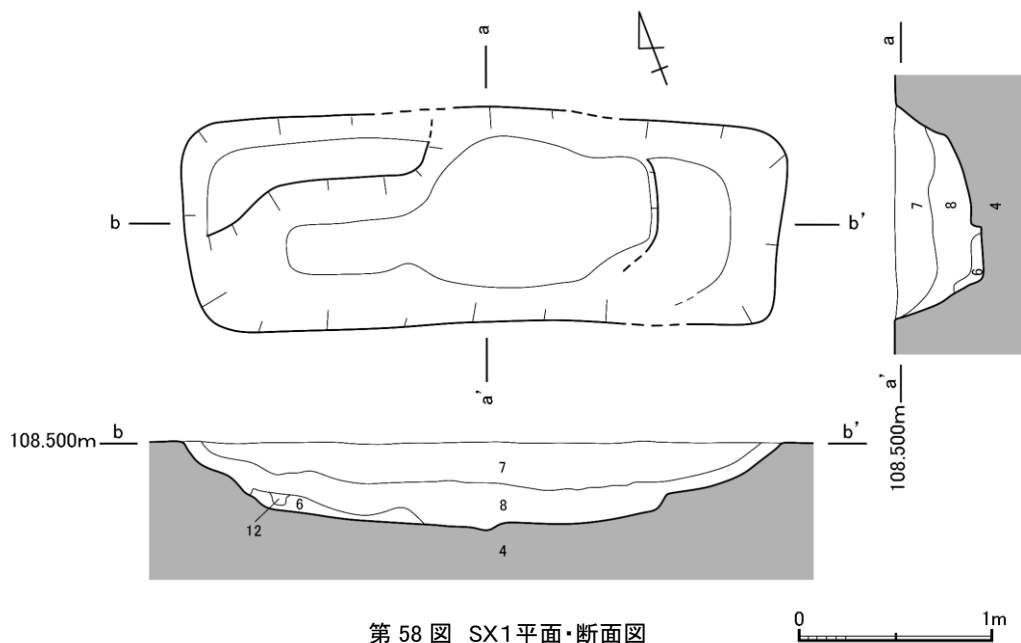


第 57 図 SP断面図(6)

その他の遺構（不明遺構）

S X 1 規模は、長軸 3.18m、短軸 1.14m、深さ 0.45mを測る、隅丸方形を呈する遺構であると考えられる。土坑もしくは土壇墓の可能性もあるが不明遺構とした。

遺物は出土していない。



第 58 図 SX1平面・断面図

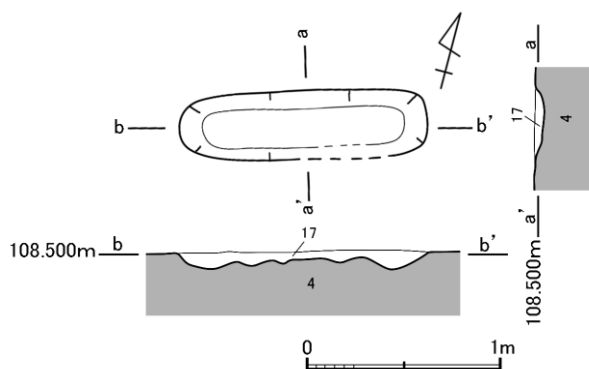
S X 2 規模は、長軸 1.31m、短軸 0.36m、深さ 0.09mを測る、隅丸方形を呈する遺構であると考えられる。土坑もしくは土壇墓の可能性もあるが不明遺構とした。

遺物は、埋土内から土師器片 2 点が出土している。

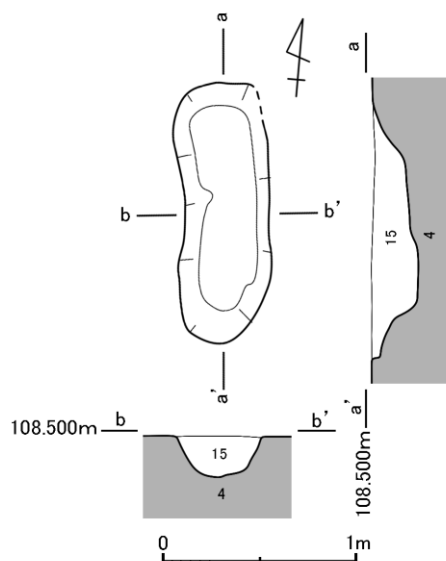
S X 3 規模は、長軸 1.37m、短軸 0.48m、深さ 0.21mを測る、やや歪な隅丸方形を呈する遺構であ

ると考えられる。土坑もしくは土壙墓の可能性もあるが不明遺構とした。

遺物は、埋土内から土師器片・須恵器片 8 点が出土している。これらの出土遺物のうち、土師器甕 1 点を実測した（遺物実測図No.31）。



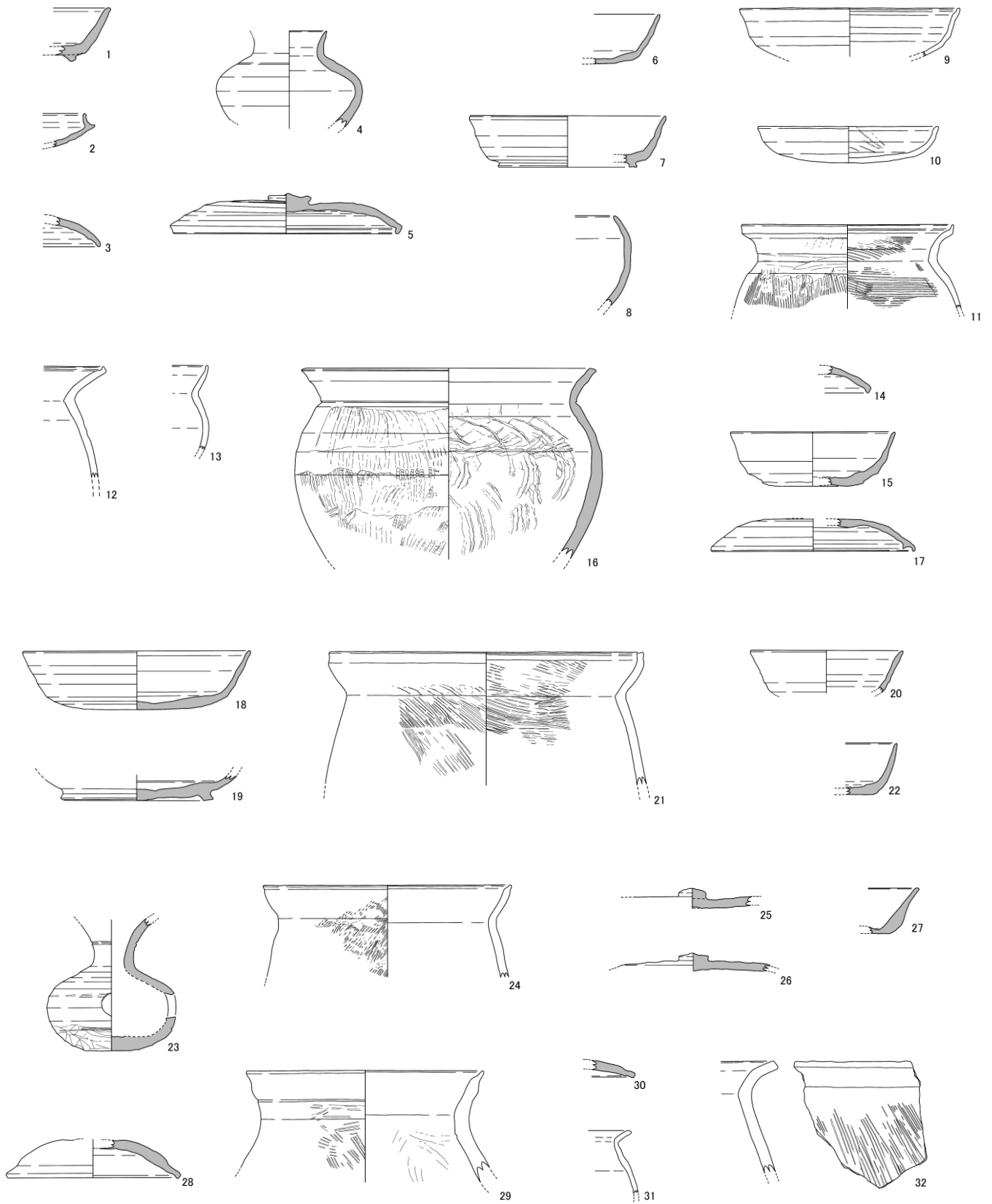
第 59 図 SX2平面・断面図



第 60 図 SX3平面・断面図

遺物

各遺構から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第7表 遺物観察表を参照されたい。



第 61 図 渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査 出土遺物

第7表 渡岸寺遺跡第15次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土 遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SB2 S6	須恵器	杯	N7 灰白色	N7 灰白色	N7 灰白色	密 (中粒砂・長石)	良	回転ナデ ヘラケズリ ナデ	回転ナデ	器高 3.9	1/8 (底部)	7世紀中頃
2	SB5 S2	須恵器	杯	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	密 (細粒砂)	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 2.4 cm	1/8 (口縁部)	杯身(受け部あり)
3	SB9 S3	須恵器	皿	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	密 (粗粒砂)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.9	1/8 (口縁部)	8世紀前半
4	SK1	須恵器	短頸壺	7.5Y6/1 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	密	良	回転ナデ 凹線 ヘラケズリ	回転ナデ	残存高 6.8 最大径 10.1	1/2	自然釉 6世紀後半
5	SK1	須恵器	杯	N6 灰色	N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂)	良	ヘラケズリ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ ナデ	回転ナデ	器高 2.9 口径 16.2 最大径 16.8	4/5	つまみ付杯身 8世紀前半
6	SK1	須恵器	杯	N6 灰色	N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂)	良	回転ナデ ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	器高 3.5	1/8	杯身 7世紀末～8世紀前半
7	SK1	須恵器	杯	N6 灰色	N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂・中粒砂)	良	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	器高 3.8 復元口径 14.0 復元底径 9.9	1/3 (底部)	反転復元 高台付杯身 8世紀前半
8	SK1	須恵器	鉢	N7 灰白色	N7 灰白色	N7 灰白色	密 (粗粒砂)	やや不良	不明	不明	残存高 6.4	1/8 以下 (口縁部)	8世紀中頃
9	SK1	土師器	皿	5Y7/8 橙色	2.5Y6/6 橙色	5Y7/6 橙色	密 (粗粒砂)	やや不良	ミガキ 彩色	彩色	残存高 3.5 復元口径 15.8	1/5 (口縁部)	反転復元 8世紀中頃
10	SK1	土師器	皿	10YR7/4 にぶい黄橙色	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	密 (細粒砂・石英)	やや良	剥離のため不明 彩色	暗文 彩色	器高 2.6 口径 13.0	3/5	黒斑あり 8世紀前半～中頃
11	SK1	土師器	壺	2.5YR6/6 橙色	7.5YR2/5 灰褐色	10YR4/1 褐灰色	密 (粗粒砂)	やや不良	ヨコナデ ハケメ	ハケメ ナデ	残存高 6.0 復元口径 15.3	1/4 (口縁部)	反転復元
12	SK2	土師器	壺	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	密 (細粒砂・長石・石英・雲母)	やや良	ハケメ	不明	残存高 8.0	1/10 以下 (口縁部)	表面の摩耗著しい
13	SK3	土師器	壺	10YR6/2 灰黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	密 (細粒砂・長石・石英)	やや良	ハケメ	不明	残存高 6.1	1/5 (口縁部)	断面実測 表面の摩耗著しい
14	SK4	須恵器	杯	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	密 (粗粒砂)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.9	1/10 以下	杯蓋 自然釉 8世紀前半
15	SK4	須恵器	杯	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	密 (粗粒砂)	やや良	回転ナデ ヘラ切り未調整	回転ナデ	器高 3.9 復元口径 11.8 復元底径 5.0	1/4 以上 (底部)	反転復元 杯身 7世紀中頃～
16	SK6	須恵器	広口鉢	N5 灰色	N5 灰色	2.5YR6/3 にぶい橙 色	密 (粗粒砂)	良	タタキ タタキの後ナデ	回転ナデ タタキ	残存高 13.7 復元口径 20.4 最大幅 22.2	1/4	反転復元 外面 平行タタキ後ナデ 内面 円弧状タタキ
17	SK6	須恵器	杯	N6 灰色	N7 灰白色	N7 灰白色	密 (細粒砂)	良	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	残存高 2.3 復元口径 14.6	1/4 (口縁部)	反転復元 杯蓋(かえり付き) 7世紀後半
18	SK6	須恵器	杯	N7 灰白色	N6 灰色	N7 灰白色	密 (粗粒砂)	やや良	回転ナデ ヘラケズリ 指頭痕	回転ナデ	器高 4.2 復元口径 16.4	2/5	反転復元 7世紀後半～
19	SK6	須恵器	杯	N7 灰白色	N7 灰白色	N7 灰白色	密 (粗粒砂)	やや良	回転ナデ 不定方向ナデ	回転ナデ ナデ	残存高 1.8 底径 9.9	1/1 (底部)	8世紀
20	SK6	須恵器	杯	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	密 (粗粒砂)	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 3.0 復元口径 10.8	1/4 (口縁部)	反転復元 6世紀後半以降
21	SK6	土師器	壺	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	密 (粗粒砂)	やや良	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ	残存高 9.6 復元口径 22.6	1/4 (頸部)	反転復元
22	SK8	須恵器	杯	2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	密 (粗粒砂)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 3.7	1/10 以下	杯身
23	SD1	須恵器	鉢	N4 灰色	N4 灰色	10Y6/1 灰色	密 (中粒砂)	良	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ ケズリ 凹線	回転ナデ	残存高 9.5 底径 3.2 胴径 9.2	2/3	底部外面不定方向ケズリ 7世紀前半
24	SD1	土師器	壺	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/3 にぶい橙 色	7.5YR7/6 橙色	密	良	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	残存高 6.6 復元口径 17.8	1/4 (口縁部)	反転復元
25	SD2	須恵器	杯	7.5Y5/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	密	良	回転ナデ	回転ナデ後ナデ	残存高 1.5 ツマミ径 2.0	1/6	反転復元 火ぶくれあり 8世紀末
26	SP43	須恵器	杯	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	密	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.3 ツマミ径 2.1	1/12	反転復元 杯蓋
27	SP47	須恵器	杯	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	密	やや不良	不明	不明	残存高 3.2	1/4 (底部)	杯身 剥離・摩耗が著しい
28	SP79	須恵器	杯	2.5Y7/1 灰白色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	密	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 2.7 復元口径 12.4	1/4	反転復元 杯蓋(ツマミ接合痕あり)
29	SP94	土師器	壺	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/3 にぶい橙 色	7.5YR7/3 にぶい橙 色	密	良	ハケメ?	ナデ	残存高 8.1 cm	1/10 (口縁部)	内面に工具痕残る 表面の摩耗により調整 不明瞭
30	SP10	須恵器	杯	7.5Y5/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	密 (細粒砂)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.2	1/10 以下	杯蓋 8世紀中頃
31	SX3	土師器	壺	10YR5/2 灰黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR6/2 黄褐色	やや粗 (粗粒砂)	やや不良	ハケメか?	ハケメか?	残存高 4.5	1/10 以下	煤付着 口縁～肩部 摩耗が著しい
32	不明	土師器	壺	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	10YR6/1 褐灰色	やや粗 (粗粒砂)	良	ハケメ	ナデ	残存高 8.0	1/10 以下	

（４）総括

今回の調査地の北や東ではこれまでに調査が行われており、竪穴建物・掘建柱建物・土坑・溝・ピットなどが検出されている。今回の調査地でも遺構の存在は調査前から予想されていたが、やや遺構密度は減るものと考えていた。しかしながら、予想に反して遺構が密に検出された。さらに西や南へ遺構が続くことは明らかであり、今後の調査で遺跡の広がりがさらに明らかになることを期待したい。また、今回の調査地では掘建柱建物が多数検出された。大型の掘り方を持つ総柱建物もあり、倉庫などの建物が存在した可能性もあり、寺院や官衙などにとまなうものであろうか。今後の調査に期待したい。

第4節 列見城遺跡第7次発掘調査（N2011146）

1. 調査の経過

（1）調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅新築工事に伴う本発掘調査である。

平成23年11月14日に原因者より届出があり、協議の結果、当該地において遺構の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成23年11月24日に実施し、溝状遺構、柱穴等が確認された。

試掘調査の結果を基に遺跡の取り扱いについて協議を行った結果、対象面積約 139.41 m²のうち、工事によって遺跡の破壊を免れないと判断された約 14 m²について、本発掘調査を実施することとなった。



第 62 図 列見城遺跡第7次発掘調査・
列見町遺跡第 34 次発掘調査位置図

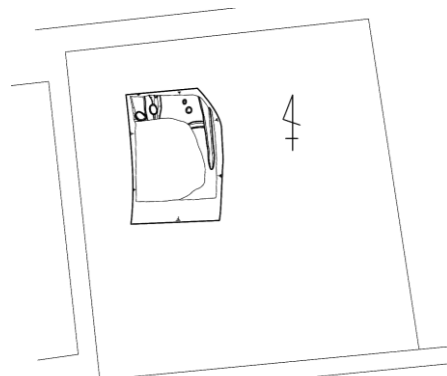
（2）発掘作業の経過

本発掘調査は、試掘調査直後の平成23年11月28日から12月8日にかけて実施した。

発掘調査の体制は、主体が長浜市教育委員会、調査担当は黒坂である。

発掘作業は、調査区域が狭小であったため一つのトレンチ（T1）として調査を実施した。

作業工程は、調査対象区域全体について、重機による遺構面直上までの掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截等、遺構完掘の順で行い、平面および断面実測などのデータ収集作業、出土遺物の取り上げや、記録写真撮影等の記録保存は、工程ごとに行った。雨天時には、出土遺物の洗浄等の暫定的な整理調査を行った。調査終了後は、埋戻しを行い原因者に引き渡した。また、個々の作業の詳細については、3. 調査の方法と成果（1）調査の方法で述べることとする。



第 63 図 列見城遺跡第7次発掘調査
トレンチ配置図

（3）整理等作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から平成24年3月30日までの期間で実施した。

出土した遺物には全てマーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡や遺構の性格や時期等を示し得るもので、遺存状態の良いものについてピックアップした。また、可能な限り遺構毎にピックアップするよう努めた。

ピックアップした遺物については、復元作業を行った後、実測図および遺物観察表の作成を行った。

上記作業終了後に報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業、並びに写真撮影を行った。また、出土遺物の保存方法については、復元可能な遺物のうち特に軟質な物については、バインダー溶液による硬化処理を施した。

断面図については、現地調査段階で遺構断面実測の際に記入した全ての土色、および土質について、本文中で統一した番号として使用できるよう整理を行い、第8表 土色・土質一覧表としてまとめた。

現地で実測した図面は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業等を行った。

現地で撮影した写真については、作業工程毎の状況が分かるようにピックアップし、写真の内容および撮影した方向が分かるように写真図版としてまとめた。

遺物写真については、いずれの調査も遺物の出土量が少なかったため、ひとつのまとまりとして撮影を行い、最終的に写真図版としてまとめた。

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

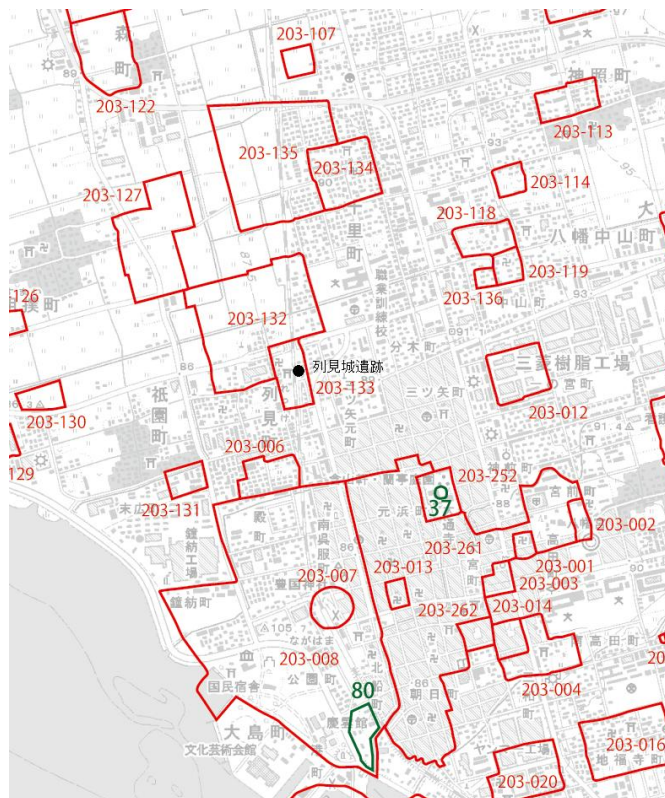
列見城遺跡（203-133）は長浜市列見町地先に所在する。この遺跡は中世の城郭関連遺跡、平地の居館跡と推測されている。遺跡の範囲は明確ではないが、東西方向約110m×南北方向約230mの長方形と想定されている。過去の調査例はなく、現況では土塁や堀などの痕跡は認められない。小字として西堂東、マトバがあり、地割りは条里型地割りにほぼ一致している。

(2) 歴史的環境

列見城に関する資料は、平成元年（1989年）に滋賀県教育委員会が編集・発行した『滋賀県中世城郭分布調査6（旧坂田郡の城）』にまとめられている。その報告によると、前記の遺跡範囲の中に南北2つの区画が想定されている。北側の区画の南端中央付近には都久夫須麻神社が鎮座しており、明治期の地籍図では的場井川に沿って社殿の西側に水路を巡らした一画があったようである。これが堀あるいは区画溝に比定できるかどうかは不明である。

この遺跡が城郭関連であるかどうかは現状ではわからないが、都久夫須麻神社には伊吹伊賀守の屋敷跡であったという伝承がある。それに細江重兵衛・細江左馬之助が社殿を永正年間に修築したと伝えられている。現状では、この伊吹氏と細江氏の屋敷跡として推測されている。

一方、同じ町内地先には隣接して弥生時代～平安時代の集落遺跡である列見町遺跡（203-132）が分布している。この遺跡では、ほ場整備事業に伴う発掘調査等で上記の時期の遺構・遺物が発見されている。ただし、遺跡範囲の明確化などは未だである。



遺跡番号		遺跡名
203	001	妙覚院遺跡
203	002	新放生寺遺跡
203	003	高田遺跡
203	004	東高田遺跡
203	005	三の宮古墳
203	006	地藏堂遺跡
203	007	南呉服町遺跡
203	008	長浜城遺跡
203	012	徳蔵坊遺跡
203	013	浄琳寺遺跡
203	014	高田氏館遺跡
203	016	地福寺遺跡
203	020	神宮寺遺跡
203	107	塚田遺跡
203	113	神照奥屋敷城遺跡
203	114	神照城ノ北城遺跡
203	118	中山左馬亮館遺跡
203	119	中山修理亮館遺跡
203	122	森遺跡
203	127	相模東遺跡
203	130	天王社遺跡
203	131	一丁田遺跡
203	132	列見町遺跡
203	133	列見城遺跡
203	134	十里町城遺跡
203	135	十里町遺跡
203	136	本覚寺遺跡
203	252	大通寺遺跡
203	261	長浜町遺跡
203	262	西徳寺・長因寺・東光寺遺跡

第 64 図 列見城遺跡と周辺の遺跡

この2つの遺跡は現湖岸汀線より東へ約1.5kmに位置しており、姉川の旧河道の1つである大井川流域に位置している。

周辺に分布する遺跡（第64図）を挙げると、東方には神照城ノ北城遺跡（城跡・203-114）、中山左馬亮館遺跡（館跡・203-118）、中山修理亮館遺跡（館跡・203-119）、本覚寺遺跡（寺院跡・203-136）、徳蔵坊遺跡（寺院跡・203-012）など、西方には相撲南遺跡（集落跡・203-126）、相撲宗玄城遺跡（城跡・203-124）、天王社遺跡（神社跡・203-130）、祇園古屋城遺跡（203-129）など、北方には相撲東遺跡（集落跡・203-127）、十里町遺跡（集落跡・203-135）、十里町城遺跡（城跡・203-134）など、南方には一丁田遺跡（集落跡・203-131）、地藏堂遺跡（寺院跡・203-006）、南呉服町遺跡（屋敷跡・203-007）、長浜町遺跡（集落跡・203-261）、長浜城遺跡（城跡・寺院跡・203-008）などがある。これらの遺跡は列見城遺跡および列見町遺跡とともに今後の調査に期するところが多い。

3. 調査の方法と成果

（1）調査の方法

重機を使用して遺構面直上までの掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。

基本的な遺構の掘り下げ方法については、ピットは半截、溝状遺構については断面観察用のセクションベルト設定し、セクションごとに掘削を行い、断面実測および写真撮影を行った後遺構を完掘した。

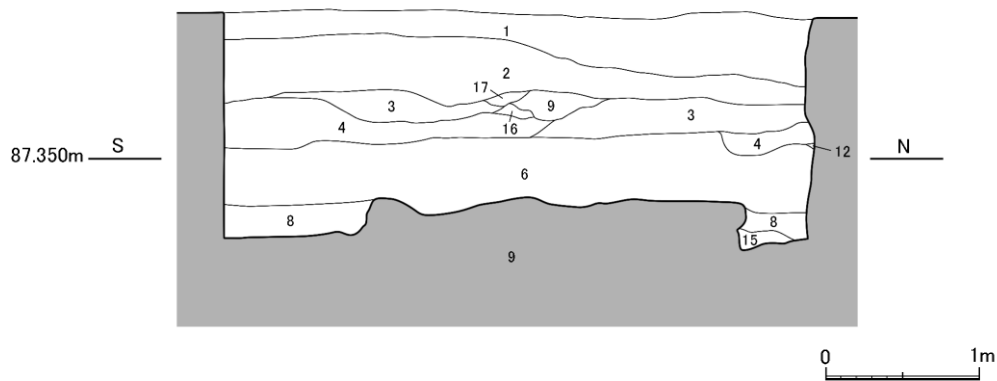
遺物の取り上げ方法については、遺構、セクションおよび層位ごとに取り上げた。

また、床面から出土した遺物や完形品等については、平面実測、レベル測定、出土状況写真撮影等を行った後取り上げた。

全景写真については、可能な限り四方向から発掘調査前後の状況写真、遺構検出状況、遺構完掘状況の段階で撮影し、部分写真については、遺構毎に、検出、半截時の断面、完掘の時点で、白黒フィルムとリバーサルフィルムを用いて撮影した。

（2）層序

調査区の基本的な土層堆積状況は6層からなり、第1層 10YR4/1 褐灰色極粗粒砂、第2層 10YR7/3 にぶい黄橙色極粗粒砂、第3層 10YR6/1 褐灰色シルト、第4層 10Y6/1 灰色シルト、第5層 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト、第6層 10YR5/1 褐灰色シルトで、地山は 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトである。



第 65 図 調査区壁面図

(3) 発掘調査

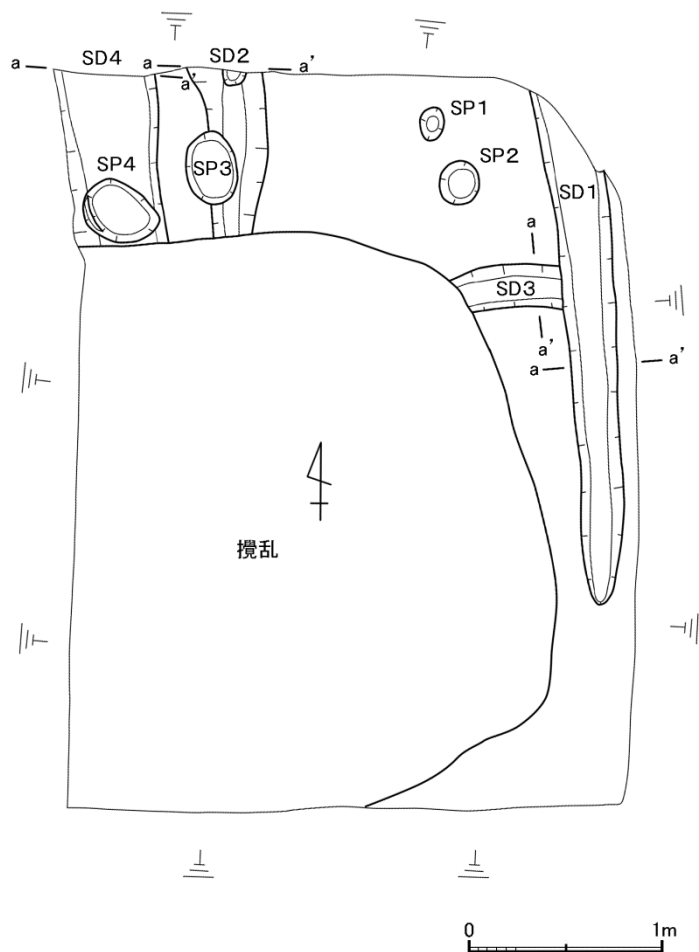
第8表 列見城遺跡第7次調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR4/1	褐灰色	極粗粒砂	盛土
2	10YR7/3	にぶい黄橙色	極粗粒砂	盛土
3	10YR6/1	褐灰色	シルト	
4	10Y6/1	灰色	シルト	
5	10YR5/4	にぶい黄橙色	シルト	
6	10YR5/3	にぶい黄橙色	シルト	
7	10YR5.5/1	褐灰色	シルト	
8	10YR5/1	褐灰色	シルト	
9	10YR7/2	にぶい黄橙色	シルト	地山
10	10Y5/2	灰オリーブ色	シルト	
11	10Y6.5/1	灰色	シルト	
12	10YR4.5/4	にぶい黄橙色	シルト	
13	10Y6/1	灰色	10YR5/3 にぶい黄橙色シルト混じる シルト	
14	10YR5/1	褐灰色	粗砂混シルト	
15	10YR5/1	褐灰色	10YR7/2 にぶい黄橙色シルト混じる シルト	
16	10YR7/2	にぶい黄橙色	10YR6/1 褐灰色シルト混じる シルト	
17	10YR6/1	褐灰色	大礫混シルト	

以下に、列見城遺跡第7次発掘調査の成果について記す。

なお、断面図中の番号は調査ごとに記載している、土色・土質一覧の番号に対応している。

遺構



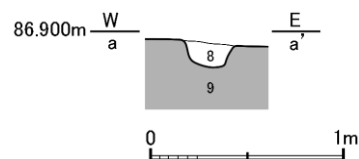
第 66 図 調査区平面図

溝状遺構

SD 1 遺構北部が調査区域外に延び、南部はSD 2によって切られているため、遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ねN - 11° - Wに取り、総延長 2.63m以上、幅 0.20m～0.30m、深さ 0.14mを測る、溝状遺構であると考えられる。

遺構埋土は 10YR5/1 褐灰色シルトで、地山は 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトである。

遺物は土師器片が 10 点出土している。

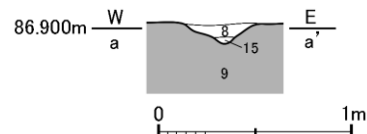


第 67 図 SD1断面図

SD 2 遺構北部が調査区域外に延び、南部は攪乱を受けているため遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ねN - 9° - Wに取り、総延長 0.88m以上、幅 0.20m～0.40m、深さ 0.08mを測る、溝状遺構であると考えられる。

遺構埋土は 2 層からなり、第 1 層 10YR5/1 褐灰色シルト、第 2 層 10YR5/1 褐灰色シルト（10YR7/2 にぶい黄橙色シルト混）で、地山は 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトである。

遺物は出土していない。

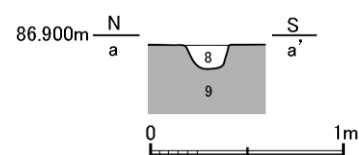


第 68 図 SD2断面図

SD 3 遺構東部がSD 1により切られており、西部は攪乱を受けているため、遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ねN - 86° - Eに取り、総延長 0.52m以上、幅 0.20m～0.23m、深さ 0.13mを測る、溝状遺構であると考えられる。

遺構埋土は 10YR5/1 褐灰色シルトで、地山は 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトである。

遺物は土師器片が 3 点出土している。

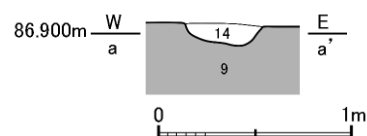


第 69 図 SD3断面図

SD 4 遺構北部が調査区域外に延び、南部は攪乱を受けているため遺構の全容については明らかにすることができなかったが、確認できた範囲で主軸を概ねN - 7° - Wに取り、総延長 0.90m以上、幅 0.48m～0.52m、深さ 0.08mを測る、溝状遺構であると考えられる。

遺構埋土は 10YR5/1 褐灰色シルト粗砂混で、地山は 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトである。

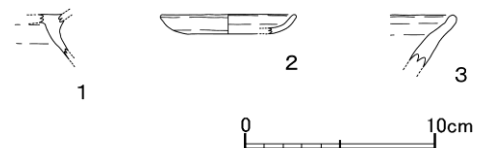
遺物は土師器片が 10 点出土している。



第 70 図 SD4断面図

遺物

各遺構から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第9表 遺物観察表を参照されたい。



第 71 図 列見城遺跡第7次発掘調査出土遺物

第9表 列見城遺跡第7次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	包含層他 精査時出土	土師器	皿	10YR8/2 灰白色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR5/1 褐灰色	密 (粗粒砂)	良	ナデ	ナデ	残存高 2.4	1/6 (底部)	断面実測 杯または皿の高台
2	SD1	土師器	皿	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.0 復元口径 6.0	1/4 (口縁部)	反転復元
3	SP4	土師器	甕	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR4/1 褐灰色	密 (粗粒砂)	良	ナデ	ナデ	残存高 2.7	1/6 (口縁部)	断面実測 外面に指圧痕あり

(4) 総括

第7次調査区では約1/2が攪乱によって破壊されていたが、ピット・溝といった遺構が確認された。この遺跡で初めて確認された遺構である。遺物（土器類）も少量かつ細片であるが出土しており、遺跡として認識できたことが大きな成果である。しかし、今回発見された遺構・遺物より、当調査区および遺跡の時期、性格などを推定することは困難である。

ピットは柱穴跡とみられるが、建物の規格は不明である。溝は条里型地割りにほぼ一致すると推測されるが、報告したとおり小規模である。区画溝などではなく、農耕に伴うあるいは建物の排水用溝などが想定されるが断定できない。出土土器は少なく、平安時代後期～中世の時間幅が推定されるが、溝は埋土、柱穴は掘方の出土であり、帰属時期は限定できない。

今回の調査区は極めて狭隘な面積であったが、遺構・遺物が確認された。しかし、現在想定されている城郭関連とは断定できず、ほかの性格も十分に想定される。一方では、今後の調査に委ねるところが大きい、細江荘に属したと推定されるこの地先と周辺の変遷を理解するための一步を踏み出したと言える。

第5節 列見町遺跡第34次発掘調査（N2011180）

1. 調査の経過

（1）調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅新築工事に伴う本発掘調査である。平成24年2月7日に原因者より届出があり、協議の結果、当該地において遺構の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成24年2月15日に実施し、試掘坑から、ピット、溝等の遺構が検出され、土師器の遺物が出土した。試掘調査の結果を基に遺跡の取り扱いについて協議を行った結果、対象面積約156.14㎡のうち、基礎工事等により遺跡の破壊を免れないと判断された約35㎡について、本発掘調査を実施することとなった。

なお、調査位置については第62図を参照されたい。

（2）発掘作業の経過

本発掘調査は、試掘調査直後の平成24年2月16日から3月9日にかけて実施した。

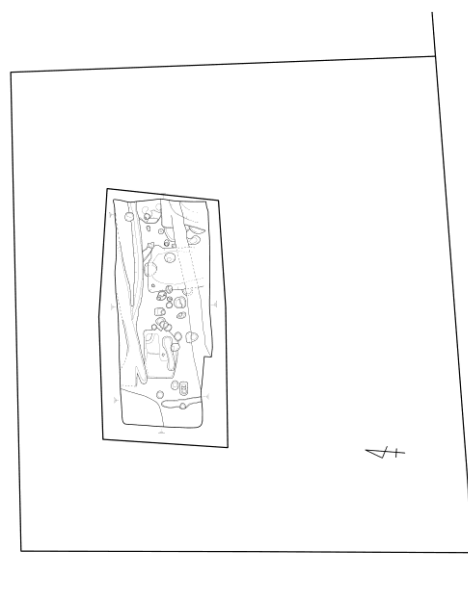
発掘調査の体制は、主体が長浜市教育委員会、調査担当は沢村である。

発掘作業は調査区全域をひとつのトレンチとして実施した。

作業工程は、重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、遺構の半截、遺構完掘の順で行い、図面作成などのデータ収集、および記録写真撮影は工程ごとに行った。個々の作業の詳細については、

3. 調査の方法と成果で述べることとする。

調査区域における全ての作業終了後に埋め戻しを行い原因者に引き渡した。



第72図 列見町遺跡第34次発掘調査 トレンチ配置図

（3）整理等作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から、平成24年3月までの期間内で実施した。

出土した遺物は、全て遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

出土した遺物の大半は細片であったが、それらの内、遺跡の性格や時期等を示し得るもので、実測可能なものについてピックアップした。

ピックアップした遺物については、実測図の作成、トレース作業、遺物観察表の作成を行った後、写真撮影を行った。

現地で実測した図面等は、整理、合成、トレース等を行い、必要に応じてデジタルデータ化した。

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境・歴史的環境

列見町遺跡は列見城遺跡と近接しているため、地理的環境・歴史的環境は第4節 列見城遺跡第7次発掘調査にあわせて記述している。列見城遺跡7次の地理的環境および歴史的環境を参照していただきたい。

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

発掘調査区の設定方法は、調査区全体をひとつのトレンチ（T-1）とした。

表土は、重機を使用し遺構面直上まで掘削し。その後、人力により遺構確認作業を行った。

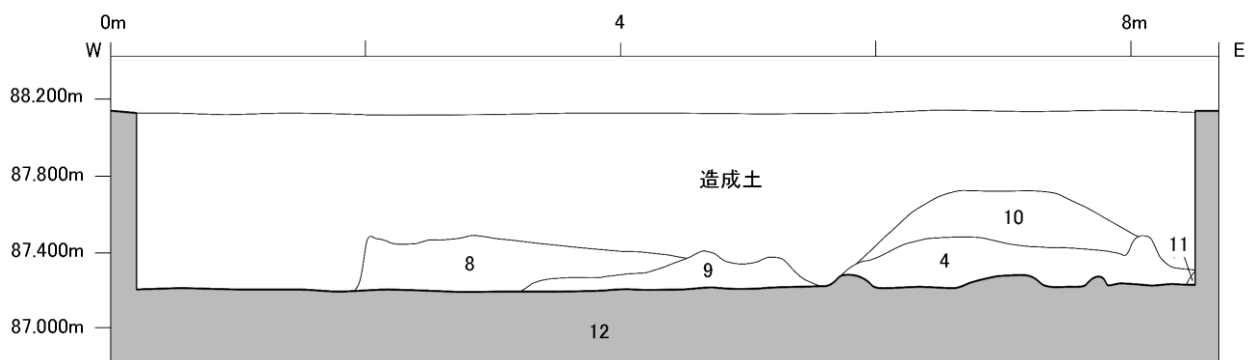
基本的な遺構の掘り下げ方法は、土坑については四分法と半截、溝については適宜直行する方向に土層観察用あぜを残し、それ以外については半截を行い、断面実測、および写真撮影等は工程毎ごとに行った。

遺物の取り上げ方法については、遺構ごと、かつ層位毎に行った。写真撮影は、白黒フィルムとリバーサルフィルムを使用した。

(2) 層序

調査区の基本的な土層堆積状況は次のとおりである。

第1層は、現況面以下0.7mまでが造成土、現況面以下0.7mで検出された灰色（5Y4/1）が地山であると考えられる。

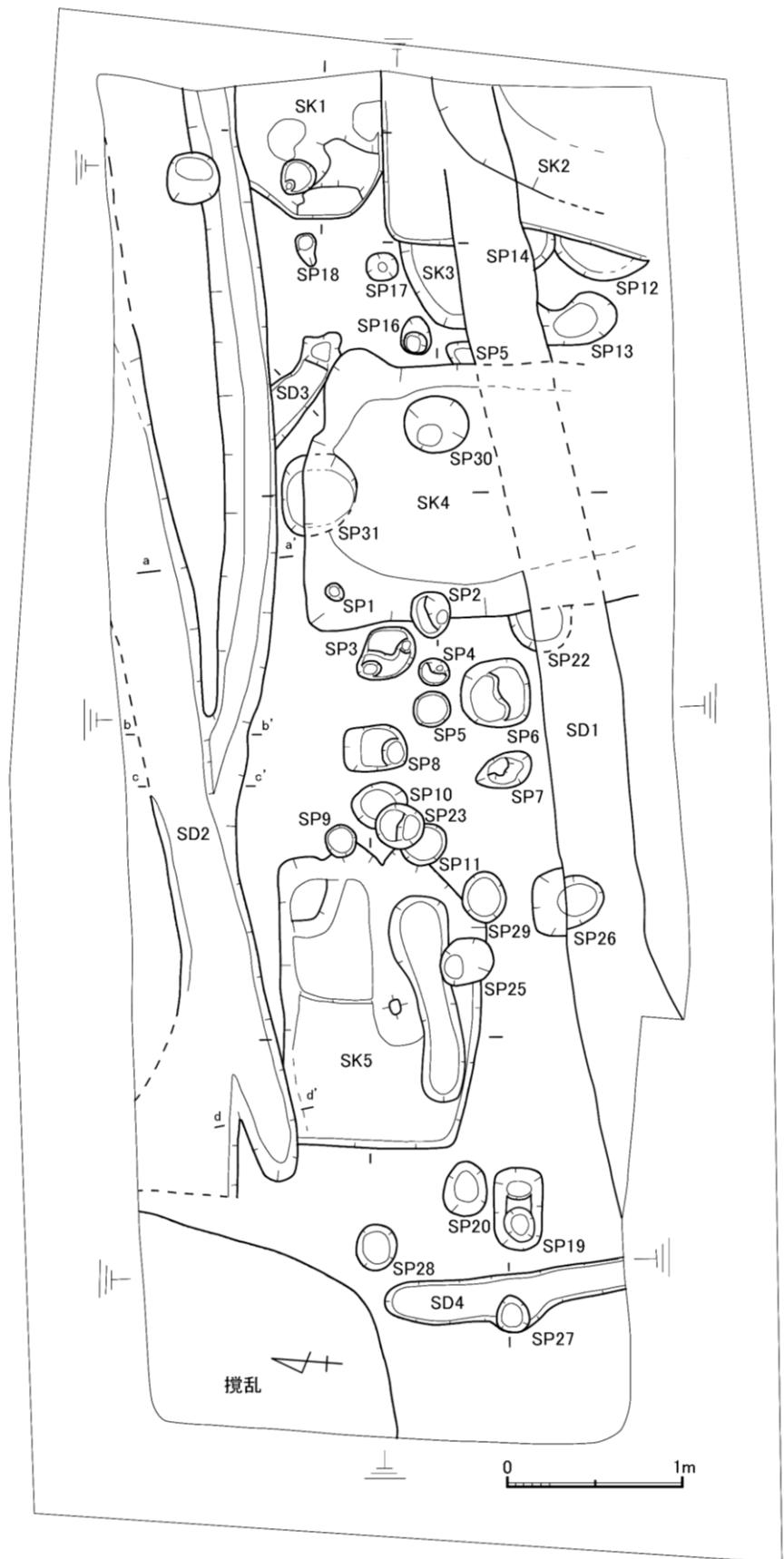


第 73 図 調査区壁面図

(3) 発掘調査

遺構

今回の調査で検出された遺構は、土坑 5 基、溝状遺構 4 条、ピット 31 基である。以下に、個々の概要について記す。



第 74 図 列見町遺跡第 34 次発掘調査 調査区平面図

第 10 表 列見町遺跡第 34 次発掘調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	5Y4/2	灰オリーブ色	粗粒砂混細粒砂	
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂混極細粒砂	
3	2.5Y3/2	黒褐色	極細粒砂	
4	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
5	5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂混極細粒砂	
6	7.5Y4/1	灰色	極粗粒砂	
7	5Y3/2	オリーブ黒色	中礫混細粒砂	
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中礫混極細粒砂	
9	2.5Y3/2	黒褐色	中礫混極細粒砂	
10	2.5Y3/1	黒褐色	細礫混極細粒砂	
11	5Y3/2	オリーブ黒色	粗粒砂	
12	5Y4/1	灰色	粗粒シルト	地山
13	5Y3/2	オリーブ黒色	細粒砂	地山
14	5Y3/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
15	7.5Y3/1	オリーブ黒色	中粒砂	
16	5Y4/1	灰色	細粒砂	
17	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
18	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒シルト	
19	5Y3/1	オリーブ黒色	中礫微量含む細粒砂	
20	2.5Y3/1	黒褐色	中礫混細粒砂	
21	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	細粒砂混極細粒砂	
22	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂	
23	2.5Y3/1	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	

溝状遺構

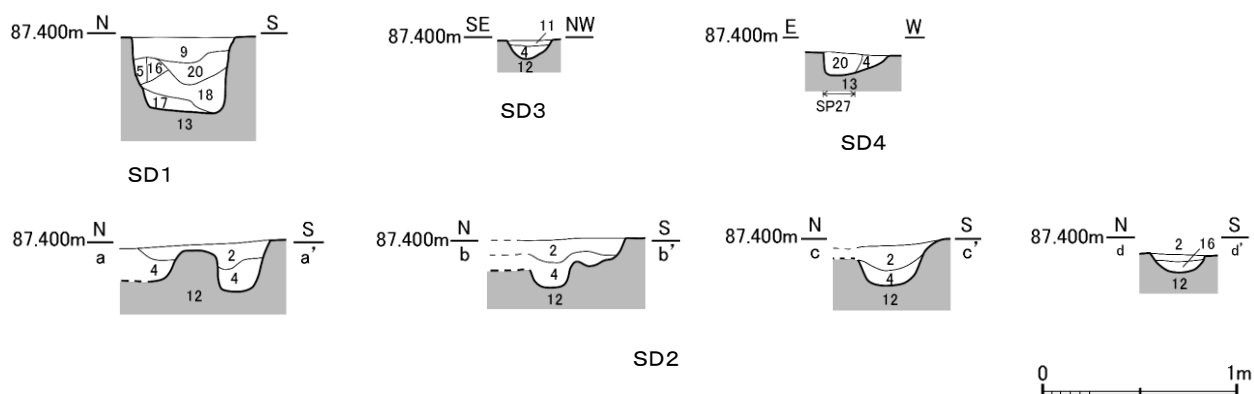
SD 1 主軸を概ねW-14° - Sにとり、東西に延びる溝状遺構である。遺構の東部、西部が調査区域外に延びているため規模等については明確でない。確認出来た範囲で長さ6.60m以上、幅0.40m、深さ0.40mを測る溝状遺構である。

遺物は、土師器13点、須恵器2点、陶器1が出土している。

SD 2 主軸を概ねW-19° - Sにとり、東西方向に延びる溝状遺構である。遺構の東部が調査区域外に延び、西部は攪乱のため規模等規模等について明確でない。確認出来た範囲で、長さ6.50m以上、幅0.40m～0.90m以上、深さ0.12m～0.25mを測る溝状遺構である。

遺物は、土師器8点、陶器6点が出土している。

SD 3 主軸を概ねN-60° - Wにとり、北西南東に延びる溝状遺構である。遺構の北部がSD 2に切



第 75 図 SD1～4断面図

られているため規模等について明確でない。確認出来た範囲で、長さ0.65m以上、幅0.23m、深さ0.10mを測る溝状遺構である。

遺物は出土していない。

SD 4 主軸を概ねN-13°-Wにとり、南北方向に延びる溝状遺構である。遺構の南部が調査区域外に延びているため、規模等については明確でない。確認出来る範囲で長さ1.40m以上、幅0.30m、深さ0.08mを測る溝状遺構である。

遺物は、出土していない。

土坑

SK 1 遺構の北部と南部をSD 1とSK 2に切られ、遺構の東部が調査区域外に延びるため詳細については不明。

確認出来た範囲で、長軸0.90m以上、短軸0.85m以上、深さ0.28mを測る土坑である。

遺物は、瓦1点、土師器が15点、陶器3点が出土している。

SK 2 調査地内で部分的に検出したのみであるため詳細については不明。

確認出来た範囲で、長軸1.25m以上、短軸0.87m以上、深さ0.70mを測る土坑である。

遺物は、石1点、土師器3点、陶器2点が出土している。

SK 3 遺構の東部、南部をSK 2とSD 1に切られているため詳細については不明。

確認出来た範囲で、長軸0.50m以上、短軸0.35m以上、深さ0.31mを測る土坑である。

遺物は出土していない。

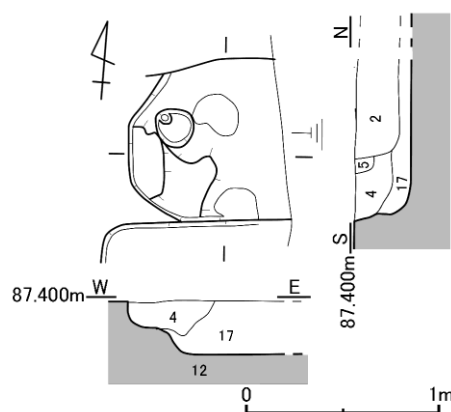
SK 4 遺構南部が調査区域外に延びているため詳細については不明。

確認出来た範囲で、長軸1.65m以上、短軸1.50m、深さ0.35mを測る土坑である。

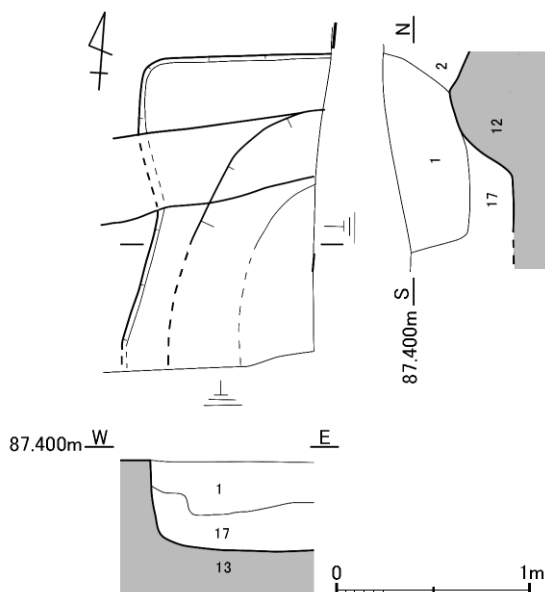
遺物は土師器が22点、須恵器1点、陶器2点出土している。

SK 5 長軸1.70m、短軸1.10m、深さ0.25mを測る不定形を呈する土坑である。

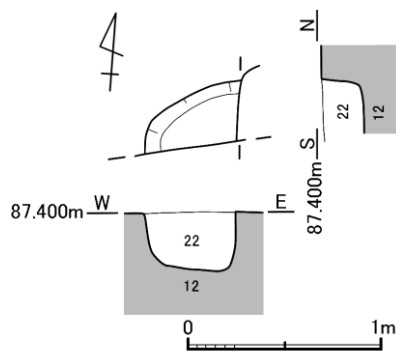
遺物は土師器6点、須恵器1点、陶器1点が出土している。



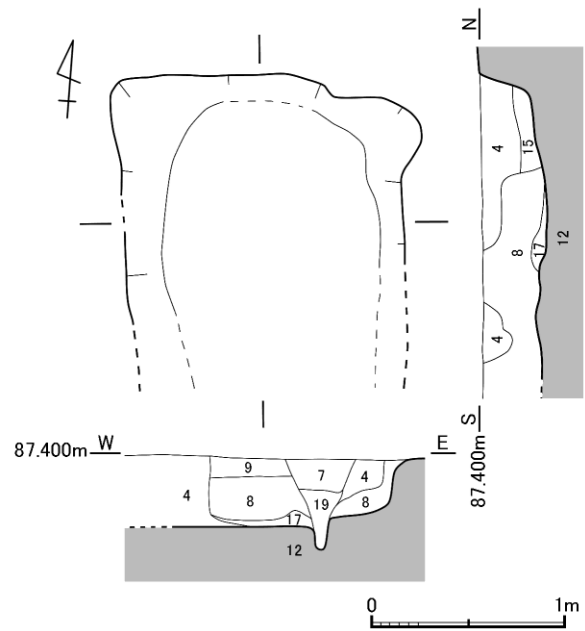
第 76 図 SK1平面・断面図



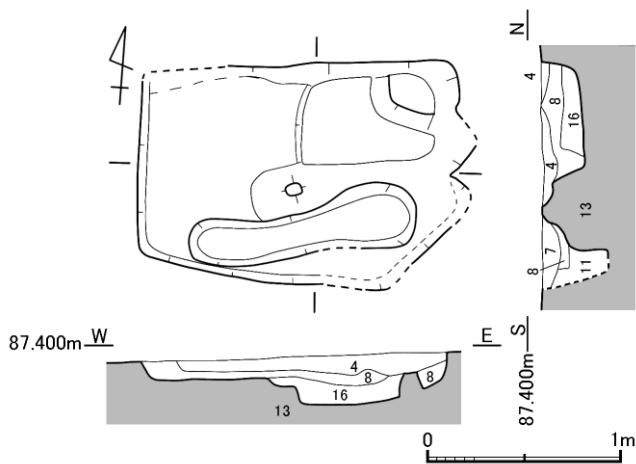
第 77 図 SK2平面・断面図



第 78 図 SK3平面・断面図



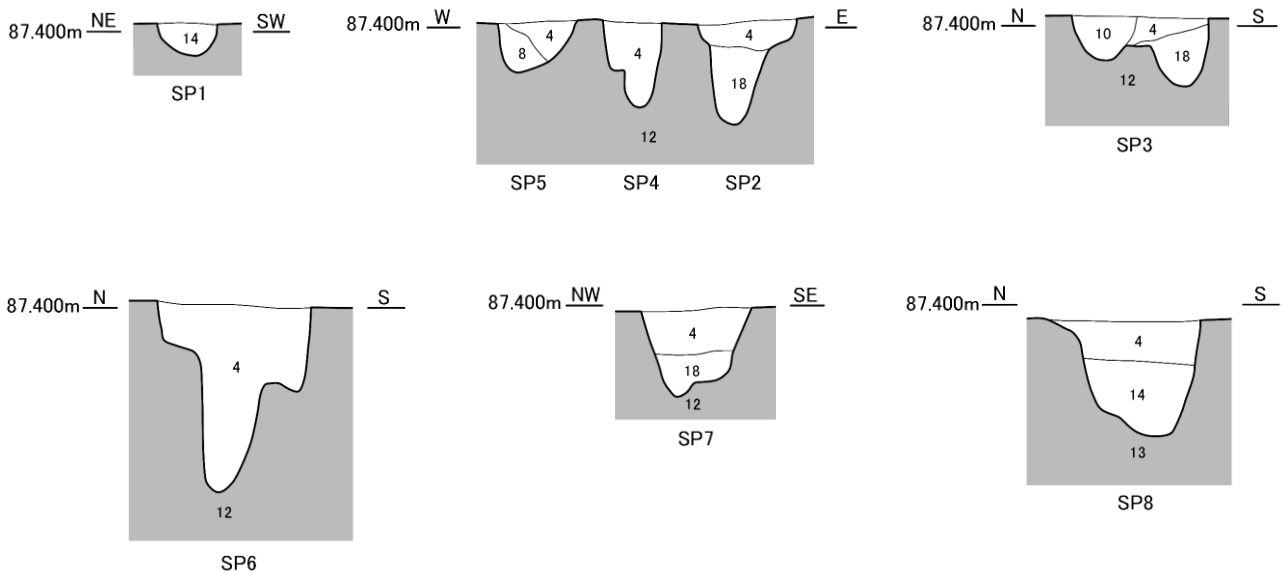
第 79 図 SK4平面・断面図



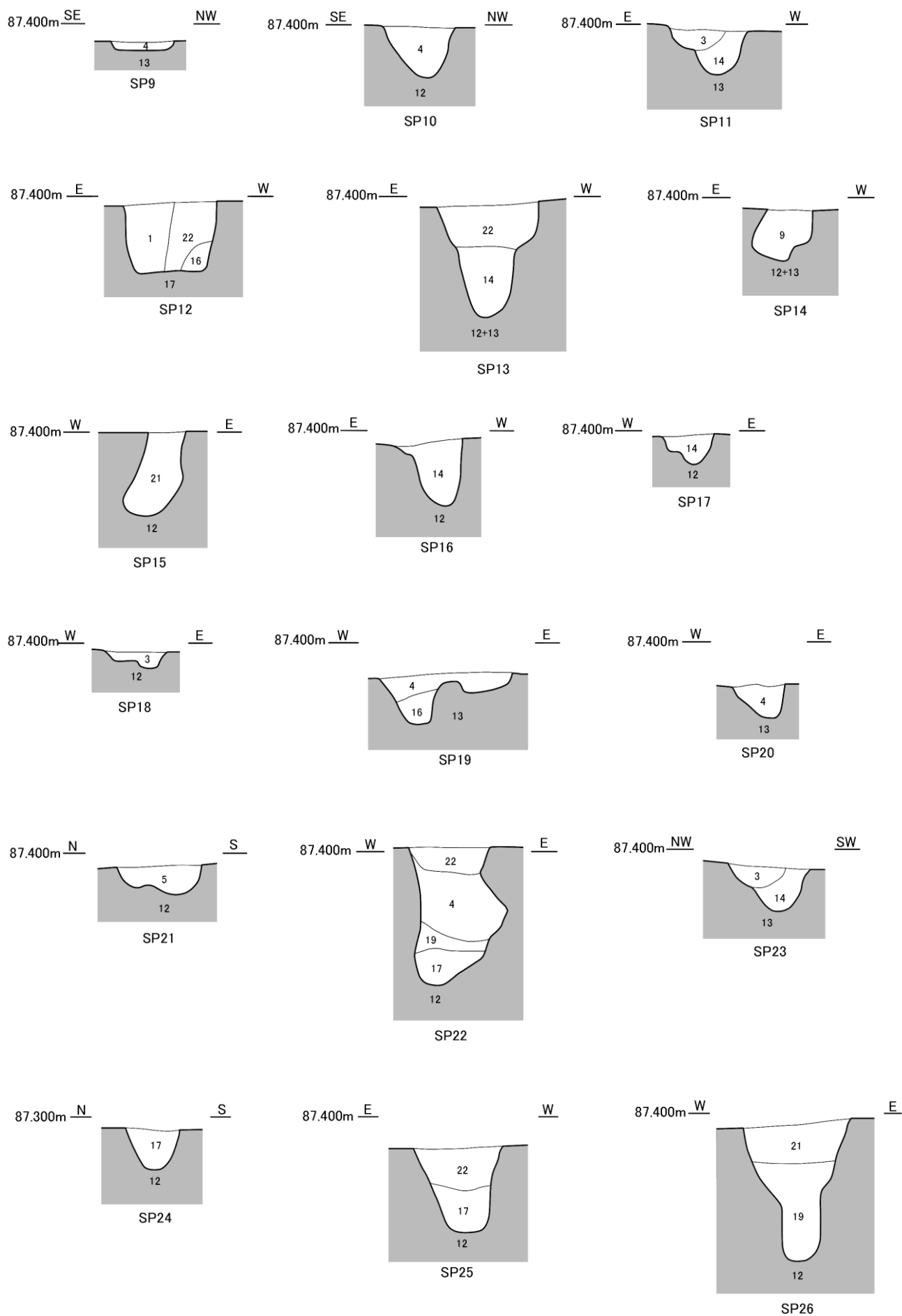
第 80 図 SK5平面・断面図

ピット

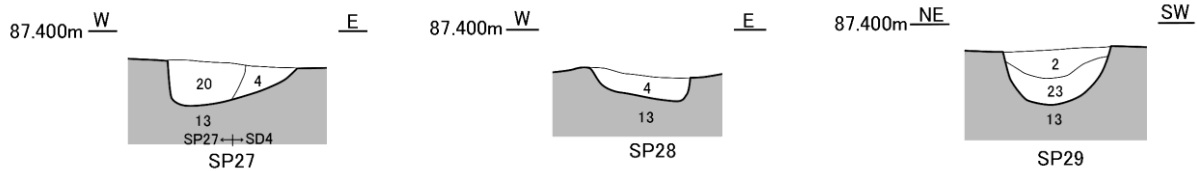
SP 1～29 の 29 基の柱穴状遺構（ピット）を検出した。掘立柱建物として復元できるものは無かった。以下に土層断面図を図示する。



第 81 図 ピット断面図(1)



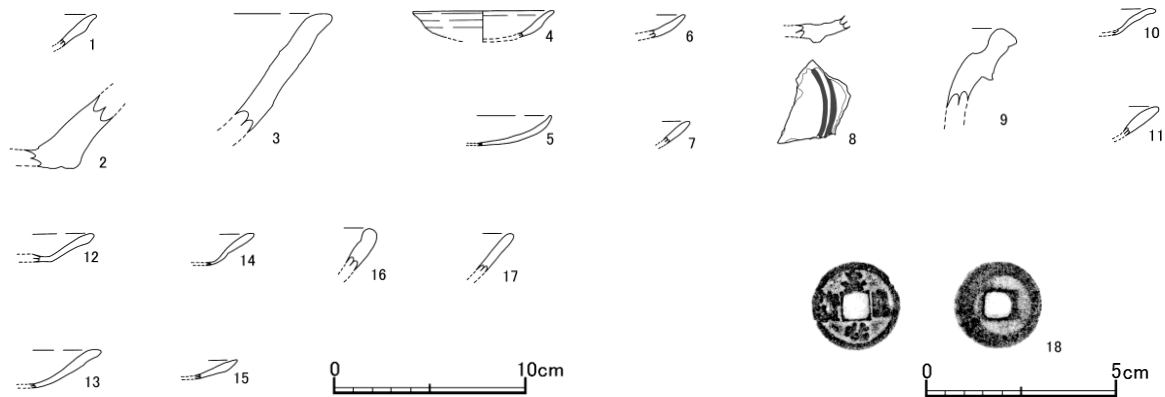
第 82 図 ピット断面図(2)



第 83 図 ピット断面図(3)

遺物

各遺構等から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第 11 表遺物観察表を参照されたい。



第 84 図 列見町遺跡第 34 次発掘調査出土遺物

第 11 表 列見町遺跡第 34 次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SD1	土師器	皿	7.5YR8/2 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	N6/0 灰色	密 中粒砂微量含む	良	ナデ	ナデ	残存高 1.7	1/10 以下	断面実測 S=1/1
2	SD2	陶器	鉢	5Y4/1 灰色	10YR5/1 褐色	5Y4/1 灰色	密 粗粒砂少量含む	良	回転ナデ 未調整	釉付着	残存高 3.8	1/10 以下	断面実測 内面釉付着 S=1/1
3	SD2	陶器	鉢	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	10Y8/2 灰白色	密 粗粒砂少量含む	良	ナデ 回転ナデ	ナデ 回転ナデ	残存高 6.2	1/10 以下	外面に接合痕 断面実測 S=1/1
4	SD2	土師器	皿	5YR8/4 淡橙色	5YR8/4 淡橙色	5YR8/3 淡橙色	密 粗粒砂微量含む	良	ナデ	ナデ	器高 1.6 復元口径 7.4	2/1 (口縁)	反転復元 S=1/1
5	SK1	土師器	皿	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.5	1/6 (口縁)	断面実測 S=1/1
6	SK1 北側	土師器	皿	7.5YR8/3 浅黄橙色	10YR8/2 灰白色	7.5YR7/2 明褐色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.2	1/7 (口縁)	断面実測 S=1/1
7	SK1 北側	土師器	皿	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	N7/0 灰白色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.2	1/10 (口縁)	断面実測 S=1/1
8	SK2	陶器	皿	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	密 中粒砂微量含む	良	釉付着	釉付着	残存高 1.3	1/7 (底部)	内外面釉付着・内面湾曲したライン。 貼り付け高台・断面実測・S=1/1
9	SK4	陶器	甕	N5/0 灰色	2.5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	密 粗粒砂多量含む	良	つまみナデ 回転ナデ	回転ナデ	残存高 4.1	1/10 (口縁)	断面実測 S=1/1
10	SP12	土師器	皿	7.5YR8/2 灰白色	7.5YR8/2 灰白色	7.5YR8/2 灰白色	密 粗粒砂微量含む	良	ナデ	ナデ	残存高 1.4	1/6 (口縁)	内面指頭圧痕あり 断面実測・S=1/1
11	SP19	土師器	皿	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/2 灰白色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.5	1/6 (口縁)	断面実測 S=1/1
12	SP20	土師器	皿	10YR8/1 灰白色	10YR8/2 灰白色	N7/0 灰白色	密 粗粒砂微量含む	良	ナデ	ナデ	残存高 1.5	1/6 (口縁)	断面実測 S=1/1
13	重機掘削中	土師器	皿	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	N6/0 灰色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 2.0	1/8 (口縁)	外面指頭圧痕あり 断面実測・S=1/1
14	重機掘削中	土師器	皿	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	N5/0 灰色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.7	1/10 以下	断面実測 S=1/1
15	重機掘削中	土師器	皿	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	N5/0 灰色	密	良	ナデ	ナデ	残存高 1.0	1/7 (口縁)	断面実測 S=1/1
16	重機掘削中	土師器	甕	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	5YR8/4 淡橙色	密 粗粒砂少量含む	良	ナデ	ナデ	残存高 2.2	1/10 以下	断面実測 S=1/1
17	重機掘削中	陶器	皿	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	10YR6/3 にぶい黄橙色	密 中粒砂微量含む	良	釉	釉	残存高 2.0	1/10 以下	外内面共に釉 断面実測・S=1/1
18	SP31	古銭	嘉祐通寶									ほぼ完品	汚れのため文字不鮮明 拓本

（４）総括

列見町遺跡は弥生時代～平安時代の集落跡として周知されている遺跡である。調査の結果、土坑 5 基・溝状遺構 4 条・ピット 31 基の遺構を検出し、土師器、須恵器、陶器、古銭が出土した。ピットから出土した古銭は嘉祐通宝で、嘉祐元（1056）年に初鑄されたものである。

今回の調査では遺物が少なく、遺構の年代が判然としないものが多かったが、近世に埋没したとみられる溝が検出されていることから、列見町遺跡の時代が中世や近世まで続くことも考えられる。したがって、近接している列見城遺跡と連続しているのかもしれないが、今後の調査に期待したい。

第2章 試掘調査

安導寺遺跡第1次調査 (N2011087) 寺田町字治朗左エ門 139

平成23年10月25日に物置新築に伴う試掘調査を行った。

対象面積635.5㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定し、2㎡について調査を実施した。



安導寺遺跡第1次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下0.05mまでが5Y8/1灰白色礫（造成土）、②0.05m～0.22mがN3/暗灰色細粒砂、③0.22m～0.78mが、2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂、④現況面以下0.78mで検出された2.5Y3/3オリーブ褐色礫混細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認できなかった。

0.00m～0.05m	①
0.05m～0.22m	②
0.22m～0.78m	③
0.78m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：池寄)

梅塚古墳群第3次調査 (N2011068) 榎木町790,791番地

平成23年8月5日に社務所建設に伴う試掘調査を行った。

対象面積3172㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定し、3㎡について調査を実施した。



梅塚古墳群第3次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下0.10mまでが10YR3/1黒褐色細粒砂、②0.10m～0.35mが10YR6/3にぶい黄橙色極細粒砂、③0.35m～0.50mが10YR6/2灰黄褐色粗粒シルト、④0.50m～が10YR5/1褐灰色極細粒砂混粗粒シルトであり、現況面以下0.35mで検出された10YR6/2灰黄褐色粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認できなかった。

0.00m～0.10m	①
0.10m～0.35m	②
0.35m～0.50m	③
0.50m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

円明寺遺跡第15次調査 (N2011165) 室町字雲門堂253番1外

平成23年1月19日に分譲宅地造成に伴う試掘調査を行った。

対象面積1965.47㎡に対し13ヶ所のトレンチを設定し、39.8㎡について実施した。

調査の結果、①現況面以下0.30mまでが10Y3/1オリーブ黒色細粒砂（整地層）、②



円明寺遺跡第15次調査区壁面

0.30m～0.50mが10Y4/1灰色極細粒砂、③0.50m～0.60mまでが7.5Y4/2灰オリーブ色極細粒砂で、④現況面以下0.60mで検出された10BG5/1青灰色シルトが地山と考えられる。

遺構は、T2で柱穴または土坑状遺構と溝状遺構が検出された。遺物は確認できなかった。

0.00m～0.30m	①
0.30m～0.50m	②
0.50m～0.60m	③
0.60m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

大戊亥遺跡第 75 次調査 (N2011126) 大戊亥町字村内 554 番地

平成 23 年 10 月 26 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 198.34 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。



大戊亥遺跡第 75 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.25m までが 2.5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂、②0.25m～0.43m が 2.5Y4/4 オリーブ褐色極細粒砂、③0.43m～0.52m が 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色細粒砂、④0.52m～0.63m が 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色細粒砂混 5Y5/1 灰色中粒砂で、⑤現況面以下 0.63m で検出された 5Y5/1 灰色中粒砂が地山と考えられる。遺構・遺物は確認できなかった。

0.00m～0.25m	①
0.25m～0.43m	②
0.43m～0.52m	③
0.52m～0.63m	④
0.63m～	⑤

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

大戊亥遺跡第 78 次調査 (N2011191) 大戊亥町字綾場 1112・1123・1124 番地

平成 24 年 3 月 5 日に倉庫新築工事に伴う試掘調査を行った。



大戊亥遺跡第 78 次調査区壁面

対象面積 483.52 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、2 m²について実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.70m までが造成土、②0.70m～0.95m が N3/暗灰色極細粒砂で、③現況面以下 0.95m で検出された 2.5GY6/1 オリーブ灰色細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認できなかった。

0.00m～0.70m	①
0.70m～0.95m	②
0.95m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：池寄)

大辰巳遺跡第 31 次調査 (N2011071) 大辰巳町字間所 286-4、287-3、287-4、288-3、288-4、289

平成 23 年 9 月 14 日～9 月 15 日にかけて、宅地造成工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 3350 m²に対し 30ヶ所のトレンチを設定し、60 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.20m までが 10YR4/2 灰黄褐色中礫混極細粒砂(耕土)、



大辰巳遺跡第 31 次調査区壁面

②0.20m～0.40m が 2.5Y4/1 黄灰色粗粒砂混極細粒砂、③現況面以下 0.40m で検出された 7.5Y4/1 灰色中礫混極粗粒砂が地山と考えられる

遺構は、溝状遺構が確認された。遺物は、弥生土器が出土した。

遺構が確認された部分が、極めて限定的であったため、遺構の広がり の想定される部分については工事立会調査とした。

(調査担当：山本)

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.40m	②
0.40m～	③

調査区壁面柱状図

国友町遺跡第 39 次調査 (N2011007) 国友町上折戸 455-4, 455-3 の一部

平成 23 年 4 月 19 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 101.17 m²に対し、3ヶ所のトレンチを設定し、2.5 m²について調査を実施



国友遺跡第 39 次調査区壁面

した。

調査の結果、①現況面以下 0.34m までが造成土、②0.34m～0.51m が 5Y4/2 灰オリーブ色細粒砂、③0.51m～0.65m が 5Y4/3 暗オリーブ色細粒砂、④現況面以下 0.65m で検出された 5Y4/1 灰色大礫混粗粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.34m	①
0.34m～0.51m	②
0.51m～0.65m	③
0.65m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

国友町遺跡第 44 次調査 (N2011149) 国友町字中筋 838 番

平成 23 年 11 月 25 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 305.49 m²に対し、1ヶ所のトレンチを設定し、12 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 10YR2/1 黒色粗粒砂、②0.30m～0.40m が 10YR5/1 褐灰色シルト、③0.40m～0.50m が 10YR7/1 灰白色シルト、④0.50m～0.58m が 10YR6/6 明黄褐色粗粒砂、⑤0.58m～0.64m が 10YR7/1 灰白色シルト、⑥0.64m



国友遺跡第 44 次調査区壁面

～0.86m が 10YR5/1 褐灰色シルト、⑦0.86m～1.02m が 10YR6/1 褐灰色シルト、⑧1.02m～1.22m が 10YR5/1 褐灰色シルト、⑨1.22m 以下が 10YR5/1 褐灰色粗砂であった。最終的に 1.22m まで掘削を行ったが、明確な地山を確認することができなかった。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.30m	①
0.30m～0.40m	②
0.40m～0.50m	③
0.50m～0.58m	④
0.58m～0.64m	⑤
0.64m～0.86m	⑥
0.86m～1.02m	⑦
1.02m～1.22m	⑧
1.22m～	⑨

調査区壁面柱状図

(調査担当：黒坂)

黒田遺跡第 7 次調査 (N2011011) 長浜市木之本町黒田字古んも 639-9

平成 23 年 4 月 15 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 127.23 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、7.5 m²について調査を実施した。



黒田遺跡第 7 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.91m までが 7.5YR3/3 暗褐色礫 (造成土)、②0.91m～1.44m が 7.5Y4/1 灰色極細粒砂、③1.44m～1.71m が N4/灰色極細粒砂であり、④現況面以下 1.71m で検出された N5/灰色礫が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.91m	①
0.91m～1.44m	②
1.44m～1.71m	③
1.71m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：池寄)

古鹿遺跡第2次調査 (N2011190) 北池町字岡西 450、451、452、452-1

平成 24 年 3 月 12 日～3 月 14 日かけて、土砂採取に伴う試掘調査を行った。

対象面積 6709.2 m²に対し 36 ヶ所のトレンチを設定、72 m²について調査を実施した。



古鹿遺跡第2次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.25m までが 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂混極細粒砂、②0.25

m～0.38m が 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂混極

細粒砂、③0.38m～0.50m が 10YR3/2 黒褐色極細粒砂、④現況面以下 0.50m で検出された 2.5Y4/3 暗オリーブ褐色粗粒砂混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構はピット・溝・土坑が検出され、遺物は土師器・須恵器が出土した。

0.00m～0.25m	①
0.25m～0.38m	②
0.38m～0.50m	③
0.50m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

小堀遺跡第6次調査 (N2011162) 小堀町字殿坪 118-1、119-1、120-1 の一部

平成 23 年 12 月 15 日に、老人デイサービス新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 1168 m²に対し 20 ヶ所のトレンチを設定し、40 m²について調査を実施した。

①現況面以下 0.15m までが 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂 (表土)、②0.15m～0.36m が 5Y3/1 オリーブ黒色巨礫・中礫混細粒砂、③0.36

m～0.60m が 5Y3/1 オリーブ黒色中礫混極細粒

砂、④0.60m～0.95m が 7.5Y2/1 黒色巨礫混細

粒砂、⑤現況面以下 0.95m で検出された 7.5Y4/1 灰色粗粒砂が地山であると考えられる。

遺構は土坑・柱穴が確認された。遺物は縄文土器が出土した。

調査の結果を基に協議を行い、遺構を保護するための十分な保護層を設けることができると判断したため、慎重工事対応とした。

(調査担当：池寄)



小堀遺跡第6次調査区壁面

0.00m～0.15m	①
0.15m～0.36m	②
0.36m～0.60m	③
0.60m～0.95m	④
0.95m～	⑤

調査区壁面柱状図

下坂中町遺跡第8次調査 (N2011077) 下坂中町字樋ノ内 290-3、291-2、292-1、293-1、字久保 295

平成 23 年 8 月 29 日に、コンビニエンスストアおよび駐車場建設工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 1,566 m²に対し 2 ヶ所のトレンチを設定し、4.5 m²について実施した。



下坂中町遺跡第8次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.50m までが 10YR4/4 褐色中礫混極細粒砂 (畑土)、②0.50

m～0.90m が 10YR4/1 褐灰色大礫混中礫、③

0.90m～1.35m が 10YR3/2 黒褐色粗粒砂で、④

現況面以下 1.35m で検出された 2.5Y4/1 黄灰色

混 2.5Y4/4 オリーブ褐色粗粒シルトが地山と考

えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0～0.50m	①
0.50m～0.90m	②
0.90m～1.35m	③
1.35m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：山本)

十里町城遺跡第8次調査 (N2011091) 十里町字九の坪 78

平成 23 年 8 月 30 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 1196.21 m²に対し、1ヶ所のトレンチを設定し、2.25 m²について調査を実施した。



十里町城遺跡第8次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.17mまでが 2.5Y3/1 黒褐色細礫混極細粒砂、②0.17m～0.29mが 2.5Y4/3 オリーブ褐色中礫混細粒砂、③0.29m～0.58mが 5Y3/2 オリーブ黒色細礫混極細粒砂、④0.58m～0.79mが 10Y4/1 灰色細礫混極細粒砂、⑤0.79m～0.89mが 10Y5/1 灰色極細粒砂、⑥0.89m～が 10Y4/1 灰色細礫混中礫で、現況面以下 0.79mで検出された 10Y5/1 灰色極細粒砂が地山であると考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.17m	①
0.17m～0.29m	②
0.29m～0.58m	③
0.58m～0.79m	④
0.79m～0.89m	⑤
0.89m～	⑥

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

常住庵遺跡第6次調査 (N2011050) 高月町磯野字里ノ内 435 番の一部

平成 23 年 11 月 1 日に、個人住宅新築工事および蔵移設に伴う試掘調査を行った。

対象面積 665.7 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、3 m²について調査を実施した。



常住庵遺跡第6次調査区全景

調査の結果、①現況面以下 0.10mまでが整理層、②0.10m～0.24mが 10YR4/2 灰黄褐色シルト、③0.24m～0.43mが 10YR6/1 灰褐色シルト、④0.43m～0.58mが 10YR7/6 黄橙色粗粒砂ほかブロック、⑤0.58m～1.15mが 10YR5/1 褐灰色シルト混 10YR8/6 粗粒砂ブロックで、トレンチ全体が攪乱を受けていたため、地山を確認することはできなかった。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.10m	①
0.10m～0.24m	②
0.24m～0.43m	③
0.43m～0.58m	④
0.58m～1.15m	⑤

調査区壁面柱状図

(調査担当：黒坂)

大円寺遺跡第7次調査 (N2011087) 高月町高月字中道 18 番 6

平成 23 年 10 月 24 日に、個人住宅改築工事に伴う試掘調査を行った。



大円寺遺跡第7次調査区壁面

対象面積 88.04 に対し、2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.70mまでが 10YR3/2 黒褐色巨礫混極粗粒砂（造成土）で、②現況面以下 0.70mで検出された 5Y4/1 灰色粗粒シルトが地山であると考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.70m	①
0.70m～	②

調査区壁面柱状図

(調査担当：山本)

高木遺跡第5次調査 (N2011006) 南郷町字ケノ木 315

平成23年11月16日に携帯電話基地局建設に伴う試掘調査を行った。

対象面積174.51㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定、2㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.20mまでが10YR6/1 褐灰色中礫・細礫・細粒砂混シルト、②0.20m～0.30mが10YR6/1 褐灰色大礫・中礫・細礫・細粒砂混シルト、③0.30m～0.35mが10YR2/3 黒褐色大礫・中礫・細礫混シルト、④0.35m～0.65mが10YR4/4 褐色中礫・細礫混シルト、⑤0.65m～0.76mが10YR4/6 褐色中礫・細礫混粗粒砂、⑥0.76m～1.10mが10YR4/6 褐色大礫・中礫・細礫混シルトであり、⑤現況面以下1.10mで検出された10YR4/6 褐色大礫・中礫・細礫ブロック混シルトが地山と考えられる。



高木遺跡第5次調査区壁面

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.30m	②
0.30m～0.35m	③
0.35m～0.65m	④
0.65m～0.76m	⑤
0.76m～1.10m	⑥
1.10m～	⑦

調査区壁面柱状図

(調査担当：黒坂)

塚町遺跡第61次調査 (N2011005) 平方町字切田 250-2

平成23年6月30日に、携帯電話基地局建設に伴う試掘調査を行った。

対象面積55.3㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定、2.25㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.10mまでが2.5Y7/6 明黄褐色中礫、②0.10m～0.93mが2.5Y5/6 黄褐色～10BG5/1 青灰色中礫(造成土)、③0.93m～1.43mが5GY4/1 暗オリーブ灰色極細粒砂、④1.43m～1.88mが2.5GY2/1 黒色中礫混極細粒砂、⑤現況面以下1.88mで検出された5Y3/2 オリーブ黒色中礫が地山であると考えられる。



塚町遺跡第61次調査区壁面

遺構・遺物は確認されなかった。

(調査担当：沢村)

0.00m～0.10m	①
0.10m～0.93m	②
0.93m～1.43m	③
1.43m～1.88m	④
1.88m～	⑤

調査区壁面柱状図

塚町遺跡第62次調査 (N2011094) 平方南町 34 番の一部

平成23年9月8日に、長屋住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積185.55㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定し、2㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.50mまでが2.5Y6/6 明黄褐色大礫混中粒砂(造成土)、②0.50m～1.00mが10BG3/1 暗青灰色細粒砂であり、③現況面以下1.00mで検出された7.5Y4/2 灰オリーブ色中礫混極細粒砂が地山と考えられる。



塚町遺跡第62次調査区壁面

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.50m	①
0.50m～1.00m	②
1.00m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

塚町遺跡第 63 次調査 (N2011152) 平方南町 64

平成 23 年 11 月 30 日に、集合住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 99.37 m² に対し 3 ヶ所のトレンチを設定し、6 m² について調査を実施した。



塚町遺跡第 63 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.05m までがバラスト、②0.05m～0.55m が 5YR5/4 にぶい赤褐色巨礫混粗粒砂(造成土)、③0.55m～0.85m が 10GY4/1 暗緑灰色極細粒砂、④0.85m～1.45m が 10GY5/1 緑灰色極細粒砂であり、⑤現況面以下 1.45m で検出された 7.5GY6/1 緑灰色細粒砂混シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.05m	①
0.05m～0.55m	②
0.55m～0.85m	③
0.85m～1.45m	④
1.45m～	⑤

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

寺元遺跡第 4 次調査 (N2011144) 南田附町字寺元 163 番 3

平成 23 年 11 月 17 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 250.78 m² に対し 1 ヶ所のトレンチを設定、3 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.23m までが N2/黒色(耕土)、②0.23m～0.44m が N3/暗灰色粗粒砂・シルト混極粗粒砂、③0.44m～0.61m が N3/暗灰色粗粒砂混極粗粒砂、



寺元遺跡第 4 次調査区壁面

④0.61m～0.90m が N4/灰色粗粒砂・シルト混極粗粒砂、⑤0.90m～0.98m が N4/灰色粗粒砂混極粗粒砂(木片・炭化物混じる)、⑥0.98m～1.07m が N4/灰色シルト、⑦1.07m～1.19m が N4/灰色粗粒砂混極粗粒砂、⑧1.19m～1.30m が N4/灰色極粗粒砂・粗粒砂混シルトであり、現況面以下 0.98m で検出された⑥N4/シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.23m	①
0.23m～0.44m	②
0.44m～0.61m	③
0.61m～0.90m	④
0.90m～0.98m	⑤
0.98m～1.07m	⑥
1.07m～1.19m	⑦
1.19m～	⑧

調査区壁面柱状図

(調査担当：黒坂)

渡岸寺遺跡第 15 次調査 (N2011015) 高月町渡岸寺字寺前 12

平成 23 年 4 月 26 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 362 m² に対し 5 ヶ所のトレンチを設定し、10.6 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.20m までが 10YR3/2 黒褐色中粒砂混極細粒砂、②0.20m～0.30m が 2.5Y4/1 黄褐色～2.5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂、③現況面以下 0.30m で検出された 10YR4/4 褐色極細粒砂が地山と考えられる。



渡岸寺遺跡第 15 次調査区壁面

遺構は、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝状遺構、柱穴を検出した。遺物は、土師器、須恵器が出土した。

調査結果を基に協議を行い、引き続き本発掘調査を実施することとなった。調査内容については、第 1 章第 3 節を参照されたい。

(調査担当：沢村)

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.30m	②
0.30m～	③

調査区壁面柱状図

渡岸寺遺跡第 17 次調査 (N2011069) 高月町渡岸寺 212 番 1



渡岸寺遺跡第 17 次調査区壁面

平成 23 年 8 月 2 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 909 m²に対し 6 ヶ所のトレンチを設定し、15 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 10YR5/1 褐灰色細粒砂、②現況面以下 0.30m で検出された 10YR5/6 黄褐色極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.30m	①
0.30m～	②

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

長浜城遺跡第 215 次調査 (N2011009) 港町字川口 281

平成 23 年 4 月 27 日に、共同住宅建設工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 320 m²に対し 2 ヶ所のトレンチを設定し、13.6 m²について調査を実施した。



長浜城遺跡第 215 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.40m までが 10YR4/4 褐色大礫・中礫混細粒砂（造成土）、②0.40m～0.85m が 7.5Y3/1 オリーブ黒色中礫混細粒砂であり、③現況面以下 0.85m で検出された 7.5Y4/1 灰色中礫混中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.40m	①
0.40m～0.85m	②
0.85m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：山本)

長浜城遺跡第 216 次調査 (N2011025) 公園町字西守田 494-5 の一部、字葭立場 513-3

平成 23 年 7 月 15 日に、共同住宅建設に伴う試掘調査を行った。

対象面積 207.13 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定し、5.25 m²について調査を実施した。



長浜城遺跡第 216 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.60m までが 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫混極細粒砂、②0.60m～1.10m が 10YR3/1 黒褐色中礫混細粒砂、③1.10m～1.40m が 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂、④現況面以下 1.40m で検出された 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.60m	①
0.60m～1.10m	②
1.10m～1.40m	③
1.40m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

長浜城遺跡第 217 次調査 (N2011112) 北船町字殿町 141 番 2

平成 23 年 10 月 7 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 173.64 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。



長浜城遺跡第 217 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.35m までが 5Y2/2 オリーブ黒色極細粒砂、②0.35m～0.50m が 5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂、③0.50m～1.10m が 5Y5/3 灰オリーブ色極細粒砂であり、④現況面以下 1.10m で検出された 5Y5/4 オリーブ色シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.35m	①
0.35m～0.50m	②
0.50m～1.10m	③
1.10m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

長浜城遺跡第 218 次調査 (N2011039) 南呉服町 2-13

平成 23 年 6 月 9 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 144 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、3 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.05m まで 2.5Y5/6 黄褐色中礫が、②0.05m～0.40m が



長浜城遺跡第 218 次調査区壁面

5Y4/2 灰オリーブ色中礫混極細粒砂、③0.40m～0.65m が N3/暗灰色細粒砂、④0.65m～0.80m が 2.5GY2/1 黒色細粒砂、⑤0.80m～0.95m が 10GY6/1 緑灰色中粒砂、⑥0.95m～1.10m が 10GY6/1 緑灰色中礫～細粒砂であり、⑦現況面以下 1.10m で検出された 10GY6/1 緑灰シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.05m	①
0.05m～0.40m	②
0.40m～0.65m	③
0.65m～0.80m	④
0.80m～0.95m	⑤
0.95m～1.10m	⑥
1.10m～	⑦

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

長浜城遺跡第 219 次調査 (N2011046) 園町字北中島 1413、1414、1415

平成 23 年 6 月 15 日に、店舗新築工事に伴う試掘調査を行った。



長浜城遺跡第 219 次調査区壁面

対象面積 2020.61 m²に対し 3ヶ所のトレンチを設定し、11.25 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.75m までが 2.5Y2/1 黒褐色細粒砂、②0.75m～1.10m が 2.5Y3/1 黒褐色中粒砂であり、③現況面以下 1.10m で検出された 7.5Y3/1 オリーブ黒色粗粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.75m	①
0.75m～1.10m	②
1.10m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

長浜城遺跡第 222 次調査 (N2011062) 北船町 86 番

平成 23 年 8 月 3 日に、長屋住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。



長浜城遺跡第 222 次調査区壁面

対象面積 105.78 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定し、3 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.25 m までが 10YR6/1 褐灰色細礫、②0.25 m～0.60 m が 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂であり、③現況面以下 0.60 m で検出された 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.25m	①
0.25m～0.60m	②
0.60m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

長浜城遺跡第 224 次調査 (N2011085) 南呉服町字蓮池 368 番地 2・369 番地 4

平成 23 年 8 月 23 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 155.98 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定、3 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.06 m までが 5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂、②0.06 m～0.18 m が 5Y4/2 灰オリーブ色細粒砂、③0.18 m～0.23 m が 10Y5/1 灰色極細粒砂、④



長浜城遺跡第 224 次調査区壁面

0.23 m～0.36 m が 2.5Y4/1 黄灰色極細粒砂、⑤0.36 m～0.72 m が 2.5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂、⑥0.72 m～0.87 m が 7.5Y5/1 灰色細礫少混シルト、⑦0.87 m～1.05 m が 7.5Y5/1 灰色細礫混シルト、⑧1.05 m～1.40 m が 5Y5/1 灰色シルトであり、⑨現況面以下 1.40 m で検出された 10Y6/1 灰色粘土が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.06m	①
0.06m～0.18m	②
0.18m～0.23m	③
0.23m～0.36m	④
0.36m～0.72m	⑤
0.72m～0.87m	⑥
0.87m～1.05m	⑦
1.05m～1.40m	⑧
1.40m～	⑨

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

長浜城遺跡第 231 次調査 (N2011170) 元浜町 26-6

平成 24 年 2 月 14 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 119.02 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定し、10 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.05 m までが 10YR4/2 灰黄褐色礫混極細粒砂、②0.05 m～0.65 m が 2.5Y4/3 オリーブ褐色中礫混極粗粒砂、③0.65 m～1.05 m が 7.5GY4/1 暗緑灰色中粒シルトであり、④現況面以下 1.05 m～1.70 m で検出されたオリーブ黒色粗粒砂混粗粒シルトが堀の埋土と考えられる。



長浜城遺跡第 231 次調査区壁面

遺構は、長浜城の外堀が確認された。遺物は、磁器が出土した。

0.00m～0.05m	①
0.05m～0.65m	②
0.65m～1.05m	③
1.05m～1.70m	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：池寄)

長浜城遺跡第 220 次調査・南呉服町遺跡第 11 次調査 (N2011058)

北船町字殿町 111-3 の一部

平成 23 年 7 月 13 日に、駅前ビル新築工事に伴う試掘調査を実施した。



長浜城遺跡第 220 次調査・
南呉服町遺跡第 11 次調査区壁面

対象面積 744.56 m²に対し 3ヶ所のトレンチを設定し、9.6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 10YR6/1 褐灰色改良土、②0.30m～1.60m が 10YR4/2 灰黄褐色中礫混細粒砂であり、③現況面以下 1.60m で検出された 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.30m	①
0.30m～1.60m	②
1.60m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

長浜町遺跡第 124 次調査 (N2011021) 元浜町 546

平成 23 年 5 月 13 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 277.68 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、3 m²について調査を実施した。



長浜町遺跡第 124 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.35m までが 10YR4/2 灰黄褐色巨礫・中礫混細粒砂、②0.35m～0.60m が 2.5Y4/1 黄灰色中礫混細粒砂、③0.60m～0.90m が 10YR4/1 褐灰色中粒砂混細粒砂であり、④現況面以下 0.90m で検出された 7.5YR6/6 橙色中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.35m	①
0.35m～0.60m	②
0.60m～0.90m	③
0.90m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

中町田遺跡第 16 次調査 (N2011110) 七条町字北矢ノ町

平成 23 年 10 月 6 日に、駐車場造成に伴う試掘調査を実施した。



中町田遺跡第 16 次調査区壁面

対象面積 1783.98 m²に対し 9ヶ所のトレンチを設定し、18 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.12m までが 10YR3/1 黒褐色細礫混極細粒砂(耕土)、②0.12m～0.35m が 10YR3/2 黒褐色極細粒砂であり、③現況面以下 0.35m で検出された 10Y4/1 灰色中礫・粗粒砂混粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.12m	①
0.12m～0.35m	②
0.35m～	③

調査区壁面柱状図

(調査担当：池寄)

中町田遺跡第 17 次調査 (N2011111) 七条町字北矢ノ町

平成 23 年 10 月 6 日に、店舗新築工事に伴う試掘調査を実施した。

対象面積 499 m²に対し 2 ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。



中町田遺跡第 17 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.15m までが 10YR3/1 黒褐色細礫混極細粒砂（耕土）、②0.15m～0.40m が 10YR3/2 黒褐色極細粒砂、③0.40m～0.50m が 2.5Y3/1 黒褐色粗粒シルトであり、④現況面以下 0.50m で検出された 10Y4/1 灰色粗粒砂混粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.15m	①
0.15m～0.40m	②
0.40m～0.50m	③
0.50m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：池寄)

西野城遺跡第 1 次調査 (N2011053) 高月町西野字里ノ内 1856 番 1、1856 番 2、1857 番、1858 番

平成 23 年 7 月 25 日に、個人住宅新築に伴う試掘調査を行った。



西野城遺跡第 1 次調査区壁面

対象面積 63.76 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定し、3 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.40m までが 2.5Y6/6 明黄褐色中粒砂混極細粒砂であり、②現況面以下 0.40m で検出された 10YR4/4 褐色極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.40m	①
0.40m～	②

調査区壁面柱状図

(調査担当：牛谷)

野瀬遺跡第 43 次調査 (N2011145) 口分田町字的場 846 番、847 番、848 番、849 番 1、850 番 1

平成 23 年 11 月 29 日に、宅地造成に伴う試掘調査を行った。

対象面積 420 m²に対し 7 ヶ所のトレンチを設定し、14 m²について調査を実施した。



野瀬遺跡第 43 次調査区壁面

調査の結果、①現況面以下 0.20m までが 5Y4/1 灰色細粒砂、②0.20m～0.35m が 7.5Y4/1 灰色極細粒砂、③0.35m～0.60m が 10Y4/1 灰色極細粒砂であり、④現況面以下 0.60m で検出された 5G4/1 暗緑灰色細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.35m	②
0.35m～0.60m	③
0.60m～	④

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

野田館遺跡第1次調査 (N2011013) 野田町字門庄司 284 番

平成 23 年 6 月 10 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 341.55 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、1.8 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.10m までが 2.5Y5/4 黄褐色中礫、②0.10m～0.28m が



野田館遺跡第1次調査区壁面

2.5Y3/1 黒褐色中礫混極細粒砂、③0.28m～0.44m が 2.5Y4/3 オリーブ褐色中礫混極細粒砂、④0.44m～0.60m が 2.5Y4/1 黄灰色中礫混極細粒砂であり、⑤0.60m から 0.80m が 2.5Y5/3 黄褐色中礫混極細粒砂、⑥0.80m から 0.90m が 2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂であり、⑦現況面以下 0.90m で検出された 2.5Y7/4 浅黄色極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.10m	①
0.10m～0.28m	②
0.28m～0.44m	③
0.44m～0.60m	④
0.60m～0.80m	⑤
0.80m～0.90m	⑥
0.90m～	⑦

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

三田遺跡第4次調査 (N2011014) 三田町字式ノ窪 508-1

平成 23 年 4 月 22 日に、農業倉庫新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 53.61 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、1.5 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.50m までが 10YR6/6 明黄褐色大礫混細粒砂(造成土)、



三田遺跡第4次調査区壁面

②0.50m～0.67m が 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中礫混細粒砂(造成土)、③0.67m～0.75m が 10Y4/1 灰色中礫混細粒砂、④0.75m～0.95m が 10Y5/1 灰色細粒砂であり、⑤現況面以下 0.95m で検出された 10Y4/1 灰色中礫混粗粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

0.00m～0.50m	①
0.50m～0.67m	②
0.67m～0.75m	③
0.75m～0.95m	④
0.95m～	⑤

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

宮司遺跡第85次調査 (N2011178) 宮司町字茶ノ木 1125 番2

平成 24 年 3 月 19 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。



宮司遺跡第85次調査区壁面

対象面積 369.42 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色大礫混粗粒砂であり、②現況面以下 0.30m で検出された 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色細礫混細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった

0.00m～0.30m	①
0.30m～	②

調査区壁面柱状図

(調査担当：沢村)

山階遺跡第 12 次調査 (N2011038) 山階町字前町 652 番、652 番 1

平成 23 年 6 月 7 日に、事務所新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 96.1 m²に対し 2 ヶ所のトレンチを設定し、4.4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.20m までが 10YR5/6 黄褐色中礫、②0.20m～0.30m が 5Y4/1 灰色極細粒砂、③0.30m～0.59m が 5Y6/2 灰オリーブ色細粒砂、④0.59m～0.84



山階遺跡第 12 次調査区壁面

m が 2.5Y4/2 暗灰黄色中礫混シルト、⑤0.84m～0.98m が 2.5Y4/1 黄灰色中礫混極細粒砂、⑥0.98m～1.05m が N4/灰色極細粒砂、⑦1.05m～1.12m が 2.5GY2/1 黒色極細粒砂であり、⑧現況面以下 1.12m で検出された 10GY6/1 緑灰色中礫混中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

(調査担当：沢村)

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.30m	②
0.30m～0.59m	③
0.59m～0.84m	④
0.84m～0.98m	⑤
0.98m～1.05m	⑥
1.05m～1.12m	⑦
1.12m～	⑧

調査区壁面柱状図

列見城遺跡第 7 次調査 (N2011146) 三ツ矢元町字マトバ 1148-22

平成 23 年 11 月 24 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 139.41 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定、2 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 10YR2/1 黒色極粗粒砂、②0.30m～0.54



列見城遺跡第 7 次調査区壁面

m が 10YR6/3 にぶい黄橙色極粗粒砂、③0.54m～0.64m が 10YR7/1 灰白色シルト、④0.64m～0.81m が 10YR5/1 褐灰色シルト、⑤0.81m～1.20m が 10YR7/1 灰白色シルトであり、⑥現況面以下 1.20m で検出された 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトが地山と考えられる。

遺構は、溝状遺構、柱穴等が確認された。

調査結果を基に協議を行い、引き続き本発掘調査を実施することとなった。調査内容については、第 1 章第 4 節を参照されたい。

(調査担当：黒坂)

0.00m～0.30m	①
0.30m～0.54m	②
0.54m～0.64m	③
0.64m～0.81m	④
0.81m～1.20m	⑤
1.20m～	⑥

調査区壁面柱状図

列見町遺跡第 34 次調査 (N2011180) 列見町 261-1・262-1

平成 24 年 2 月 15 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 156.14 m²に対し 1 ヶ所のトレンチを設定、2 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.70m までが 2.5Y4/1 黄灰色大礫混粗粒砂（造成土・攪乱）、②現況面以下 0.70m で検出された 10Y7/1 灰白色細粒砂が地山と考えられる。

遺構は、溝状遺構、土坑、柱穴が確認された。

遺物は、出土しなかった。

調査結果を基に協議を行った結果、引き続き本発掘調査を実施することとなった。調査内容については、第 1 章第 5 節を参照されたい。

(調査担当：沢村)



列見町遺跡第 34 次遺構検出状況

0.00m～0.70m	①
0.70m～	②

調査区壁面柱状図

図 版



高月南遺跡第 34 次調査
遺構完掘状況 西から



高月南遺跡第 35 次調査
遺構完掘状況 東から



高月南遺跡第 35 次調査
遺物出土状況 西から



高月南遺跡第 36 次調査
遺構検出状況 西から



高月南遺跡第 36 次調査
遺構完掘状況 西から



高月南遺跡第 38 次調査
遺構検出状況 西から



高月南遺跡第 38 次調査
遺構完掘状況 西から



渡岸寺遺跡第 15 次調査
遺構検出状況 西から



渡岸寺遺跡第 15 次調査
遺構完掘状況 西から



渡岸寺遺跡第 15 次調査
SB1 完掘状況 北から



渡岸寺遺跡第 15 次調査
SB2 完掘状況 北から



渡岸寺遺跡第 15 次調査
SB3 完掘状況 南東から



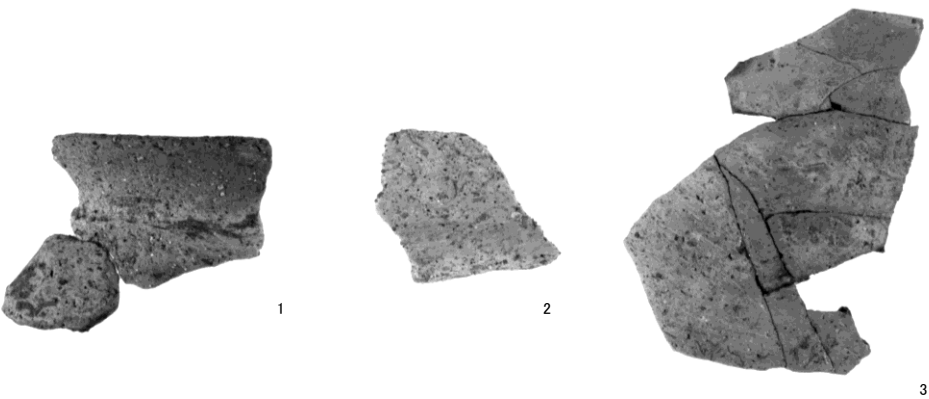
列見城遺跡第7次調査
遺構検出状況 南から



列見城遺跡第7次調査
遺構完掘状況 南から



列見町遺跡第34次調査
遺構完掘状況 西から

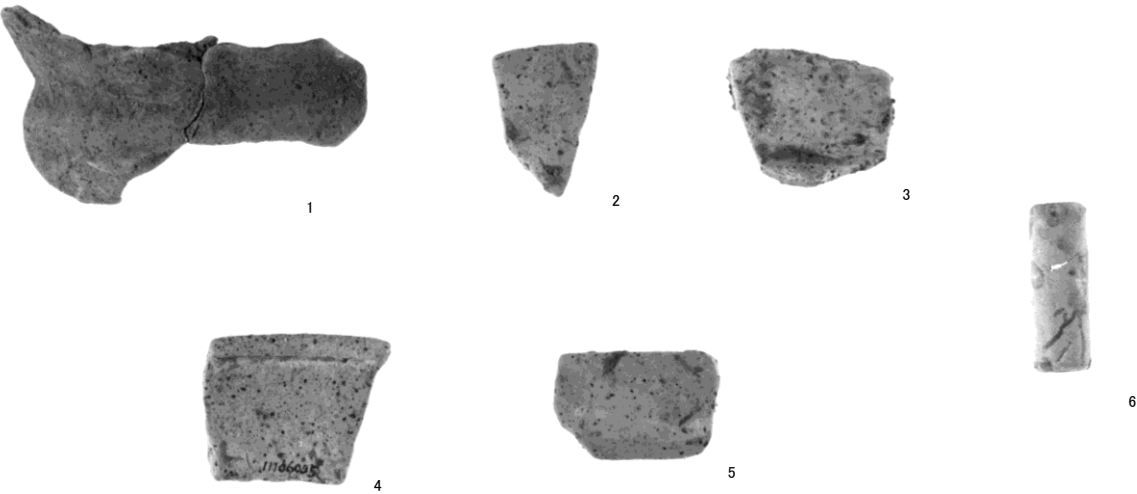


高月南遺跡第 34 次発掘調査出土遺物

高月南遺跡第 34 次発掘調査出土遺物



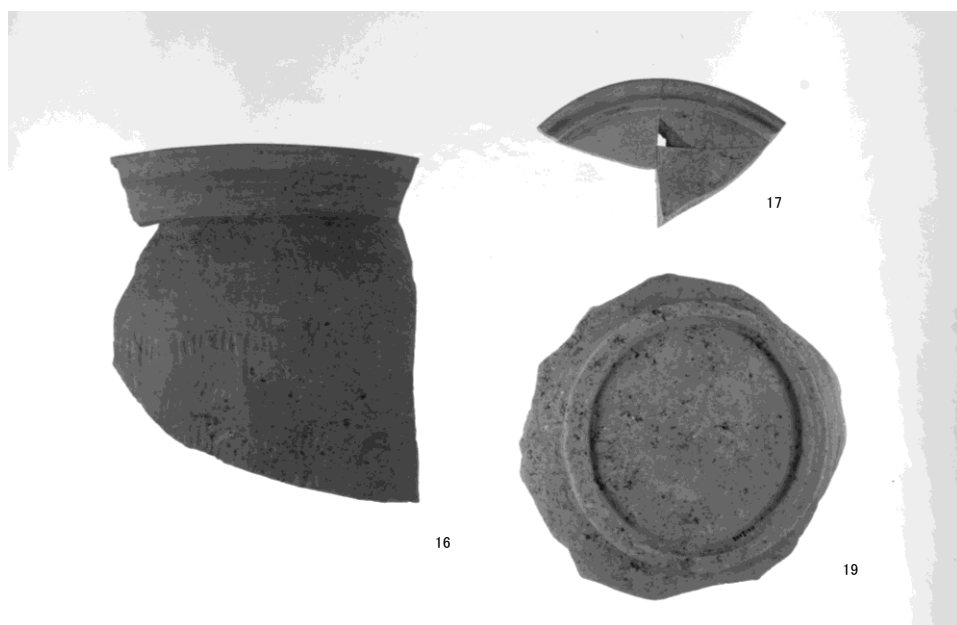
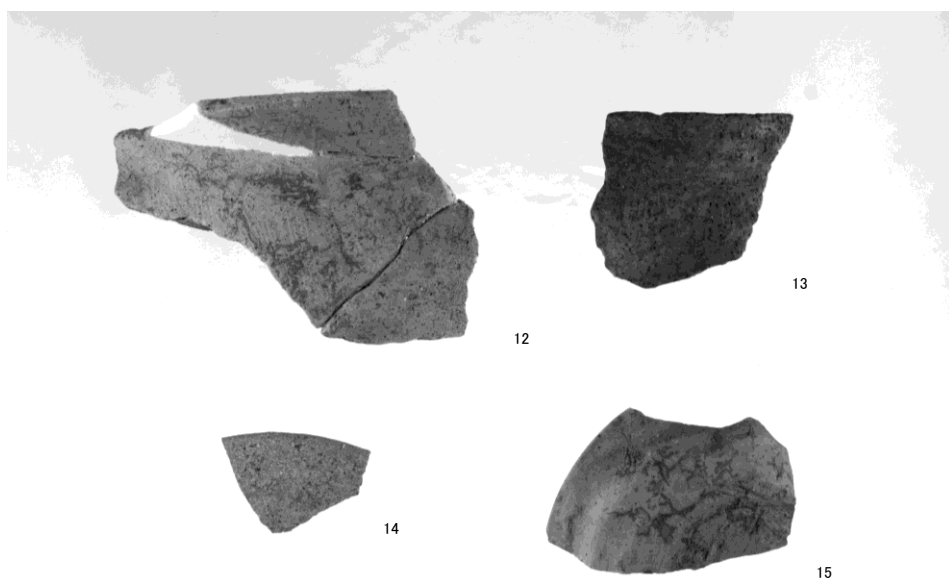
高月南遺跡第 35 次発掘調査出土遺物



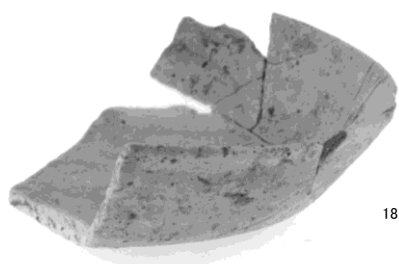
高月南遺跡第 36 次発掘調査出土遺物



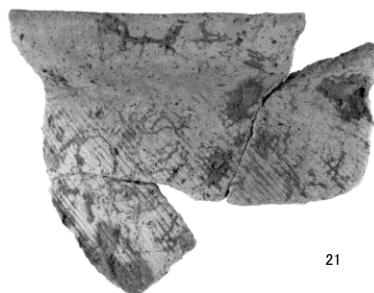
渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物(1)



渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物(2)



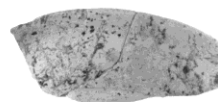
18



21



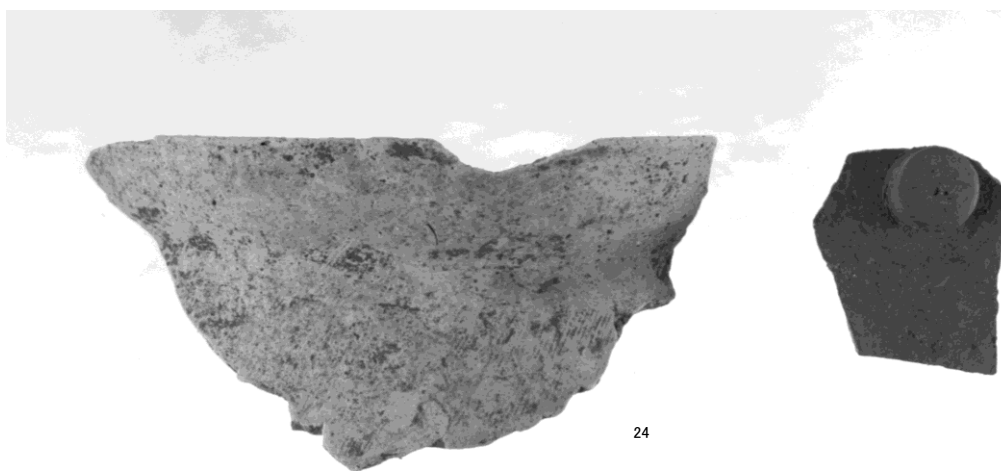
22



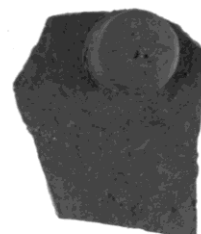
20



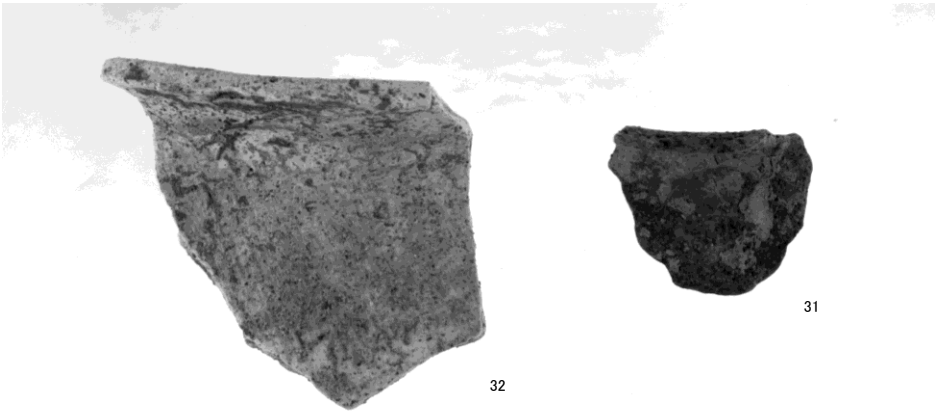
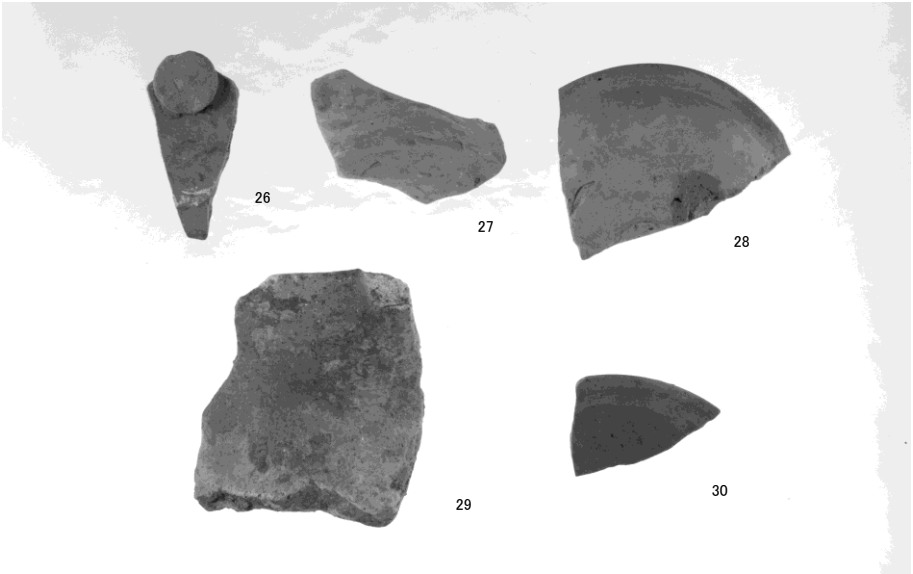
23



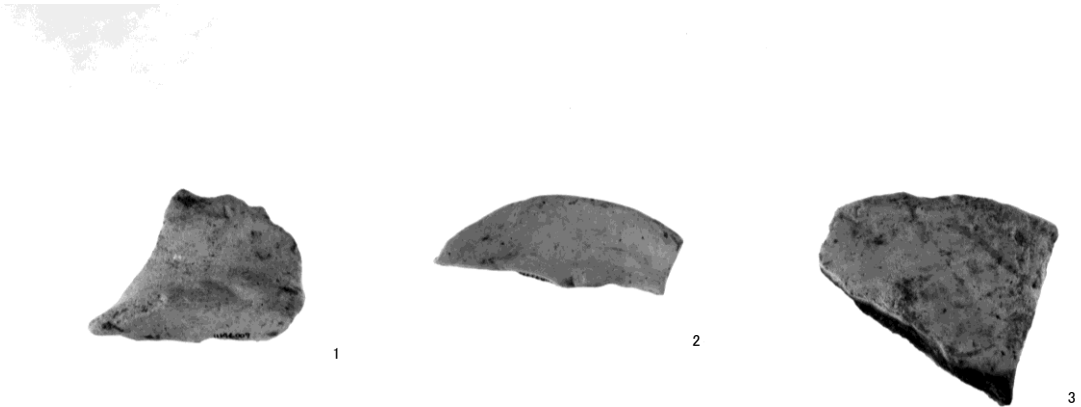
24



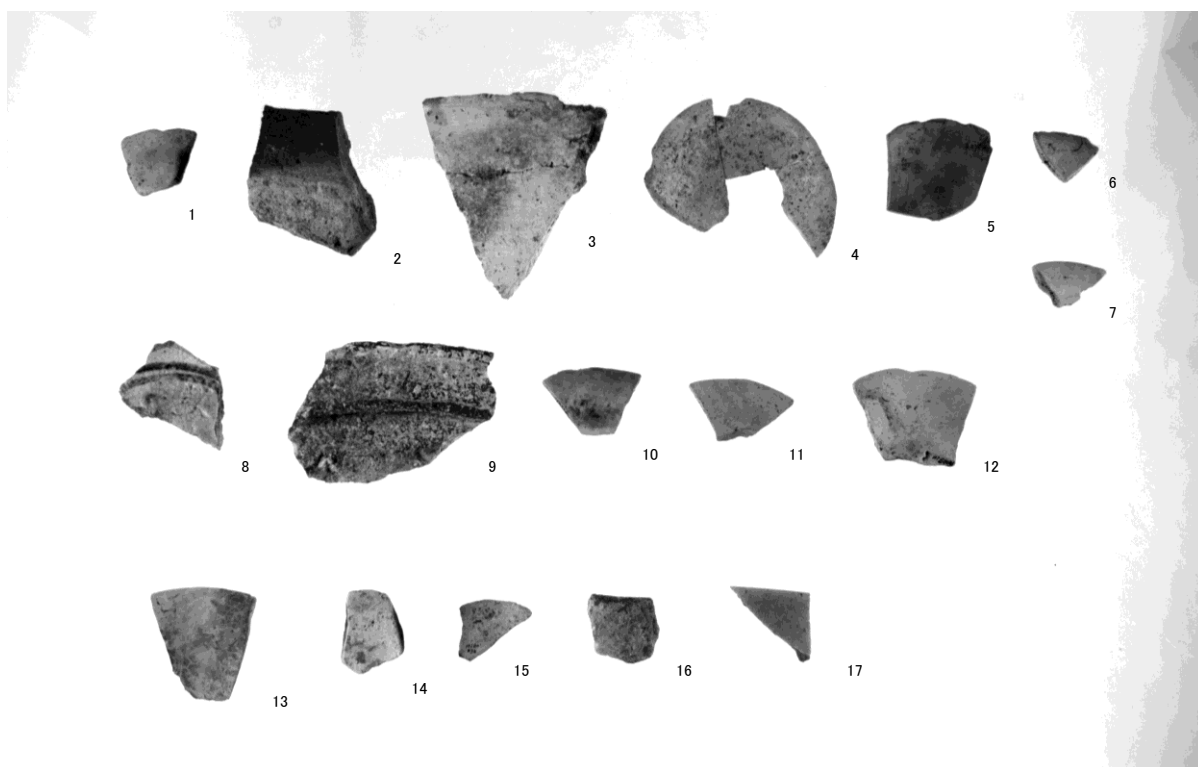
25



渡岸寺遺跡第 15 次発掘調査出土遺物(4)



列見城遺跡第7次発掘調査出土遺物



列見町遺跡第34次発掘調査出土遺物

2012 年 12 月

長浜市埋蔵文化財調査資料 第 138 集

平成 23 年度

小規模開発関連発掘調査報告書

編集・発行 滋賀県長浜市教育委員会 文化財保護センター

滋賀県長浜市東上坂町 981

TEL0749-64-0395 FAX0749-62-6357

印 刷 有限会社おぎした印刷